

県立高等学校教育課程課題研究（英語）

学習指導要領の改訂により、英語教育においては、言語活動を中心に据えた授業の中で、コミュニケーションを図ろうとする資質・能力がどれほど身に付いたかを、目標に照らして三つの観点で評価していくことがより一層求められることとなった。本研究では、令和3年度はパフォーマンステストを3観点で評価する際のルーブリックについて研究を進めてきた。単元の目標への到達度を測るためのパフォーマンステストの設定の仕方、パフォーマンステストで適切な評価を行うためのルーブリックの在り方について実践例とともに紹介する。

<検索用キーワード> 観点別評価 学習到達目標 パフォーマンステスト ルーブリック
話すこと [やり取り] 話すこと [発表] 書くこと

運営委員長

愛知県立知立東高等学校長 川澄 誠（令和3年度）

運営副委員長

愛知県立時習館高等学校教頭 齋藤 隆弘（令和3年度）

運営委員

高等学校教育課課長補佐 井上 猛（令和3年度）

高等学校教育課指導主事 森本 芳裕（令和3年度）

高等学校教育課指導主事 竹内 賢一（令和3年度）

高等学校教育課指導主事 藤原 一博（令和3年度）

総合教育センター研究指導主事 佐々木 香（令和3年度）

総合教育センター研究指導主事 武田 邦生（令和3年度）

総合教育センター教科研究室長 内山 真一（令和3年度主務者）

研究員

愛知県立惟信高等学校教諭 久納 知幸（令和3年度）

愛知県立中村高等学校教諭 池田 達哉（令和3年度）

愛知県立天白高等学校教諭 磯部 智洋（令和3年度）

愛知県立岩倉総合高等学校教諭 藤本 貴之（令和3年度）

愛知県立尾西高等学校教諭 岩本 修（令和3年度）

愛知県立杏和高等学校教諭 山崎 綾子（令和3年度）

愛知県立大府東高等学校教諭 榊原 啓文（令和3年度）

愛知県立岡崎高等学校教諭 市川 雅之（令和3年度）

愛知県立岩津高等学校教諭 荻窪 雄太（令和3年度）

愛知県立幸田高等学校教諭 戸田 康弘（令和3年度）

愛知県立吉良高等学校教諭 杉浦 修平（令和3年度）

愛知県立知立東高等学校教諭 森島 崇（令和3年度）

1 はじめに

平成 30 年に高等学校学習指導要領が改訂され、令和 4 年度から年次進行で実施されることとなっている。今回の改訂では、身に付けさせたい資質・能力が三つの柱で整理され、評価規準も三つの観点に整理された。英語教育においては、言語活動を中心に据えた授業の中で、コミュニケーションを図ろうとする資質・能力がどれほど身に付いたかを、目標に照らして三つの観点で評価していく必要がある。そのため、目標に準拠した評価、観点別評価がこれからの高等学校の教育では今まで以上に求められることになる。

内容のまとまりも、これまでの 4 技能から 5 領域に改められた。特に、「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」「書くこと」の領域では、パフォーマンステストの結果を基に評価を行うことが考えられる。愛知県英語教育改善プランでは、令和 3 年度の重点目標の一つに「各学校におけるパフォーマンステストとして、スピーキングテスト及びライティングテストを令和 3 年度までに各科目において年間 3 回以上実施する」ことが挙げられている。パフォーマンステストを確実に実施し、適切な評価を行っていくことが今後の授業改善につながり、ひいては生徒の学力向上にも大きく貢献することとえられる。

このような状況を踏まえ、県立高等学校教育課程課題研究（英語）では令和元年度より、パフォーマンステストについて研究を進めてきた。令和元年度は、パフォーマンステストを導入する際の留意点について研究し、Q&A 形式のリーフレットを作成した。令和 2 年度は、パフォーマンステストにいたる指導方法について研究し、eラーニング教材を作成した。令和 3 年度は、パフォーマンステストを 3 観点で評価する際のルーブリックについて研究を進めてきた。本研究では、単元の目標への到達度を測るためのパフォーマンステストの設定の仕方、パフォーマンステストで適切な評価を行うためのルーブリックの在り方について実践例とともに紹介する。

2 研究の目的

「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」「書くこと」の三つの領域における学習到達目標と評価規準を提示し、「おおむね満足できる姿」をルーブリックとして具体的に示す。また、県内の高等学校でのパフォーマンステストの更なる充実（質の向上、実施率の増加）に資することを目指す。

3 研究の方法

- (1) 「話すこと [発表]」「話すこと [やり取り]」「書くこと」の三つの班に分かれ、単元で身に付けさせるべき資質・能力を測るためのパフォーマンステストとルーブリックの例を提案する。
- (2) 実践報告を基に研究協議を行い、提案したパフォーマンステストとルーブリックの成果と課題についてまとめる。

4 研究の内容

(1) 話すこと [やり取り] 班 愛知県立中村高等学校の実践

本実践では、Which is more important for good health: a regular exercise program or a balanced diet?というテーマについてディスカッションをするパフォーマンステストを行った。

指導の段階で、OREO (Opinion-Reason-Example-Opinion) の論理構成と理由を述べる際に有用な表現を指導したことにより、生徒は社会的な話題をやり取りする際に、論拠とともに自分の意見を述べることができるようになった。パフォーマンステストは 3 人のグループで行った。生徒のやり取りをタブレット端末で録画するとともに、ICレコーダで録音した。評価の際には、ルーブリックをALTと共有

して共同で評価をしたことで、パフォーマンステストの評価の信頼性を高めることができた。課題としては、評価をするのに多くの時間がかかったことが挙げられる。ICT機器を有効活用し、効率的に評価を行う方法を探る必要がある。

(2) 話すこと〔やり取り〕班 愛知県立岩倉総合高等学校の実践

本実践では、教科書で扱った環境に関するトピックで、2分30秒以上会話を継続させることを目標にパフォーマンステストを行った。

指導の過程で継続的にSmall Talkに取り組みさせることにより、さまざまな話題について質問したり、適切に応答したりする力の育成を目指した。活動の初期段階では数多くの質問例を提示したが、段階的に質問例の数を減らし、最終的には質問例がなくても会話を継続できるように指導を行った。

パフォーマンステストは、実施の一週間前にルーブリックを提示し、生徒が自ら見通しを立てて学習ができるように配慮した上で実施した。ルーブリックの評価項目に「Fluency(なめらかさ)」を設定し、ルーブリックによる評価結果と生徒の振り返りから、「主体的に学習に取り組む態度」の面での学習改善の手がかりを見つけることを試みた。生徒は、自らの学習成果から、次への課題を見出すことができた。今後は、これらの生徒の気づきを今後の学習改善に生かすために、具体的にどのような方策をとっていくかを明らかにしていくことが課題である。

(3) 話すこと〔やり取り〕班 愛知県立大府東高等学校の実践

本実践では、環境保護のために自分ができることについてディスカッションをするパフォーマンステストを行った。日々の授業の帯活動としてSmall Discussionを行い、使用できる表現やディスカッションの方法を練習させた。また、ロイロノート・スクール(株式会社LoiLo,以下「ロイロノート」と表記)を利用して振り返りを適宜提出させ、学習に取り組む態度の向上も図った。パフォーマンステストのテーマは事前に発表しておいたが、ある程度の即興性を担保するために、グループ編制は当日発表することとした。パフォーマンステスト終了後には自己評価させた上で教師からのフィードバックも与え、学習方法の改善を図った。パフォーマンステスト後のアンケートでは、多数の生徒が「ディスカッションにおいて、自分の意見を言える」ようになったと回答し、英語力の向上のみならず、情緒面での向上も得られる結果となった。

(4) 話すこと〔やり取り〕班 愛知県立岩津高等学校の実践

本実践では、「もし自分がオーストラリアの首相だとしたら、Uluru(エアーズロック)に登ることを禁止するか」についてペアで話し合うパフォーマンステストを行った。このテーマは、教科書で観光産業の発展と観光地の保護について学んだ単元の学習到達度を図るために設定したものである。

ルーブリックでは、主に、相づちのように会話を円滑に進める表現を自然に使うことができること、自分の意見を理由や根拠とともに述べるができること、相手の意見に合わせた反論ができることなどを評価することとした。普段の授業の中でコミュニケーション活動を行う際に相づちなどの表現を使わせたり、自分の意見を伝え合ったりする際には理由や根拠とともに話すように促すことを、他の科目とも共通して継続的に行った。

その結果、「相手の意見に合わせた反論をすることができる」に関しては少し課題が残ったものの、ほとんどの生徒が「十分満足できる」又は「おおむね満足できる」状況と判断され、指導の成果と今後の課題をパフォーマンステストの結果により確認することができた。

(5) 話すこと〔発表〕班 愛知県立惟信高等学校の実践

本実践では、ALTの要望に沿った誕生日プレゼントを紹介するというパフォーマンステストを行った。生徒の興味関心を踏まえたテーマにするために、ALTに書いてもらった要望書を基にどのような

プレゼントを選ばよいかを考えさせた。また、教科書よりも詳細に目的・場面・状況を設定して生徒が活動しやすいように留意した。指導の際には、モデルプレゼンテーションを視聴させてプレゼンテーションのポイントを確認させた後に、何ができていれば「a」評価となるかを生徒に考えさせた。この結果、生徒に評価の観点をより具体的に認識させるとともに、ルーブリックの改良にもつながった。

パフォーマンステストは、生徒がタブレット端末で録画した動画を Microsoft Teams にアップロードする形式とした。タブレット端末を活用することで同時に多人数が発表できるため、効率的に実施できるという効果だけでなく、生徒の主体的に学習に取り組む態度の向上や評価の信頼性の確保にも効果を上げることが分かった。

(6) 話すこと〔発表〕班 愛知県立杏和高等学校の実践

英語表現 I において、単元のまとめとして「長友選手が世界で活躍するまでの道のりについて、書かれた文章の内容を活用しながら、長友選手の経験や思いを想像して発表する」という言語活動を設定して、指導とパフォーマンステストを行った。パフォーマンステストは、インタビュー形式のロールプレイを行った。トーク番組に出演する長友選手と番組司会者というペアを設定した。

9時間で完了する単元の7時間目をパフォーマンステストの準備とし、ペアでインタビューの原稿の作成と練習を行った。原稿はロイロノートで提出させたため、生徒は自宅でも十分に練習することができた。8時間目にロールプレイでの役割を発表し、パフォーマンステストを実施した。十分な練習時間を取った上でロールプレイの様子を動画撮影し、ロイロノートで提出させた。9時間目は提出された動画の発表会を行い、生徒同士の相互評価とフィードバックを行った。ルーブリックは事前に配付し、生徒が見通しをもって学習に取り組めるようにした。また、「積極的に英語をたくさん話す」ことを重視したため、「accuracy（正確さ）」については最低限伝わる英語という観点のみで評価することとした。

今回の実践により、単元の最終タスクであるパフォーマンステストに向けて主体的に活動する生徒の姿が見られ、内容理解が深まったことが分かった。今後は、評価の効率化、PDCAサイクルの確立などを目指していきたい。

(7) 話すこと〔発表〕班 愛知県立岡崎高等学校の実践

本実践では、三浦公亮氏が発明したミウラ折りと通常の折り方の違いについて発表するパフォーマンステストを行った。生徒が言語活動を通して学習した語句や表現を、自分の考えを伝えるために自発的に使用する場を設けるために、単元の内容について実際に作業、体験、観察をして、考察したことを発表するものとした。ルーブリックについては「主体的に学習に取り組む態度」の評価に、事前に学習したプレゼンテーションの型に則っているかという項目を含めた。実践の結果、生徒は教科書で扱った語句や表現を知識として覚えるだけでなく、活用することができていた。また、プレゼンテーションの型に則って発表をするという成果が得られた。反対に、一人当たりの発表時間が短かったため、録画して提出する方法が考えられるものの、録画の方式では聴衆に対するアイコンタクトができないことや質疑応答の時間が取れないことなどの課題が残った。

(8) 話すこと〔発表〕班 愛知県立吉良高等学校の実践

本実践では、英語表現 I の授業において、書いたことを基に発表するというパフォーマンステストを行った。パフォーマンステスト前時に、「学校のルールを三つ、助動詞を用いて述べる」活動を行い、次の時間に「理想とする学校のルールを理由とともに述べる」というパフォーマンステストを行った。ルーブリックについては、「思考・判断・表現」の観点で、「①助動詞を使って理想とする学校のルールを一つ示している」「②10語以上使用している」「③なぜそのルールにしたのか理由を述べている」の三つの条件を設定した。指導したことを評価することと、条件を詳細に設定したことで判断基準が明確にな

り、評価を行いやすくなった。反対に、指導を十分に行わなかった事項は評価の際に判断に迷うという課題も明らかになった。

(9) 書くこと班 愛知県立天白高等学校の実践

本実践では、教科書を読んで考えたことや感じたことを理由とともに書くというパフォーマンステストを実施した。「海外を訪れた際にその土地の文化に順応するか」というテーマで80語以上書くというものである。このテストは定期考査の一部として実施した。指導の際にはGoogle Classroomを活用し、教師による添削や生徒同士の意見の共有を行うことで、表現方法や内容面の充実を図った。

ルーブリックには、「意見とそれに対応する理由とサポート文が書かれている」「他の生徒の考えや表現を参考にしながら、内容を充実させている」の2点で「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価した。また、Google Classroomに自分の意見や質問を投稿したかどうかで「主体的に学習に取り組む態度」を評価した。

以前に同様のライティングテストを行った際には、文章量が少ない、理由が書かれていないなどの課題があったが、今回はそれらの課題を改善することができた。

(10) 書くこと班 愛知県立尾西高等学校の実践

本実践では、「自分の希望する専攻分野に関して志望理由を書く」ことをパフォーマンステストとして行った。ルーブリックは、4段落以上の構成とすること、志望理由の具体例や今後の抱負や夢を含めること、論理構成が分かりやすく平易な英語で書くことで「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価することとし、生徒の活動状況の観察やハンドアウトの内容などから「主体的に学習に取り組む態度」を評価することとした。

指導では、教科書を利用して表現を習得させたのちに、インターネットを利用して内容について調べ学習を行い、構成を考えて原稿を書かせた。原稿を他の生徒と共有して意見を出し合い、改善を図った。同じ内容で定期考査の一部として出題し、パフォーマンステストとした。ルーブリックで条件を詳細に設定したことにより、教師のサポートは前提であるが、スムーズに実施できた。自分の考えを明確にもっている生徒は、「知識・技能」で高い評価を得られなくても「主体的に学習に取り組む態度」では高い評価を得ることができた。

(11) 書くこと班 愛知県立幸田高等学校の実践

本実践では、思い出の写真について60語程度の英文を書くというパフォーマンステストを行った。パフォーマンステストで作文を書く際には制限時間を設けるが、指導の段階では何度か書き直させ、添削指導の機会を設けることで生徒の主体的な学習を促した。評価については、「知識・技能」の観点では評価する項目を限定したため、生徒は焦点化した学習を行うことができた。また、教師は効率的に客観性の高い評価を行うことができた。「主体的に学習に取り組む態度」の観点では評価項目に添削の回数を入れて客観的な評価を行おうとしたが、他の観点との不整合を引き起こす結果となった。この観点についてはどのようにして客観性と妥当性をもたせるかが課題として残った。

(12) 書くこと班 愛知県立知立東高等学校の実践

本実践では、修学旅行の目的地である長崎について80語以上のまとまった文章を書くというパフォーマンステストを行った。生徒にパフォーマンステストの案内をする際にルーブリックも提示し、First Draftを書かせた。First Draftの提出後、教員間でFinal Draft作成に向けての指導方針について話し合い、その結果、ルーブリックの改訂を行った。生徒に配付したSelf-evaluation Sheetにもルーブリックを掲載し、自己評価、相互評価、教員からのフィードバックに活用した。「書くこと」の領域の評価においては、正確さを中心したいという考えもあったが、たくさん書くことを目指して「伝わる英語」

という点を重視した。また、「主体的に学習に取り組む態度」を First Draft から Final Draft への改善の意欲で測ることとした。

今回パフォーマンステストを実施するに当たり、他の教員の共通理解を図ったことで英語科全体の指導改善が進む結果となり、CAN-DOリストの改訂にもつながったという成果が得られた。

5 研究のまとめと今後の課題

パフォーマンステストを行うことで目標の明確化と共有を図ることができた。多くの実践報告が示すように、事前に生徒とルーブリックを共有することで生徒が目標を意識して取り組むことにつながり、効果的に指導をすすめることができた。また、周囲の協力を得て実施することにより、教員間の共通理解の下でパフォーマンステストを行うことができたり、中には、CAN-DOリストの見直しにつながったりする実践もあった。

また、パフォーマンステストを契機として指導と評価の一体化が図られ、今後の指導改善や授業改善のヒントを見つけることができた。今回実践を行った多くの学校で、帯活動として Small Talk を取り入れたり、継続的に論理構成を指導した上でパフォーマンステストを実施したりするような授業へと改善が図られている。また、指導の過程で Rubric の見直しを行うことにより、効果的な指導・評価につなげる実践もあった。

今後の課題としては、どのような手段で三つの観点を評価すれば、より信頼性のある評価になるのかということがある。特に主体的に学習に取り組む態度は評価しにくく、多くの研究員が工夫を凝らしてこの観点を評価しているが、他の観点とのずれが生じるなど、まだ研究を進めていく必要がある。長期的な視点で生徒の資質・能力の育成を図り、育成した資質・能力をパフォーマンステストで見取る方法を研究することが解決策の一つと考えられる。

また、パフォーマンステストの実施と評価に時間がかかることも課題の一つである。実践報告の多くで、ICT機器を効果的に活用して、評価の信頼性と効率を高めている。ICT機器の効果的な活用が解決の一助になると考える。

6 おわりに

本研究ではパフォーマンステストとルーブリックを中心に評価について研究を行ったが、評価の改善を図るためにはCAN-DOリストなどの目標の改善、指導方法や学習方法の改善など、指導と評価の一体化をさらに推し進めていく必要があるということが分かった。今後は、長期的な視点で計画を立てて、いつ、何を指導し評価すべきかを研究していく必要があるだろう。また、系統的な指導で生徒が意欲的に学べる手だてや、教員の共通認識の下での評価の在り方を研究する必要があるだろう。

次年度（令和4年度）から新しい学習指導要領が年次進行で実施される。本研究が新学習指導要領下での指導や評価の参考にしていただければ幸いである。

実践報告1

英語によるディスカッションのパフォーマンス評価

—生徒の社会的な話題について英語でやり取りできる力の向上を目指して—

愛知県立中村高等学校 教諭 池田 達哉

1 はじめに

本校は各学年8クラスからなる全日制普通科の高校である。学校の特色として、オーストラリア姉妹校との交流をはじめとする国際理解教育に力を入れている。平成25年度より「あいちスーパーイングリッシュハブスクール」に指定されており、令和元年度から国際理解コースが設置されている。本校生徒の英語学習に取り組む態度は前向きであり、英語を流暢に話せることを目指している。英語の授業では、さまざまな言語活動を取り入れ、生徒の学習動機を高めることができるように工夫している。

2 実践の目的

令和4年度から施行される高等学校学習指導要領において、「話すこと [やり取り]」の力の育成が強調されている。やり取りを中心とする言語活動は、ディベートやディスカッションであるが、ディベートと比較すると、ディスカッションの捉え方には幅があり、その指導方法や評価方法は目的や状況によってさまざまである。今後、ディスカッションの機会が更に増加する可能性が高い現状を考慮すると、さまざまな文脈におけるディスカッションの指導及び評価に焦点を当てた実践がよりいっそう求められる。

また、私が教科担当をしている国際理解コースの3年生は、身近な話題についてやり取りすることは得意であるが、社会的な話題になると苦手意識を抱く傾向がある。これは、社会的な話題に関する背景知識及び英語で論理的に意見を構築する訓練が不足している可能性があると考えている。また、やり取りする力を向上させるためには、英語でディスカッションする機会を増やす必要もある。

このような背景から、本実践は、国際理解コース3年生を対象にした学校設定科目「グローバル英語Ⅲ」にて、社会的な話題についてやり取りする力を育成する指導及び評価の在り方を検討及び実践する。加えて、本実践で得られた結果を分析し、その指導と評価の有効性について考察する。

3 単元の指導計画

(1) 教材

ア 教科書：Prism Reading 2（ケンブリッジ出版）

イ 単元：Unit 5 Health and Fitness

(2) 単元の目標

ア 読むことにおける目標

健康とフィットネスをテーマにした英文の記事及びエッセイを読み、健康の重要性について理解することができる。また、記事やエッセイの内容について、批判的に分析及び評価することができる。

イ 話すこと [やり取り] における目標

社会的な話題（健康とフィットネス）について、聞いたり読んだりした内容を活用しながら、基本的な語句や文法を用いて、意見を論理の構成や展開を工夫してディスカッションできる。

(3) 関係する領域別目標（本校3学年次のCAN-DOリストから関連するものを抜粋）

読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で扱った英文を読み通して理解できる。 ・600語程度の英文を読み、その要点や内容の繋がりを理解できる。
話すこと [やり取り]	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだり聞いたりした内容をまとめて、他者に伝えることができる。 ・読んだり聞いたりしたことについて、自分の考えや意見を他者に伝えられる。

学校設定科目「グローバル英語Ⅲ」の目標が「読む」及び「話す」に関連していることに鑑み、本実践は「読むこと」及び「話すこと【やり取り】」に焦点を当てる。

(4) 単元の評価規準（五つの領域ごとの評価規準の設定）

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
読むこと	<p><知識> 文章の内容を把握するために必要な語彙・文法を理解している。</p> <p><技能> 健康とフィットネスをテーマにした文章の内容を理解するために必要なリーディングスキルを身に付けている。</p>	健康とフィットネスをテーマにした記事とエッセイを読んで、概要や要点、詳細を理解している。	健康とフィットネスをテーマにした記事とエッセイを読んで、概要や要点、詳細を理解しようとしている。
話すこと [やり取り]	<p><知識> 単元で扱った英文の内容を正確に理解している。</p> <p><技能> 自分の意見を論理的に述べるために必要な語彙・文法を身に付けている。</p>	社会的な話題（健康とフィットネス）について、読んだ内容を活用しながら、理由や具体例を用いて論理的に自分の意見を述べている。また、相手の意見に応じて、賛成・反対の論理の構成を工夫して、ディスカッションしている。	社会的な話題（健康とフィットネス）について、読んだ内容を活用しながら、理由や具体例を用いて論理的に自分の意見を述べようとしている。また、相手の意見に応じて、賛成・反対の論理の構成を工夫して、ディスカッションしようとしている。

(5) 言語活動を中心とした指導と評価の計画

※本実践研究は5～7時限目のパフォーマンス評価に焦点を当てる。

時間	ねらい、学習活動	評価の観点			指導上の留意点
		知	思	主	評価規準（評価方法）
1	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康に関する背景知識を活性化させる。 ・新出単語の意味を確認する。 <p>【学習活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「健康習慣」をテーマにした質問について、ペアで意見交換する。 ②新出単語を含む例文の意味を確認する。 ③新出単語の定義を確認する。 ④写真を見て、何のエクササイズについて描写されているかを考える。 	指	生	な	一

2	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一つ目の文章の概要及び詳細を把握する。 ・推論及びスキミングのリーディングスキルを学習する。 <p>【学習活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①教科書のタスクを通して、文章全体のトピックを把握する。 ②教科書のタスクを通して、各パラグラフの概要を把握する。 ③教科書のタスクを通して、文章の詳細を把握する。 ④推論のリーディングスキルを学習する。 ⑤文章の内容を深めるための、問題に答える。 <p>ペア及びクラス全体で意見を共有する。</p>		○	○	<p>【評価方法】 [思][主]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後日、生徒が授業で使用しているノートを観察する。 ・予習及び授業でどれだけ学習できているか、また、自学自習において、どれだけ主体的に学習できているかを評価する。
3	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新出単語の意味を確認する。 ・スキミングのリーディングスキルを身に付ける。 ・食事に関する背景知識を活性化させる。 <p>【学習活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①新出単語を含む例文の意味を確認する。 ②新出単語の定義を確認する。 ③教科書のタスクについて、ペアで意見交換する。 ④スキミングのリーディングスキルを用いて、教科書のタスクの答えを探す。 	<p>指導に生かすことは行わない。ただし、残り評価は行わない。生徒の活動の状況を見届けて</p>			<p>【指導上の留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が言語活動に積極的に取り組んでいるかを観察する。 ・教員と生徒ができるだけ英語でやり取りできるように発問の仕方を工夫する。
4	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二つ目の文章の概要及び詳細を把握する。 ・推論及びスキミングのリーディングスキルを学習する。 <p>【学習活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①教科書のタスクを通して、各パラグラフの概要を把握する。 ②教科書のタスクを通して、ノートテイキングのリーディングスキルを学習する。 ③教科書のタスクを通して、文章の詳細を把握する。 ④文章の内容理解を深めるための問題に答える。 <p>ペア及びクラス全体で意見を共有する。</p>		○	○	<p>【評価方法】 [思][主]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後日、生徒が授業で使用しているノートを観察する。 ・教科書の言語活動に取り組んでいるかに加え、文章の内容理解を深めるための問題に対して、自分の意見が十分に書いているかどうかを確認する。
5 6 7	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッションを通して批判的思考能力を養う。 ・以下の質問について、自分の意見を論理的に相手に伝える。 <p>“Which is more important for good health: a regular exercise program or a balanced diet?”</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の意見を聞いて、それに対して自分の意見を論理的に述べる。 <p>※パフォーマンスを評価する。</p> <p>【学習活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①パフォーマンス評価の概要を生徒に伝え、事前指導を行う。事前指導では、OREOの考え方を活用して、英語で論理的に意見を構築するための訓練をする。 	○	○	○	<p>【評価方法】 [知][思][主]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パフォーマンス評価を行う。

	②英語で論理的に意見を述べる方法を指導する。 ③3人一組のグループで、与えられた質問に対する自分の意見を述べる。また、相手の意見を聞いて、それに対して自分の意見を述べる。				
後日	・ペーパーテストを実施する。	○	○		【評価方法】[知][思] ・定期考査を通して、指導計画の1～4時間目に該当する学習成果を[知][思]の観点に焦点を当てて評価する。

4 パフォーマンス評価の計画

(1) パフォーマンス評価におけるタスクの設定

先に示したように、本実践で扱う単元のテーマは“Health and Fitness”である。教科書の中に、読んだ記事の内容を踏まえ、“Which is more important for good health: a regular exercise program or a balanced diet?”の質問に対して自分の意見をペアで伝え合うという言語活動がある。生徒にとって興味をもちやすいテーマであると判断し、このタスクをパフォーマンス課題として選んだ。この質問について、生徒は3人のグループでディスカッションする。

ディスカッションの流れは、まず、グループの全員が自分の意見を述べる。この段階で、生徒は、a regular exercise program か a balanced diet のどちらが健康にとって重要であるかについて、自分の意見及びその根拠を論理的に述べるのが求められる。次に、8分間のフリーディスカッションの時間が与えられる。ここでは、生徒は自由にディスカッションすることができる。お互いの考えに対して自分の考えを伝え合い、質問に対する考えを深めていくことが大切である。最後に、ディスカッションを踏まえ、再度自分の意見を述べる。自分の意見が最初の発言から変わってもかまわない。また、グループとして一つの結論を出す必要はない。

(2) ルーブリックの作成

ア 評価の領域

評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 基準	<知識> ・単元で扱った英文の内容を正確に理解している。 <技能> ・自分の意見を論理的に述べるために必要な語彙・文法を身に付けている。	・自分の意見を理由や具体例を活用して、論理的に意見を述べている。 ・相手の意見に応じて、賛成・反対の論理の構成を工夫して、ディスカッションしている。	・自分の意見を理由や具体例を活用して、論理的に意見を述べようとしている。 ・相手の意見に応じて、賛成・反対の論理の構成を工夫して、ディスカッションしようとしている。
a	<知識> ・単元で学習した内容を踏まえて自分の意見を述べている。 <技能> ・語彙・文法を正確に用いて自分の意見を述べている。	・さまざまな観点から、理由や具体例を十分に活用して、論理的に意見を述べている。 ・相手の意見に応じて、賛成・反対の論理の構成を工夫して、ディスカッションしている。	・さまざまな観点から、理由や具体例を十分に活用して、論理的に意見を述べようとしている。 ・相手の意見に応じて、賛成・反対の論理の構成を工夫して、ディスカッションしようとしている。

	6点	6点	3点
b	<理解> ・単元で学習した内容を踏まえて自分の意見を述べている。 <技能> ・ある程度正確に語彙・文法を用いて自分の意見を述べている。語彙や文法の間違いがあっても内容が相手に伝わっている。	・自分の意見を理由や具体例を活用して、論理的に意見を述べている。 ・相手の意見に応じて、賛成・反対の論理の構成を工夫して、ディスカッションしている。	・自分の意見を理由や具体例を活用して、論理的に意見を述べようとしている。 ・相手の意見に応じて、賛成・反対の論理の構成を工夫して、ディスカッションしようとしている。
	3点	3点	2点
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。
	1点	1点	1点
15点満点			

イ 実際に使用したルーブリック

上記の評価の領域で示された評価規準を踏まえ、実際にパフォーマンスを評価する際に用いるルーブリック【資料1】を作成した。評価はALTと私の二人で行うため、ALTがルーブリックの詳細を理解できるように評価の領域で示された評価規準の説明を英語で記述した。

ALTと評価規準を確認した結果、知識・技能 (Knowledge / Language skill) と主体的に学習に取り組む態度 (Attitude toward participating in the discussion) の項目は、お互いに評価規準を明確にすることができた。一方、ルーブリックにおける思考・判断・表現 (Cognition / Judgement / Expression) の項目に関しては、評価の領域で示された採点基準では、a, b, cの区別をすることが難しく、より分析的な採点基準が必要であると判断した。協議の結果、生徒が述べた意見において、五つ以上の異なる観点を含んでいる場合は評価a、三つまたは四つの異なる観点を含んでいる場合は評価b、評価bの採点基準を満たしていなければ評価cと判断することにした。

【資料1 パフォーマンス評価のルーブリック】

	Knowledge / Language skill	Cognition / Judgement / Expression	Attitude toward participating in the discussion
a	< Knowledge > Their ideas are linked with what they learned in the Unit. < Language skill > They argue their ideas with accurate or appropriate vocabulary and grammar.	Their opinions are logically supported by clear reasons and examples. They give <u>five distinct points</u> . ※If their ideas are supported by only personal experiences, they do not qualify to get an “a.” They express agreement or disagreement effectively when responding to others.	They willingly try to express themselves and their opinions. They make great efforts to respond to the opinions of others.
	6	6	3
b	< Knowledge > Their ideas are linked with what they learned in the Unit. < Language Skill > They argue their ideas with moderate accuracy. Errors don't affect the understanding.	Their opinions are logically supported by clear reasons and examples. They give three to four distinctive points. ※Only personal experiences are not acceptable. They express agreement or disagreement effectively when responding to others.	They try to express themselves and their opinions when asked. They make very little efforts to respond to the opinions of others.
	3	3	2

c	Doesn't meet the criteria for a and b at all.	Doesn't meet the criteria for a and b at all.	Doesn't meet the criteria for a and b at all.
		1	1
Total 15 points			

ウ 評価手順

パフォーマンス評価の信頼性を担保するためには、二人以上の評価者による評価が望ましい(Brown, 2012)。よって、本実践はALTと私の二人で評価することにした。生徒がディスカッションしている間、評価者はファシリテーターとしてディスカッションを進行しなければならないため、全てのグループがディスカッションを終えてから評価する。評価する際は、録画及び録音された音声データを用いて、二人の評価者がそれぞれ全てのパフォーマンスを評価する。また、評価の信頼性を高める工夫として、評価者が実際の評価を始める前に、生徒数名のパフォーマンスをサンプルとして評価し、ルーブリックの妥当性及び信頼性について評価者内で協議する。全ての採点を終えた後は、二人の評価結果を集計し、その平均を生徒に与える素点とする。二人の評価結果の平均によっては、6、3、1点以外が素点として与えられる場合もある。小数点以下は切り捨てることにする。

(3) パフォーマンス評価の実施方法

ア 事前指導

事前にパフォーマンス評価の概要及びルーブリックを生徒に提示する。生徒は与えられた質問について、自分の意見をまとめておく。生徒の自律的な学習を促すために、独力で準備をするように伝える。担当教員は、生徒の事前準備に対して支援を与えない。

本ディスカッション活動は、生徒が社会的な話題について論理的に自分の意見を述べる力を育成することを主たる目標にしている。しかし、本校の多くの生徒が、英語で論理的に意見を述べるのが苦手である。具体的には、自分の意見に対して理由と具体例を論理的に述べるができない。そこで、授業の中でOREOを用いた指導を試みる。OREOとは、英文エッセイ特有の文章構成を、Opinion「意見」、Reason「理由」、Example「具体例」、Opinion「意見(再提示)」のように簡略化したもので、主にライティング指導において活用されている。本校生徒を対象にした英語検定試験対策講座にて、OREOを用いてライティング及びスピーキング指導を行った際に、論理力を高める上でその効果があると実感できたため、本実践においても活用したい。

また、聞き手への指導として、ディスカッションの間、話し手の内容の中で大切だと思うキーワードをメモしながら話を聞くこと、また、自分が次に話し手になるという意識をもたせて、相手の話す内容に注意して聞くことが大切であると伝えた。

イ 当日の流れ

当日は、通常の授業と同じように、視聴覚教室に集合する。授業が始まったら、教員がくじを引いてグループを決める。今回は、同時に二つのグループがディスカッションを行う。一つのグループは、視聴覚教室の隣にある準備室にて、ALTが司会を担当する。もう一つのグループは、教室の廊下にて、私が司会を担当する。選ばれた生徒はディスカッション用ワークシート【巻末資料1】を持参する。

ディスカッション中は、その様子を録画(タブレット端末を用いる)及び録音(ICレコーダを用いる)する。タブレット端末の録音機能の性能はそれほどよくないため、ICレコーダも同時に使用することにした。

さきほど述べた流れに沿って、司会者はディスカッションを進行する。司会者は、進行を進めるだ

けでディスカッションには参加しない。生徒はディスカッション用ワークシートにメモを取ってもよい。ディスカッションが終了したら、教室へ戻り、再度くじを引き次のグループを決める。10グループがディスカッションを行うので、2時間を配当する。もし、テスト当日に欠席者がいる場合は、その次の授業で実施する。視聴覚教室で待機している生徒は、各自授業の予習や英語の学習に取り組むように指示する。パフォーマンステストを終えた生徒は、アンケート【巻末資料2】に回答する。

5 実践の結果と考察

本項では、実践の結果を踏まえて、OREOを活用した指導と、生徒のディスカッションに対する取組の有効性を考察する。次に、パフォーマンス評価の実践を踏まえ、本実践における評価の在り方を検討する。最後に、パフォーマンス評価の結果及び事後アンケートの結果を分析し、本実践の有効性について考察する。

(1) OREOを活用した指導

事前指導におけるOREOの指導は、以下のスライド【資料2】を用いた。まず、【資料2-スライド1】で、OREOの考え方について説明した。次に、時事的なテーマに関して意見を述べる問題に対して、OREOを活用して、論理を構築するトレーニングを行った【資料2-スライド2】。他の問題もいくつか提示しながら、論理的に英語を話す訓練を行った。生徒の活動を観察すると、自分の意見の後に理由を述べることができない生徒が多いことに気付いた。例えば、【資料2-スライド2】のNo.4の問題において、“Yes, I think so. Today, many people use plastic bottles...and...I use plastic bags in a supermarket...so, I think...it is good.”という答えがあった。Today以降の発言は、I think soの理由としては説得力に欠けている。なぜplastic bottlesが将来もっと使用されるようになるのかに対して、自分の意見をサポートする理由が論理的に述べられていない。「多くの人も自分もペットボトルを使用しているから」だけでは、ペットボトルの利点が明確に伝わらない。このように、具体例が論理的に主張をサポートできていないという事例が、他の生徒でも同様に見られた。

この問題を解決するために、【資料2-スライド3】を用いて、理由を述べる際に役立つ表現及び語彙を指導した。自分の意見を述べた後に、“It is ～to do for・・・”という表現を使用して理由を加える。また、社会的な話題についてやり取りする際に、理由を述べる上で役に立つと思われる形容詞を肯定的な意味と否定的な意味で分類したリストを提示した。最後に、別の問題を与え、OREOを活用させて、即興で自分の意見を述べるトレーニングを行った。

【資料2 OREOの指導で用いた授業用スライドの例】

OREO	
Opinion	意見
Reason	理由
Evidence	根拠・具体例・補足説明など
Opinion	意見
	パラフレーズ

【資料2-スライド1】

No. 4 Do you think drinks in plastic bottles will be more popular in the future?	
Opinion	Yes, I think so. No, I don't think so.
Reason	ReasonとEvidenceのセットを2回、3回、4回と続ける！
Evidence	Plastic bottles are... Also... / Moreover...
Opinion	For example, 関連したことをガンガン話せ！！
Opinion	For these reasons, I think / That's why I think

【資料2-スライド2】

It is 形容詞 to / for ～.	
It is 形容詞 to do. It is 形容詞 for ～ to do.	
<Positive>	<Negative>
important, easy, beneficial, convenient, useful, helpful, eco-friendly, realistic, popular, economical, safe, exciting, creative, effective, efficient, new, good, cheap, clean, fun	difficult, hard, harmful(to), time-consuming, dangerous, unrealistic, boring, inefficient, cost too much(expensive), bad(for), useless, pointless, troublesome, dirty

【資料2-スライド3】

(2) 生徒のディスカッションに対する取組

ディスカッションに対する生徒の取組を振り返ると、多くの生徒に緊張の様子が見られたが、全体を通して良好であったと思われる。それぞれが自分の意見を述べるタスクにおいて、多くの生徒が十分に事前準備をしており、教科書で学習した知識を活用し、自分の意見を論理的に述べていた。フリーディスカッションでは、即興で流暢に自分の意見を話す生徒もいれば、自分の意見を述べることに

時間を要する生徒もいた。自分の意見を言えずにいるメンバーに対しては、質問を投げかけて発言させようと試みる生徒もいた。他のメンバーとのやり取りを踏まえ、改めて自分の考えを述べる最後のタスクでは、最初に決めた自分の立場を変える生徒はいなかった。しかし、たとえ最初に発言した立場と同じであっても、ディスカッションを通して、他のメンバーから得た考え方や知識を、自分の意見の理由や具体例として効果的に活用する生徒もいた。実際のディスカッションのやり取りの例を【巻末資料3】に示しているので参照されたい。

(3) OREO を活用した指導と生徒のディスカッションに対する取組に関する考察

本実践は、生徒が社会的な話題について英語でやり取りできるようになることを目指している。英語による論理的思考力を身に付けるために、OREO の指導を実践した。多くの生徒が、訓練を通して、意見を述べた後に理由や具体例を展開することができるようになったと思われる。ディスカッションの実際【巻末資料3】を見ると、生徒A、B、Cのどの生徒も、自分の意見を述べた後に、その理由を付け加えたり、補足説明を述べたりしていることが分かる。【巻末資料3】から、生徒が意見(Opinion)の後に理由(Reason)や具体例(Example)を述べている例を一部抜粋し、以下に紹介する。

例1)

C: I think the food delivery service is more commonly these days. 【Opinion】

Many young people like order junk food. So it uh...become difficult to eat balanced diet.

【Reasons】

例2)

B: Uh...before starting doing exercise ...I think you should be careful about getting injured.

【Opinion】

For example, when you jog in the street, you should be careful about the street and you have to tie your shoes tight in order to avoid from injured. 【Example】

他のグループでも同様に、OREO の論理展開に基づいた意見が多く見られた。これらの状況から、OREO の指導は英語の論理を身に付ける上で効果があったと言える。

(4) パフォーマンス評価の実際と振り返り

パフォーマンステストを終えた後、ALTとJTE(以下「私」と表記)でそれぞれ評価した。評価の計画に沿って、4名の生徒のパフォーマンスを二人で評価し、採点基準をすり合わせた。生徒が発言した内容をどのように一つの意見として見なすべきかについて重点的に確認した。

評価の際は、ビデオカメラで撮影した動画とICレコーダで録音した音声を用いた。しかし、ALTが担当したグループの一つで、ICレコーダによる音声が記録されていなかった。よって、タブレット端末のデータのみを使用した。音声が聞き取りにくかった。他のグループも同様に、タブレット端末の音声の質がよくなかった。タブレット端末による映像とICレコーダの音声を同時に使用して評価することにした。また、全てのパフォーマンスを評価するのに、4~5時間ほど費やした。

これらの実践を顧みると、ディスカッションの評価において、情報機器の入念な準備が大切であると改めて気付かされた。丁寧に評価すれば、それだけ評価の信頼性の向上が期待できる。しかし、その一方で、ディスカッションの評価には、多くの時間を要するというデメリットもあるということを感じた。今後、ディスカッションの効率的な評価手法を確立することは重要な課題となるだろう。

(5) パフォーマンス評価の結果と考察

ア パフォーマンス評価の結果

【資料3】はALTと私が生徒のパフォーマンスを評価した結果の詳細である。生徒のパフォーマ

ンスに対するALTと私の評価は、概ね似たような結果になった。Knowledge（知識・技能）の評価結果は、5名の生徒に対する評価結果が異なった。これは生徒の英語の正確さについて、ALTと私の評価結果が異なったためである。Cognition（思考・判断・表現）については、生徒2名に対する評価結果が異なった。これは生徒の意見の数の捉え方がALTと私で異なったためである。Attitude（主体的に取り組む態度）については、全員が積極的に取り組んでいたため、ALTと私の評価結果に相違はなかった。

【資料4】は、ALTと私による評価の最終得点を示している。平均点は11.0点であり、やや高かった。知識・技能の平均点は4.8点、思考・判断・表現は3.3点であり、思考・判断・表現の平均点の方が知識・技能の平均点より低かった。知識・技能の評価は、生徒の意見が教科書で学習した内容と関連したものであるか、及び生徒が発話した英語の正確さについて評価したものである。この評価結果を考慮すると、比較的多くの生徒が、この評価項目について目標を達成できたと言える。

思考・判断・表現の評価においては、五つの異なる観点について意見及び具体例が述べられている場合は6点が与えられた。6点が与えられた生徒は、5名のみであった。その5名は流暢に自分の意見を論理的に述べることができていた。多くの生徒は、三つか四つの異なる観点について自分の意見及び具体例を述べることができており、3点が与えられた。

主体的に取り組む態度については、全員に満点が与えられた。グループによって、ディスカッションの雰囲気には差が見られたが、一人一人の生徒が、主体的に発言を行い、ディスカッションに参加する姿勢を見せていた。

【資料3 JTEとALTの評価結果の詳細】

<出席番号順>

No	Knowledge		Cognition		Attitude	
	JET	ALT	JET	ALT	JET	ALT
1	3	3	3	3	3	3
2	6	6	6	3	3	3
3	3	6	6	6	3	3
4	3	3	3	3	3	3
5	6	6	6	6	3	3
6	6	6	3	3	3	3
7	6	6	3	3	3	3
8	6	6	3	3	3	3
9	3	3	3	3	3	3
10	3	3	3	3	3	3
11	6	6	1	1	3	3
12	3	6	3	3	3	3
13	6	6	3	3	3	3
14	3	6	3	3	3	3
15	3	6	3	3	3	3
16	6	6	3	6	3	3
17	3	3	3	3	3	3
18	6	6	6	6	3	3
19	3	3	3	3	3	3
20	3	3	1	1	3	3
21	6	6	3	3	3	3
22	6	6	1	1	3	3
23	3	3	3	3	3	3
24	3	6	3	3	3	3
25	6	6	1	1	3	3
26	6	6	3	3	3	3
27	3	3	1	1	3	3
28	6	6	6	6	3	3
29	6	6	6	6	3	3
30	3	3	3	3	3	3

【資料4 評価の最終得点結果】

<合計の多い順>

	知・技	思・判・表	態度	合計
1	6	6	3	15
2	6	6	3	15
3	6	6	3	15
4	6	6	3	15
5	6	5	3	14
6	5	6	3	14
7	6	5	3	14
8	6	3	3	12
9	6	3	3	12
10	6	3	3	12
11	6	3	3	12
12	6	3	3	12
13	6	3	3	12
14	5	3	3	11
15	5	3	3	11
16	5	3	3	11
17	5	3	3	11
18	6	1	3	10
19	6	1	3	10
20	6	1	3	10
21	3	3	3	9
22	3	3	3	9
23	3	3	3	9
24	3	3	3	9
25	3	3	3	9
26	3	3	3	9
27	3	3	3	9
28	3	3	3	9
29	3	1	3	7
30	3	1	3	7
平均	4.8	3.3	3.0	11.0

イ 考察

本実践の主たる目的は、生徒の社会的な話題についてやり取りする力を向上させることである。ここでは、生徒の英語力に焦点を当てて、パフォーマンステストの評価結果を考察する。評価の結果によると、論理的に意見を述べるために必要な知識及び技能の評価の平均点は高く、6点が与えられた生徒は20名いた。また、3点が与えられた生徒は10名で、1点が与えられた生徒はいなかった。評価者が内容を理解できない語彙や表現を多用した場合、1点が与えられる。よって、知識及び技能の評価結果を踏まえると、一般的に難しいと考えられる社会的な話題に関して、ディスカッションを成立できるほど十分な英語による発信能力が、多くの生徒に備わっていることを意味する。ただし、この英語による発信能力は、パフォーマンステストの直前の学習だけで養われるものではない。日々の授業だけでなく、授業外での生徒の自主的な学習の成果が実を結んだのであろう。

次に、生徒がどれだけ広い観点から、自分の意見を述べられたかについて考察する。論理的かつ説得力のある主張をするためには、多角的な視点に立って、理由や具体例を述べることが重要である。思考・判断・表現における評価結果【資料4】によると、五つ以上の観点から意見を述べていた生徒（6点が与えられた生徒）が5名、三つか四つの観点から意見を述べられていた生徒（3点か5点が与えられた生徒）が20名、1点が与えられた生徒も5名いた。6点が与えられた生徒の英語はかなり流暢であった。その中の3名は、英語検定準1級を取得しているもので、6点の評価結果は妥当であろう。一方で、社会的な話題に対して英語でやり取りすることを苦手とする生徒が、三つまたは四つの観点から意見を述べることができたという点に関しては、意見を述べる力の向上において、本実践から一定の効果が得られたと言えるのではないだろうか。しかしながら、思考・判断・表現の結果において、1点が与えられた生徒が6名いた。彼らは、複数回にわたり考えを発言していたが、その内容が一つまたは二つの観点からしか述べられていなかった。彼らには、事後指導として適切なフィードバックと支援を与える必要がある。

最後に、主体的に取り組む態度の評価結果に注目したい。本実践の目的は、英語でやり取りする力を育成することである。評価の最終結果【資料4】によると、主体的に取り組む態度において全員が満点であった。この結果から、生徒全員が、自分の意見を述べるだけでなく、相手の意見に応じて自分の意見を述べたり、相手に質問したりして、やり取りを継続しようとしていたことがうかがえる。具体的には、“I understand ~’s idea... I also think...”などの表現を用いて相手に同意したり、“I don’t agree with ~’s idea. I think...”と反論したりしていた。また、さきほど述べたように、自分の意見を言えずにいるメンバーに対しては、質問を投げかけて発言させようと試みる生徒もいた。これらの状況から判断すると、生徒の主体的に取り組む態度を、本実践を通して達成できたと言えるのではないだろうか。ただし、全員が満点であったことに関しては、生徒の主体性をよりいっそう伸ばしていくためには、本実践で設定した目標及びルーブリックに改善の余地があると考えられる。

(6) パフォーマンス評価に関するアンケートの結果と考察

ア アンケート結果

パフォーマンステストを終えた後、生徒にアンケート【巻末資料2】を実施した。【資料5】は、アンケート結果の全体の傾向を示している。この結果は、ディスカッションが楽しいと感じた生徒が多かったことに加え、今後もディスカッションを練習していきたいと思う生徒が多いことを示している。パフォーマンス評価の内容が難しかったと感じた生徒は、半数より少なかった。また、パフォーマンス評価がよくできたと感じた生徒の数も、半数より少なかった。

【資料5】 事後アンケート結果 N=26（4名が未提出）

	そう思う			そう思わない
	4	3	2	1
パフォーマンステストは良くできた	3	10	9	4
ディスカッションの内容は難しかった	3	8	12	3
健康についてのディスカッションは楽しかった	15	11	0	0
英語でのディスカッションを今後積極的に練習したい	15	9	1	1

【資料6】は、アンケートの「パフォーマンス評価でのディスカッションを通して学んだことを書いてください」に対する回答の一部を抜粋したものである。自由記述では、さまざまな意見が見られたが、多くの生徒が、ディスカッションに対して前向きな反応を示していた。相手に対して分かりやすい表現を使うことの大切さなど、言語自体に対しての気付きが得られたり、エクササイズの内容について認識の深まりがあったりと、さまざまな面で学びにつながったと思われるコメントが多く見られた。

【資料6 事後アンケートにおける自由記述の例】

- ・健康については、人それぞれ向き不向きがあり、エクササイズとバランスのよい食事どちらがよいか選び、自分に向いている方を実践していくことが大切だと思った。
- ・3人だと人数が少ない分、話す機会が多くなるので、たくさん話しているうちに緊張がとけていった。
- ・フリータイムの8分は、最初は長いと感じたが、実際はすぐに時間が過ぎてしまい、もっと話したいくらいだった。
- ・伝える力が最も身に付いた。相手に自分の主張した事を伝えるために、比較的簡単な単語に言い換えたりした。アドリブで返答する必要があるので、言いたいことを脳で英語に返還して伝える能力が養われた気がする。
- ・健康を維持する方法、会話をつなぐことの大切さ。
- ・ディスカッションの楽しさ、準備をすること（情報を集る、スピーキングの練習など）や本番のドキドキ感など全てが楽しかった。また、久しぶりに英語でみんなと話し事ができて良かったと思う。
- ・文法単語が不安でも、黙ってしまうことはもったいない。伝えようとすれば相手も分かってくれるので、まずは話すことが大切だと思った。
- ・いかに簡単な言葉で自分の伝えたいことを相手に分かってもらえるかが大切だと学んだ。また、相手の意見をよく聞き、それに対して的確な質問をすることによって、話がより深まるため、質問する内容もとても重要だと学んだ。
- ・相手の意見をメモすることが大切だと思った。
- ・今回の議題であったレギュラーエクササイズとバランスダイエットでは、どちらがよりよいかは両方のバランスが大切だと改めて分かった。
- ・背景知識の量は大切だと思いました。準備するにあたり、本文内の具体例以外の例を調べました。誰かと意見交換をするときには相手に伝わりやすい表現を使って話していかなければならないことを学んだ。
- ・私のグループは全員意見が同じだった。その中で一人教科書の写真を使って自分の意見を言っている人がいて、とても分かりやすかった。
- ・考えているうちに、頭が混乱してしまい、頭が真っ白になってしまった。
- ・相手の意見を踏まえて、自分の意見を考えるのは難しかったけど面白かった。フリーディスカッションでいかに自分から話しに行くのが大変なのか分かった。
- ・やはり英語はどの技能も練習しないと上達しないなということです。スピーキングは全くやってきてなかったので、頭に英語が浮かんでこないし、文法はぐちゃぐちゃさすがにこんなのでは、いざ英語をしゃべろうと思ったときに上手く使えないなということを知りました。

イ 考察

事後アンケートの結果を分析すると、パフォーマンステストが生徒の学習動機を高めるきっかけになったのではないかと考えられる。例えば、事後アンケートの結果【資料5】より、「健康についてのディスカッションは楽しかった」「英語でのディスカッションを今後積極的に練習したい」の項目に対して、ほとんど全員が肯定的な反応を示している。自由記述【資料6】からもディスカッションに対して前向きな反応が数多く見られた。生徒の活動を観察した結果からも、事前準備の段階で、ノートに自分の意見を整理し入念に準備をする様子が見られた。日頃は英語学習に対して後ろ向な生徒が、本実践では前向きに取り組んでいる姿も見られた。大半の生徒が、相手の意見を聞きながら、メモをとったり相づちを打ったりしながら、相手とのやり取りを継続するように努力していた。これらの状況から、パフォーマンステストが生徒のディスカッションに対する学習動機を高める上で効果があったのではないかと考える。

一方で、自己評価が低い生徒が13名いたという結果に留意したい。事後アンケートの結果【資料5】によると、「パフォーマンステストはよくできた」の質問に対して、1を選択した生徒が4名、2を選択した生徒が9名いた。これらの生徒が、具体的にどのようなことが理由で自己評価が低かったのかについては、統計的なデータだけで確認することが難しい。生徒一人一人に対するきめ細やかなフィードバックが必要であると感じている。

6 成果と課題

本実践を通して得られた成果は主に2点ある。一つ目は、社会的なトピック（健康）に関して、自分の意見を論理的に述べることを学習する機会が得られたことである。論理的に英語で意見を効果的に伝えるためには、日本語とは異なる英語特有の論理構成を学ぶ必要がある。本時の事前指導では、OREO（Opinion-Reason-Evidence-Opinion）という論理の考え方を踏まえ、英語を論理的に話すトレーニングを行い、その効果が見られた。OREOを用いた指導は、授業や英語の検定試験の対策などにおいて指導したことはあるが、その指導の機会は少ないのが実情である。今後も、スピーキング指導やライティング指導のさまざまな場面で、OREOを活用した指導を実践していきたい。

二つ目は、英語でやり取りを継続する技術に向上が見られたことである。実際のところ、2年前に本実践と同じ国際理解コースの生徒を対象に、ディスカッションのパフォーマンステストを実施した。その際は、相手と自然な流れで受け答えすることができない生徒が多かった。しかし、今回のディスカッションでは、相手の意見に対して、“I understand ~’s idea... I also think...”などの表現を用いて相手に同意したり、“I don’t agree with ~’idea. I think...”と反論したりしてから、自分の意見及び具体例を伝えたり、また相手の意見を深めるために質問を投げかけたりする様子が随時見られた。私は、英語によるやり取りの向上は常に実践を通して得られるものだと信じている。アンケート結果からも、今後も積極的に練習を継続したいという声が多く見られる。これからの実践において、さまざまなテーマに関してディスカッションできる機会を生徒に提供していきたい。

最後に、本実践の課題として、パフォーマンス評価の評価手法を再検討する必要があると感じた。本実践では、試験の最中に評価せず、後日、音声データとディスカッションの様子を記録した映像を用いて評価した。全ての生徒のパフォーマンスを評価するために4～5時間を費やした。丁寧な評価は、評価の信頼性の向上に貢献するであろう。しかし、今後もパフォーマンステストを継続していきたいと思うが故に、評価の効率性を改善することは不可欠である。パフォーマンス評価の効率性の改善に関しては、教育の分野において多くの実践がされつつあるICTの活用が有効ではないかと考え

ている。今後、ディスカッションを効率的に評価できる新たな手法を模索していきたい。

7 参考文献

- 愛知県教育委員会（2016）「高等学校における多様な学習成果の評価手法に関する調査研究」
- 愛知県総合教育センター（2017）『授業の手引 高等学校英語』
- 植田一三，妻島千鶴子（2009）『英語で意見を論理的に述べる技術とトレーニング』 ベレ出版
- 国立教育政策研究所（2019）『学習評価の在り方 ハンドブック 高等学校編』
- 国立教育政策研究所（2020）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』
- 田中武夫，高木亜希子，藤田卓郎，滝沢雄一（2019）『英語教師のための「実践研究」ガイドブック』 大修館
- 文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領解説』
- ELEC 同友会英語教育学会（2008）『中学校・高校 英語 段階的スピーキング指導 42』 三省堂
- Brown, J. D. (2012) Developing, using, and analyzing rubrics in language assessment with case studies in Asian and Pacific languages. National Foreign Language Resource Center, University of Hawaii at Manoa.

Discussion

“Which is more important for good health: a regular exercise program or a balanced diet?”

Your idea	()'s idea	()'s idea
Free Discussion		

グループ	名前	論理的思考	協調性・積極性	コメント
グループ 1	1	5・3・1	5・3・1	
	2	5・3・1	5・3・1	
	3	5・3・1	5・3・1	
	4	5・3・1	5・3・1	
	5	5・3・1	5・3・1	
グループ 2	6	5・3・1	5・3・1	
	7	5・3・1	5・3・1	
	8	5・3・1	5・3・1	
	9	5・3・1	5・3・1	
	10	5・3・1	5・3・1	
グループ 3	11	5・3・1	5・3・1	
	12	5・3・1	5・3・1	
	13	5・3・1	5・3・1	
	14	5・3・1	5・3・1	
	15	5・3・1	5・3・1	
グループ 4	16	5・3・1	5・3・1	
	17	5・3・1	5・3・1	
	18	5・3・1	5・3・1	
	19	5・3・1	5・3・1	
	20	5・3・1	5・3・1	
グループ 5	21	5・3・1	5・3・1	
	22	5・3・1	5・3・1	
	23	5・3・1	5・3・1	
	24	5・3・1	5・3・1	
	25	5・3・1	5・3・1	
グループ 6	26	5・3・1	5・3・1	
	27	5・3・1	5・3・1	
	28	5・3・1	5・3・1	
	29	5・3・1	5・3・1	

【巻末資料3 実際のディスカッションのやり取りの例】

T: teacher A: student A B: student B C: student C

T: Now, let's start. You are going to discuss the question, "Which is more important for good health: a regular exercise program or a balanced diet?". OK? First, each of you will tell your own opinion. Then, you will have an 8-minute-free discussion. Finally, you will tell us your opinion again. OK? So, first, A. Please start.

A: I think regular exercise is more important for our health. Uh...there are some of the reasons. Firstly, we can reduce...uh...our risk of serious illness by 50% by doing regular exercise. And, we can increase life expectancy, So, that's why it is more important for good health.

T: Thank you. Then, B. Please tell.

B: Uh...I think that regular exercise is more important than...uh...than...a balanced diet. I have two reasons for this. First of all, it is good for body health. You can reduce the risk of chronic disease such type-2 diabetes, some cancers, stroke. And uh...yeah, so, and also you can ...avoid, you can avoid the early death by 30 %. So, I think a regular exercise is beneficial for body health. Secondly, regular exercise is also good for our mental health. Uh...for example, you, you ain't jog 2 kilometers, every day for 2 weeks. You feel a sense of achievement...uh...whist the target. In contrast, when you just keep having a balanced diet, some people might feel frustrating ...because they have to control how much they eat. Uh...uh...in terms of bala...uh...regular exercise, you don't need to control how much you eat...you don't... which means you don't feel irritated and stressful. Therefore you can feel happy... enjoy... joyful, will also improve your quality of life.

C: I think regular exercise program is more important for good health. I think most important thing is uh... uh...easy to continue the program. Firstly, I think that it is cheap... I think that cheapest exercise is running. You just need to ...you just need pair of shoes. Of course, it is free to go running in the park. Secondly, I ...uh...secondly I think ...uh it is easy to continue because playing sports are easy to make friends for have same purpose and same goals if you feel difficult to continue you can get friends and help we can much...much schedule and cooperate to do exercise. So that's why it is important for good health. That's all.

T: Now, I really enjoyed hearing your ideas. You will have 8 more minutes to discuss the question. OK? I will not say anything about this. All right? Now, please start.

B: Why did you not choose a balanced diet? What do you think a balanced diet advantage? What is beneficial about a balanced diet?

C: Uh..... (being silent) We need to cook in...we need to cook by ourselves. It is very uh...not...(being silent)

A: Can I go first? I think it's border, bolder(?). It think it's stressful uh...choose food our health...I want to eat what I want to eat. So, I didn't choose that...uh... regular exercise has more ...uh...good points. I didn't say before...uh...but... we can improve self-esteem by doing regular exercise. So, uh...regular exercise has ... Sorry has good points not only ...sorry physical health but also uh...mental health. So it is very important for our health.

B Uh... in my opinion. As I said, as I said that uh...a regular exercise is good for mental health. I would like to argue that uh...some people try to control their diet and try to eat smaller portion. Some people say that they tend to wan...tend to ...eager to eat extra food after eating certain amount of food. And in order to get some satisfaction, so it is... uh...it will result in worse condition of their health...so... uh... I think... uh.. balanced diet might be uh.. might be might cause opposite effect of diet of ...uh...be stay health. Yeah...

A: I agree. I said that it's stressful to choose food. It contributes to more stress. It's harmful for our health to our balanced diet.

B: What do you think, C?

C: I think the food delivery service is more commonly these days. Many young people like order junk food. So it uh...become difficult to eat balanced diet.

(Being silent)

B: Uh...about young people I think there is also reason why I chose regular exercise might be because uh.. young people are not taught what to eat by their parents... I think some parents just give food what their children want ... for example, sweet and some junk food... so, uh... uh...young people may have big uh... effect from their parents.

T: You have one and a half more minute.

A: I want to ask you...what is the importance of a regular exercise when we do regular exercise ...what do we have to be careful about?

B: Can I go first? Uh...before starting doing exercise ...I think you should be careful about getting injured. For example, when you jog in the street, you should be careful about the street and you have to tie your shoes tight in order to avoid from injured.

A: What do you think C?

C: (Silent) I think make a goal is realistic. Um...(Silent)

T: OK. Now, time is up. But finally, I would like to hear your opinion again. OK?
Please tell us your opinion based on the discussion. So, B.

B: I strongly believe that regular exercise is uh...more important than a balanced diet. Because uh... balanced diet but ... a balanced diet might be difficult for some people because you have to choose what to eat by themselves. Young people are not perfectly taught how...what to choose... uh...and secondly, uh... secondly it is ... regular exercise are good for our mental health. You can improve your self-esteem, improve your quality of your life. Of course you can stay in safe. And so.. there is more effective way to keep your health uh... than a balanced diet.

C: I think regular exercise is more important. Um... (being silent). Um... (being silent).

I think um... (silent). our health problem will... uh... improve at first... uh...uh... (being silent)

T: OK. All right, thank you. A.

A: I think regular exercise is the most beneficial way to be good health. We can improve both mental health and physical health. So I think it is important. But we have to be careful about a balanced diet. So, I think we should change our aware for what we are eating.

T: OK. That's all for today's discussion. Thank you for your corporation.

A, B, C: Thank you.

(約 18 分)

実践報告2

Small Talk から始めるやり取りの評価について

—指導と評価の一体化を目指して—

愛知県立岩倉総合高等学校 教諭 藤本 貴之

1 はじめに

平成30年に改訂された高等学校学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を行うと同時に、学習評価の充実について新たに項目が置かれ、授業改善と評価の改善を両輪として行っていくことの必要性が明示されている（国立教育政策研究所教育課程センター，2021）。また、高井・岡崎（2019）は“パフォーマンス評価は学習者に「何ができていて、何ができていないのか」について気づきを与える機会となる”と述べている。生徒に明確な目標を示すことで、生徒は何をどのように学習したらよいか自ら見通しを立てて、教師のサポートを得ながら、主体的に学習に取り組む。目標に応じた評価が行われることで、生徒はその評価の結果を受け、次への具体的な学習改善につなげていくと考えられる。

しかしながら、国立教育政策研究所教育課程センター（2021）は、評価が学期末や学年末の事後の評価で終始してしまい、“状況によっては、評価の結果が生徒の具体的な学習改善につながっていない”と指摘しており、未だに指導と評価の一体化を目指す授業改善が行われていないと考えられる。

このような現状の中で、外国語科の授業の中で、スピーキング能力を育成する授業とその学習評価を確立することが大切である。本研究では、コミュニケーション英語Ⅱにおいて、「話すこと [やり取り]」に焦点を当て、その学習到達目標を定め、学習評価の妥当性や信頼性を高めながら、指導と評価の一体化を目指すことで、（ア）パフォーマンス評価によって自分の成長を実感することができるか、また、（イ）パフォーマンス評価によって新たな課題を見つけることはできるのか、そして、（ウ）パフォーマンス評価によって得られた新たな課題を次につなげることはできるのか、明らかにしていきたい。

2 言語活動

(1) 教材

ア 教科書：New Flag English Communication II（増進堂）

イ 単元：Chapter 4 Communication Breakdown（7月）

Chapter 7 Palm Oil from Diamond Island（11月）

(2) 単元の目標

ア Chapter 4

登場人物のそれぞれの立場を認識し、各人の心情について理解させ、その違いを読み取ることができる。

イ Chapter 7

ダイヤモンド島でどのような問題が起きているのかを理解させ、異なった立場の人々のそれぞれの考え方について理解することができる。問題解決を図る際に、より適切な方法を自ら考え出すことができる。

3 関係する領域別目標（学年のCAN-DO）

聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りのことについて関する紹介や報告，対話や討論などゆっくり話されていれば，情報や考えなどの概要を捉えることができる。 何が話題とされているかを理解し，情報や考えなどの要点を理解することができる。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> 説明，評論，物語，随筆などを読んで，概要を捉えることができる。 友人が書いた文を読むことができる。
話すこと [やり取り]	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りのことについて聞いたり読んだりしたことについて，理由を加えながら，意見交換をすることができる。 与えられた話題について，複数の質問をしながら，即興で3分程度話し合うことができる。
話すこと [発表]	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りのことについて聞いたり読んだりしたこと，学んだり経験したりしたことに基づき，情報や考えなどについてまとめ，理由を加えながら，2分程度発表することができる。 自分の考えを，ポスターなどを使いながら，発表することができる。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りのことについて，理由を加えたり，つながりを示す語句を用いたりしながら，即興で80語程度の文章を書くことができる。 身の回りのことについて聞いたり読んだりしたこと，学んだり経験したりしたことに基づき，情報や考えなどについて，200語程度でまとまりのある文章を書くことができる。

4 評価規準（話すこと [やり取り] 評価規準の設定）

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと [やり取り] 7月	<p><知識> 自分の意見や主張を伝えるために必要な語彙や表現を理解している。</p> <p><技能> 自分の意見や主張を伝えるために必要な語彙や表現を使っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた話題について，Fillers, Rejoinders, Shadowing, Follow up questionsを適切な場面で使いながら，即興で2分程度話し合いをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた話題について，Fillers, Rejoinders, Shadowing, Follow up questionsを適切な場面で使いながら，即興で2分程度話し合いをしようとしている。
話すこと [やり取り] 11月	<p><知識> 情報や考えを述べるために必要となる語彙や表現，音声等を理解している。</p> <p><技能> 身近な話題（自分のお気に入りのもの）や社会的な話題（環境問題）について聞いたり読んだりしたことについて，理由を加えながら，伝え合う技能を身に付けている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を相手によく理解してもらえるように社会的な話題（環境問題）について聞いたり読んだりしたことを活用しながら，伝え合っている。 与えられた話題について，Fillers, Rejoinders, Shadowing, Follow up questionsを適切な場面で使いながら，即興で2分半程度話し合いをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を相手によりよく理解してもらえるように社会的な話題（環境問題）について聞いたり読んだりしたことを活用しながら，伝え合おうとしている。 与えられた話題について，Fillers, Rejoinders, Shadowing, Follow up questionsを適切な場面で使いながら，即興で2分半程度話し合おうとしている。

5 言語活動を中心とした指導と評価の計画

学習活動と目標	評価の観点			指導上の留意点 評価規準（評価方法）
	知	思	主	
【学習活動】 Small Talk 【目標】 ・身近な話題について聞いたり読んだりしたことを、理由を加えながら、意見交換することができる。 ・与えられた話題について、質問を複数しながら、即興で3分程度話し合うことができる。 ・社会的な話題（環境）について、質問を複数しながら、即興で3分程度話し合うことができる。		○	○	・後日行うパフォーマンステストに向け、ループリックを事前に見せ、「帯活動」で、身近な話題に関する「話すこと〔やり取り〕」の言語活動（Small Talk）に取り組み、相手の話に関わらせたり質問したりさせる。

6 パフォーマンステスト

(1) 実施方法

ア Small Talk

本校で実施している Small Talk とは、生徒同士で決められた話題について即興で話す活動である。週に1回又は2回程度、授業のはじめに帯活動として図1のトピックについて2分間2回ペアを変えて同じトピックについて会話をする。パワーポイントで図2のようにトピックだけでなく、質問文を表示し、回をこなすごとにパワーポイントの表示内容を減らし、3回目には見ないで会話ができるように促していく。

この帯活動を基にパフォーマンステストとしてスピーキングテストを実施する。

Food	Animal	Music
People	Season	Sport
Subject	Hobby	Place
Movies	Country	

【図1 Small Talk に使用するトピック】

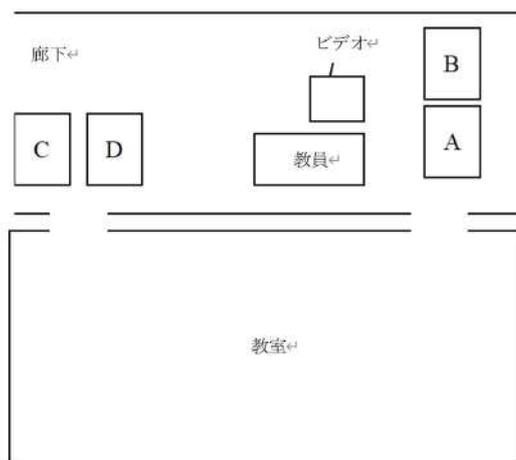
Food
<ul style="list-style-type: none"> ● What food do you like? ● When do you want to eat it? ● What food do you dislike? Why?

【図2 Small Talk で使用するパワーポイント】

イ Speaking Test

スピーキングテストを行う一週間前にループリックを配付し告知をする。スピーキングテストは、即興で行うことを目指し、その場でペアとトピック決めて行う。図3はその場面を図式化したものである。最初にくじ引きにより選ばれた生徒A、Bが Speaking Test を受け、次に呼ばれた生徒C、Dが生徒A、Bの Speaking Test の様子を見ることができるよう廊下で待機する。生徒A、Bが終わり、次の二人が呼ばれる流れとなっている。教室では、期末考査に向け、自習をしている。

【図3 スピーキングテスト配置】



(2) 指導上の留意点

Small Talk では、2分間会話を続けることができるように、会話の流れに合う質問を四つか五つさせる必要がある。そのために、生徒の観察を注意深く行い、困っている生徒に対して、質問例を板書しながら支援する必要がある。生徒が同じような文法間違いをしている場合には、その文をそのまま板書し、1回目又は、2回目の会話の終了時に全体に生徒に何が間違いなのか考えさせ、共有することが大切である。

7 ルーブリック

表1はスピーキングテストに使うルーブリックである。このルーブリックは、スピーキングテストの1週間前に生徒に配付し、テスト当日に回収し、採点の際に使われるものである。本校の第2学年では、学年のCAN-DOにもあるように3分間話し合うことが目標となっているが、テストを行っていく中で、目標を変えながら、学年末に3分を目指すこととしている。そのため、今回のスピーキングテストでは2分となっている。2分間話そうと挑戦することを大切にしていきたいというねらいから、「正確さ」よりも「なめらかさと内容」に得点が高く割り当てられている。また、会話を補助する働きのある「会話方略」の使用を促すためにその得点も高く設定されている。また、11月のスピーキングテストでは、目標時間を2分から2分半に変更したものを配付した。

【表 1 定期考査で用いる Speaking Test のルーブリック】

Categories	Criteria	Points
Fluency & Content なめらかさと内容	<u>2分以上</u> なめらかに話すことができ、工夫して適切な内容を伝えようとする ^{ことができる} 。	7 (なめらかに豊かな内容で続けられた) 5 (<u>2、3回止まる</u> が適切な内容で続けられた) 3 (時々止まり、内容が乏しい) 2 (<u>うまくできなかった</u>) 1 (沈黙が長く、できない)
Delivery(volume & eye contact) 態度 (声の大きさとアイコンタクト)	アイコンタクトをとりながら、相手に聞こえる声で積極的に話そう ^{とすることができる} 。	3 (十分な声量でアイコンタクトができた) 2 (声量やアイコンタクトが十分にできない) 1 (声量が小さくアイコンタクトがあまりできない)
Accuracy 正確さ	文法や単語の発音を間違えることなく、適切に話 ^{することができる} 。	3 (それぞれの文に間違いが2個以内でよく伝わる) 2 (それぞれの文に間違いが3つ以上あるが伝わる) 1 (それぞれの文に間違いが多くあり、わかりにくい)
Conversation Strategies (会話方略)	Fillers・Rejoinders・Shadowingなどを適切な場面で積極的に使う ^{ことができる} 。	3 (3回以上適切に使った) 2 (2回しか使っていない) 1 (1回しか使っていない) 0 (使っていない)
	Follow-Up Questions <u>定型文以外でその場で考えた質問をすることが</u> ^{できる} 。	4 (定型文以外で適切な質問が4回できた) 3 (定型文以外で適切な質問が3回できた) 2 (定型文以外で適切な質問が2回できた) 1 (定型文以外で適切な質問が1回できた) 0 (使っていない)

8 実践報告

(1) 実践の内容と検証方法

表2は年間の考査とスピーキングテストの実施計画である。スピーキングテストは、それぞれの学期の最後に行うため、一年で3回行うことになる。今回の研究は、本校の第2学年の2クラス(合計75人)を対象に実施した。7月と11月にスピーキングテストを行った後に生徒はOne Page Portfolio Assessment(谷戸 et. al, 2012)という振り返りシート(付属資料)を記入し、その振り返りからどのような生徒の気づきがあったのかまとめていく。

【表2 考査とパフォーマンステストの実施計画】

月	考査	Speaking Test	Writing Test
4			
5	中間考査		考査で実施
6		2分	
7	期末考査	身近な話題	
9			
10	中間考査		考査で実施
11		2分30秒	
12	期末考査	社会的な話題(環境)	考査で実施
1		3分	
2	学年末考査		考査で実施

(2) 実践の結果

ア 7月の結果

表3は、7月にスピーキングテストを実施した後に話すことについて生徒が答えたアンケートの集計を人数で表したものであり、図4はそれを割合で示したものである。半数以上の生徒が2分以上話すことができたという一方で、もっとできたと答える生徒も3割近くいたことが分かる。

【表3 振り返りシート：話すことについての振り返り（単位：人）】

4：ほぼ止まらずに 2分以上話せた	3：時々止まるが 2分以上話せた	2：止まってしまい もっとできた	1：うまくでき なかった	N
7	40	18	4	69

【図4 振り返りシート：話すことについての振り返りを割合で示したもの】

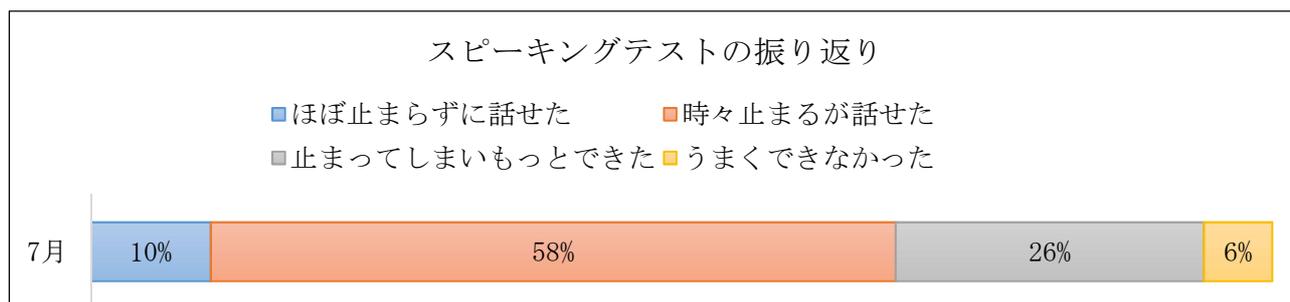


表4はアンケートで、「ほぼ止まらずに2分以上話せた」と答えた生徒が、「4月から英語を話すことにどのような成長がありましたか」について答えたコメントをそのまま載せたものである。「理解できる」や「気持ちを言葉にできる」など、自分が以前と比べて何ができるようになってきているのかを実感している様子が分かる。

【表4 振り返りにおける英語力の成長に関するコメント：ほぼ止まらず話した生徒】

- ・基本文以外の質問もできるようになったし、相手の言ったことをほとんど理解できるようになった。
- ・自分の気持ちを言葉にできるようになった。文法や簡単な言葉を使って話す 話すことばかり考えていたけど 何回も会話の練習をして誕生日や自分の思っていることを単語だけでも相手に伝えられるようになった。
- ・使える英語が増えて楽しく英語が使えるようになった。心から英語を楽しめるようになった。
- ・昨年よりも使える Rejoinders の種類が増えた。前までは相手からの質問に答えられないことがあったけれど、その回数がかかなり減った。ほぼ止まらずに会話を続けられるようになった。相手が答えやすい質問が思いつきやすくなった。Shadowing を自然に使えるようになった。
- ・相手の目を見て、恥ずかしがることなく、しゃべれるようになった。
- ・That's good! や Really? というだけでなく話しているトピックについて付け足して Do you like ~? や When do you ~? などと、質問することが少しできるようになりました。
- ・以前と比べると Rejoinders で会話が静かにならないようにどうすればいいか分かった。

表5は、アンケートで「うまくできなかった」と答えた生徒が、「4月から英語を話すことにどのような成長がありましたか」について書いたコメントをそのまま載せたものである。アンケートの選択項目では、「うまくできなかった」を選んでしたが、コメントを見てみると、「英語が好きになって」「話せるようになった」「短い質問をたくさんするようになった」と自分の成長を感じられていることが分かるコメントがあった。

【表5 振り返りにおける英語力の成長に関するコメント：うまくできなかった生徒】

- ・昔より英語が好きになってきて英語を話すことが楽しいと思えるようになってきた。でも、昔嫌いだったので単語を全然覚えられていなかったのもっと勉強したらもっと楽しくなると思っています。
- ・少し人と話せるようになった。
- ・授業でのスピーキングの時間では、文法が不安なときはできるだけ短い質問をたくさんするようになった。使い勝手のよい幾つかの相づちを挟むようになった。

表6は、アンケートで「ほぼ止まらずに2分以上話せた」と答えた生徒が「もっとこうすればよかったと思うこと」について書いたコメントである。「少しずつ難しい単語を覚えて」や、「もっと深く理由を述べることができたらよかった」など、次のスピーキングテストに向けて何をしたらよいか、明確に振り返ることができている。また、「授業内で練習するときから自分で考えた質問を使って定着させておけばよかった」と授業の中でどのようにしておくべきだったのか振り返ることができている。

【表6 振り返りにおける反省点に関するコメント：ほぼ止まらず話した生徒】

- ・基本的な会話はできていたと思うので、これから少しずつ難しい単語を覚えていき、レベルを上げていきたいです。
- ・もっと語彙力をつけてから挑みたかった。知らない単語とか文法をなくしてからやりたかった。
- ・一つの話題に対してもっと深く理由を述べることができたらよかった。伝えたいことは伝えられたけど、文法をしっかり使って分かりやすく使えることができればもっとスムーズに会話ができたとと思う。感情に任せて喋りすぎてしまった。
- ・もっと質問文を考え相手のレベルに対応できるように会話したいと思った。
- ・好きな食べ物を聞いた後に、他にも好きなものがあるかを聞いたりして、会話をつなげられたりしたらよかったなと思いました。また **Fillers** を使う回数が他に比べて少なかったと思うので上手に使えるようにしていきたい。
- ・テストになると考えていた質問を忘れてしまったので授業内で練習するときから自分で考えた質問を使って定着させておけばよかった。また、**Fillers** があまり使えなかったのもっと使う練習をしておけばよかった。
- ・相手の言ったことについて質問をもっとすればよかった。相手が間違えたときにサポートをすればよかった。

また、表7は「うまくできなかった」と答えた生徒が「もっとこうすればよかったと思うこと」で書いたコメントであるが、こちらでも、「単語をもっと覚えておけばよかった」や、「質問に答えて相手にも聞き返すなどができる」とよかった」など、次回のスピーキングテストに向けて新たな課題を自ら気付くことができている。

【表7 振り返りにおける反省点に関するコメント：うまくできなかった生徒】

- ・例文（質問文）の暗記。
- ・会話でよく使われる単語をもっと覚えておけばよかった。止まっているときや考えて言うときに **Fillers** を使うべきだった。**Rejoinders** を適切に使えるように毎回の **Small Talk** で身に付けておけばよかった。
- ・練習では、自分が答える側ばかり、質問する側ばかりでやっていたので、質問に答えて相手にも聞き返すなどができるとよかったです。時間が余って焦ってしまったのでもう少し質問の量を増やしたいです。

イ 11月の結果

表8は、7月と11月にスピーキングテストを実施した後に、話すことについて生徒が答えたアンケートの集計を人数で表したものであり、図5はそれを割合で示したものである。7月では、「ほぼ止まらずに話せた」が10%であったのに対し、11月では20%に増加している。また、「止まってしまいもっとできた」が7月では26%だったのに対し、11月では、13%と減少している。

【表8 振り返りシート：話すことについての振り返り（単位：人）】

	4：ほぼ止まらずに話せた	3：時々止まるが話せた	2：止まってしまいもっとできた	1：うまくできなかった	N
7月	7	40	18	4	69
11月	14	43	9	3	69

【図5 振り返りシート：7月と11月の話すことについての振り返りを割合で示したもの】

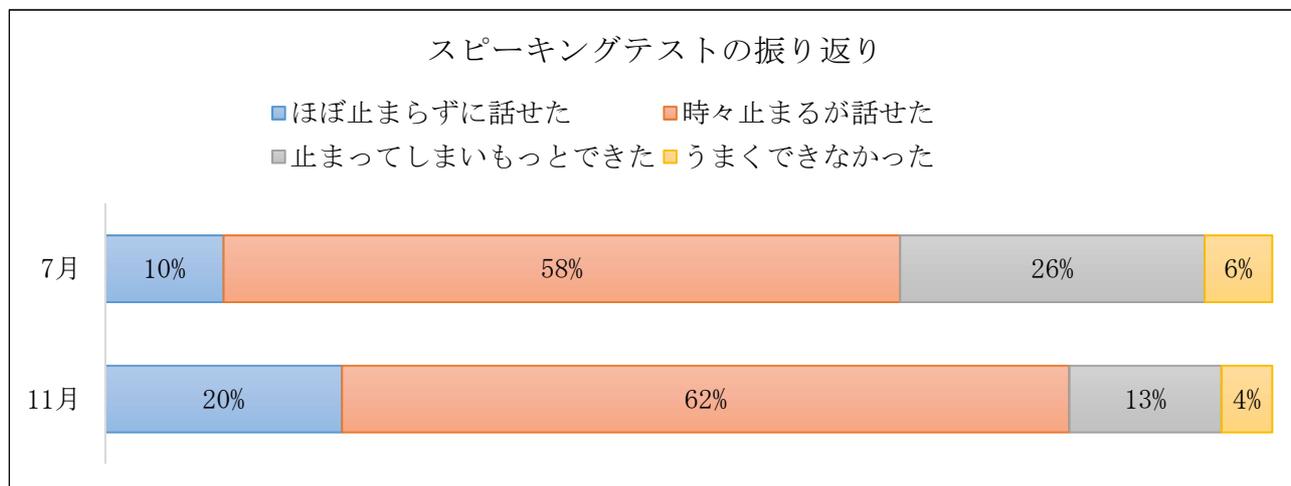


表9は、振り返りの「話すこと」について数値が上がった生徒（例：「3→4」は7月には3を選び、11月には4を選んだことを示している）の振り返りのコメントを抽出して、7月と11月に分けて載せたものである。7月に行われたスピーキングテストの振り返りと比べて、今回のスピーキングテストではどうだったのか振り返ることができている。例えば、7月では、「とても緊張してきて、覚えたものを忘れてしまった」と答えた生徒Aは、11月では「とても緊張したけど、自分の覚えたことを忘れずに言えた」と答えている。また、7月の「相手の言うことに反応していろいろ言うことができればよかった」という生徒Iの振り返りが、11月には「少しは、自分で考えて喋れるようになったと思う」と変化しており、7月の振り返りを11月のスピーキングテストに生かしている様子が分かる。

【表9 振り返りの「話すこと」において数値が上がった生徒】

		7月	11月
生徒A	3→4	先生の前に立ったらとても緊張してきて、覚えたものを忘れてしまった。	とても緊張したけど、自分の覚えたことを忘れずに言えた。
生徒B	3→4	特に大きな成長はない。でも使えるようになった定型文は増えたと思う。怖くてあまり話せなかった人とも、ペアワークのローテーションで話す機会ができて話せた。	クラスの友達が増えたこともあり、誰がペアになっても大丈夫と思えるようになった。通じると楽しいと思えるようにもなった。
生徒C	3→4	I see. などの相づちをもっと増やしたり、Let me see. などの Fillers を増やしたりして会話の空白を埋めたりするとよかった。	(授業内で) ペアの子と何度も I see. などの相づちを練習した。7月にやったスピーキングテストよりは確実に話すスピードやハキハキ話すことがよくなったと思う。これを続けていきたい。
生徒D	3→4	相手の答えについてもっと深掘りするような質問をたくさんすればよかった。	難しい会話でも相手の言っていることをちゃんと理解でき、それに対して質問もできるようになったのでちょっと余裕を持てるようになった。
生徒E	3→4	最初の方は少し詰まってしまうたりしたのでもっとスラスラと言えるようにしたかった。	相手が急にしてきた質問でも質問に合った答えを返すことが少しできるようになってきたと思う。
生徒F	2→4	自分から積極的に話していたら、止まることがなかったなと思ったので事前に質問を考えればよかった。1年生のときよりも授業が好きになったのでこれからもキープしつつ伸ばしていきたいです。	4月から日が経つにつれてすぐに言いたいことを英語で思い出すことができるのが成長したかなと思います。前回のスピーキングテストよりもスラスラと話せるようになったし、英語で話せるとさらに楽しいということが分かりました。
生徒G	1→3	もうやりたくない！！	授業の Small Talk で何回も同じのをやったので、家で覚える必要がなく楽だった、6月よりもだいぶ成長したと思います。
生徒H	1→3	会話でよく使われる単語をもっと覚えておけばよかった。	前より文で話せるようになってきているのでこれからもがんばっていこうと思います。
生徒I	1→2	積極的に自分から言えるようにすればよかった。相手の言うことに反応しているという言うことができればよかった。	少しは、自分で考えて喋れるようになったと思う。

表10は、11月の振り返りで、「話すこと」について7月よりも数値を低く選択した生徒のコメントである。前回できていたことが今回はできておらず、点数を低く選んでいることが分かる。

【表10 振り返りの「話すこと」について数値が下がった生徒】

		7月	11月
生徒J	3→1	緊張してなかなか質問が思い浮かばなかったけど、自分の考えた質問ができて練習の成果が出せて嬉しかった。	書いたことを思い出すのに必死になっていたから暗記じゃなくて自分の考えをすぐに言葉にできるようにしたかった。

生徒K	3→1	自分の気持ちを言葉にできるようになった。文法や簡単な言葉を使って話すことばかり考えていたけど、何回も会話を練習して、感情や自分の思っていることを単語だけでも伝えられるようになった。	質問をできるだけする、相づちをするということばかり考えていたため、自分の意見が緊張してうまくできなかった。 <u>自分の意見を覚えていなくても伝えられるようにしたい。</u>
-----	-----	--	---

(3) 考察・分析

ア パフォーマンス評価によって自分の成長を実感することができるか。

今回のスピーキングテストでの目標は、2分間身近な話題について話すことであったが、2分以上話せた生徒が68%であった。また、表4から分かるように、「ほぼ止まらずに2分以上話せた」と答えた生徒のコメントに、「理解できるようになった」「気持ちを言葉にできるようになった」などの記述があり、何ができるようになったか明確に答えられている。また、表5の「うまくできなかった」と答えた生徒のコメントから、「もっと勉強したらもっと楽しくなる」や「人と話せるようになった」などと、こちらも何ができるようになったかや、どうすればできるようになるかについて書かれていた。これらのことから、パフォーマンス評価は、生徒がどの程度スピーキングテストができたかに関係なく、どの生徒にとっても、自分は何ができるようになったのか実感を与える機会となると考えられる。このことは、上述の“パフォーマンス評価は学習者に「何ができていて、何ができていないのか」について気づきを与える機会となる(高井&岡崎, 2019)”ということからも、パフォーマンス評価を行うことで、日頃の授業でやってきた生徒の学習がどの程度できるようになったか自覚することができるようになると言える。

イ パフォーマンス評価によって新たな課題を見つけることはできるのか。

「ほぼ止まらずに2分以上話せた」と振り返った生徒のコメント(表6)から、「これから少し難しい単語を覚えていき、レベルを上げたい」や「もっと深く理由を述べることができたよ良かった」など、自分の何が不足しているか、次に向けての課題は何かを見つけ出すことができている。さらに、表7の「うまくできなかった」と答えた生徒のコメントからも、「例文(質問文)の暗記」や「会話で使われている単語をもっと覚えておけばよかった」、「もう少し質問の量を増やしたい」など、自分のスピーキングテストまでの取組を振り返り、新たな課題を見つけることができている。さらに、「授業内で練習するときから自分で考えた質問を使って定着させておけばよかった」と授業の中でどうしておくべきだったか振り返ることもできている。即興性を求められる今回のスピーキングテストでは、短期間で何かを覚えておくだけでなく、練習してきたことがどの程度発揮できるかが問われている。そのため、日頃の授業でできるようにしておくことが求められている。国立教育政策研究所教育課程センター(2021)が述べている、評価が学期末や学年末の事後の評価で終始してしまい、“評価の結果が生徒の具体的な学習改善につながっていない”という指摘からも、パフォーマンス評価を行うことで、授業でやっていることが評価され、生徒が自ら自分の学習について振り返り、新たな課題を見つけ出す持続的な学習活動を行っていくことができると考えられる。

ウ パフォーマンス評価によって得られた新たな課題を次につなげることはできるのか。

図5より、生徒が自分の話す力について向上していると感じていることが分かる。表9より、2から4に上がった生徒Fは、7月に「自分から積極的に話していたら、止まることがなかったと思ったので事前に質問を考えればよかった。1年生のときよりも授業が好きになったのでこれからもキープしつつ伸ばしていきたいです」と振り返り、11月には、「4月から日が経つにつれてすぐに言いたい

ことを英語で思いつくことができるのが成長したかなと思います。 前回のスピーキングテストよりもスラスラと話せるようになったし、英語で話せるとさらに楽しいということが分かりました」と振り返っている。このようなコメントから、生徒は7月に「何ができて、何ができていないのか」明確にすることができ、そのことについて授業で取り組んだと考えられる。そして、11月の振り返りで、できるようになったと実感している。パフォーマンス評価によって得られた課題を、次のパフォーマンス評価に生徒が自らつなげようとしている姿がここに現れている。

(4) 終わりに

今回の実践は、7月には、身近な話題を扱い、11月には社会的な話題である環境問題を扱った。身近な話題よりも、社会的な話題の方が生徒にとって難しい話題であろう。そして、7月では2分間だったが、11月では2分30秒間のスピーキングテストを行っている。テーマと時間がより高度なものとなっているが、生徒の話すことについての意欲は向上していた。身近な話題から社会的な話題に発展させる橋渡しとしても日頃から生徒が英語を使ってコミュニケーション活動を即興で行う Small Talk が重要だと考えられる。今回の研究では、評価のことが焦点となっていたが、学習指導要領では日々の授業改善も求めている。生徒が英語を実際に話すコミュニケーション活動をまずは日々行うことが最低限必要なことであり、そこに効果的な評価を行うことで、さらなる授業改善が期待できるのだと考える。

9 参考文献

- ・文部科学省 (2018) 『高等学校学習指導要領 (平成 30 年 7 月)』
- ・高井一雄・岡崎浩幸 (2019) 「ルーブリックを活用した授業実践とパフォーマンス評価」
- ・国立教育政策研究所 (2021) 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校外国語』
- ・谷戸聡子・中島雅子・堀 哲夫 (2012) 「OPPA を活用した高校英語の授業改善に関する研究－高校1年「関係詞」の単元を事例にして－」『教育実践学研究』No. 17, pp. 34-44.

One Page Portfolio Assessment for Your Speaking Test

Class : _____ Number : _____ Name : _____

自己評価シート

I. 次の質問について答えてください。

1. 次々質問について話すことはできましたか。
 1. なめらかに話すことはできましたか。
 2. ほぼ止まる前に話せた
 3. 時々止まるが話せた
 4. 止まってしまうこともあった
 5. うまくできなかった
2. 文法や発音を間違えることなく話せましたか。
 1. ほとんど間違えを感じずにできた
 2. 2、3箇所間違えた
 3. ときどき間違えた
 4. たくさん間違えた
3. 相手の目を見て話せましたか。
 1. 7、8割できた
 2. 半分ぐらいできた
 3. あまりできなかった
 4. まったくできなかった
4. Conversation Strategies を使うことはできましたか。
 1. Reorders/Great / I see... Really? など
 2. 3回以上適切に使った
 3. 2回適切に使った
 4. 1回しか使っていない
 5. 使っていない
- ② Fillers (Well... Let me see... など)
 1. 3回以上適切に使った
 2. 2回適切に使った
 3. 1回しか使っていない
 4. 使っていない
- ③ Shadowing (相手の言ったことをくり返す)
 1. 3回以上適切に使った
 2. 2回適切に使った
 3. 1回しか使っていない
 4. 使っていない
- ④ Follow-up Questions (質問を付け加える)
 1. 自分で考えた適切な質問が複数できた
 2. 自分で考えた適切な質問が1つできた
 3. 自分で考えた適切な質問ができた
 4. 自分で考えて質問できなかった

付属資料 2

III. スピーキングテストに向けてどのような取組をしましたか。具体的に書いてください

授業内	授業内
月	月
授業外	授業外
月	月
授業内	授業内
月	月
授業外	授業外
月	月

IV. もっとこうすればよかったと思うことを具体的にたくさん書いてください。

月	月
月	月
月	月
月	月
月	月

V. 今年度4月から英語を話すことによりどのような成長がありましたか。具体的にたくさん書いてください。

月	月
月	月
月	月
月	月
月	月

VI. 感想 (自由にたくさん)

月	月
月	月
月	月
月	月
月	月

実践報告3

帯活動を通じたディスカッション（基礎）の指導について

—生徒が楽しみながら、苦手意識を克服する授業を目指して—

愛知県立大府東高等学校 教諭 榊原 啓文

1 はじめに

漠然と英語が苦手だと感じている生徒に対して、スモールステップを積み重ねることで生徒の自信を付けさせる必要があると考えている。本稿では、主に「話すこと [やり取り]」に着目し、その指導の過程における帯活動、パフォーマンステストを通じた生徒の成長と変化を紹介したい。その成果と課題を分析した上で、ディスカッションの一連の指導方法や評価の工夫について報告する。

2 単元の目標と言語活動

(1) 教材

ア 教科書：Grove English Communication III New Edition（文英堂）

イ 単元：Lesson 16 Earth Hour

(2) 単元の目標

題材である Earth Hour の取組を通して、ふだんの生活の中で可能なエネルギーの節約について考える。文法における学習事項である①倒置、②SVOC（過去分詞）の用法や注意事項を理解する。

言語活動としては、身近にできるエネルギー節約について、自分の考えを伝えたり他人の考えを聞いたりすることで、新たな行動について考えることで、ディスカッションの基礎的な技術を身に付ける。

3 関係する領域別目標（学年のCAN-DO）

聞くこと	身近な話題や社会性のある内容について、簡単な内容であれば情報や説明を繰り返して聞いて、要点を理解することができる。
読むこと	論理性のある説明文や物語文など、さまざまな分野の英文を読んで、辞書を使い、語彙リストがあれば大筋の内容を的確に理解できる。内容について英語の質問に簡単な英語で答えることができる。
話すこと [やり取り]	日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。
話すこと [発表]	日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。
書くこと	教科書に関連した話題や幅広く社会に関係したテーマに関する自分の考えを、辞書などを効果的に使いながら100語程度で書くことができる。

4 単元の評価規準（五つの領域ごとの評価規準の設定）

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと [やり取り]	<p><知識> 倒置/SVOCの用法を理解している。</p> <p><技能> 身近なエネルギー節約や本文を読んで感じたことを伝えられる技能を身に付けている。</p>	相手に自分の考えを伝えるために、教科書の内容を参考にして、環境保護について理由などを加えながらやり取りをしている。	相手に自分の考えを伝えるために、教科書の内容を参考にして、環境保護について理由などを加えながらやり取りをしようとしている。
書くこと	<p><知識> 自分の意見や主張を伝えるために必要な論理の構成や展開及び表現等を理解している。</p> <p><技能> 環境保護について、自分の意見や主張を、論理の構成や展開を工夫して詳しく書く技能を身に付けている。</p>	読み手に理解してもらえるように、環境保護について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や主張を論理の構成や展開を工夫して詳しく書いて伝えている。	読み手に理解してもらえるように、環境保護について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や主張を論理の構成や展開を工夫して詳しく書いて伝えてようとしている。

※「聞くこと」については目標に向けて指導は行いが、本単元において記録に残す評価は行わない。

5 言語活動を中心とした指導と評価の計画

時間	ねらい、学習活動	評価の観点			指導上の留意点 評価規準（評価方法）
		知	思	主	
1 5 3	<p>【ねらい】 単元のテーマに対する生徒の興味・関心を喚起するとともに、今回の単元の目標を確認する。 教科書や関連する話題を扱った他教材から必要な情報を得たり、特定部分の要点を捉えたりする。</p> <p>【学習活動】</p> <p>①帯活動（small discussion）</p> <p>②本文中の倒置やSVOC等の文法に関する事柄を理解する。</p> <p>③教科書を読んで、特定部分の要点（Earth Hourの概念とその効果）を理解する。</p> <p>④教科書のQ&Aを解く。</p>	ね一 導齊 にに 生記 か録 すし こと残 は徒す 毎の 時価 間活 行動 行の う。わ 。状 。況 。不 を見 届だ けし て、 て			<ul style="list-style-type: none"> 単元の目標をロイロノートで配信する。 単元を通して学習の振り返りは適宜行わせる。（ロイロノート）

4	<p>【ねらい】 今回の単元で学習したことや、教師から得た情報などを参考にして、自分が実践している環境保護のアイデアをまとめる。</p> <p>【学習活動】</p> <p>①教科書の Activities や教師が考えた環境保護のアイデアとその効果に関する説明を聞いて、概要や要点を捉える。</p> <p>②①を参考に、自分が実践している環境保護のアイデアを語句レベルでメモを作成する。</p> <p>③ディスカッションに必要な表現を理解する。</p> <p>④②のメモや③を活用しながら、アイデアをペアで伝え合う。</p>	<p>一斉に記録に残す生徒の評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を見届けて指導にかかすことは毎時行おう。</p>			
5	<p>【ねらい】（パフォーマンステスト） まとめたアイデアを相手に伝える。</p> <p>【学習活動】</p> <p>①3人グループを作り、ディスカッションの流れを理解する。</p> <p>②自己評価をする。</p>		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ループリックによる評価 ・パフォーマンステストを行わないグループは教員による評価は行わず、自己評価のみとする。
6	<p>【ねらい】 他人の考えも聞いた上で、環境保護のために自分ができることを英文で書く。</p> <p>本単元で学んだことや次の目標などを振り返りシート（ロイロノート）を用いて記入する。</p> <p>【学習活動】</p> <p>①50語程度の作文を書く。</p> <p>②今回の単元の学習内容を振り返る。</p>		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配布し、①の内容から、「思考・判断・表現」を評価する。あわせて、②の記載状況から「主体的に学習に取り組む態度」も評価する。 ・①について、ロイロノートへの記載を検討する。
後日	ペーパーテスト	○	○	○	

6 パフォーマンステスト

(1) 実施方法

- ア 9月下旬に実施
- イ 3人1組8グループ（計24人）
- ウ ディスカッションの流れを確認し（別添資料）、役割分担

(2) 指導上の留意点

- ア 聞き手が理解しやすいよう平易な表現を用いるように促す。

イ ディスカッションの流れ，使用できる表現については別紙で示す。

ウ ルーブリックに従って，生徒が意識すべきポイントを示す。

(相づち，他人の意見を評価する表現，自分の意見，理由，サポートセンテンスなど)

7 ルーブリック

(1) 評価方法

ア 自己評価と教員による評価（思考・判断・表現）

イ 振り返りのアンケート調査（主体的に学習に取り組む態度）

(2) 評価の領域（内容のまとめ）：「話すこと[やり取り]」

○「思考・判断・表現」についての三つの条件

条件1：環境保護に関する自分の意見を示している。

条件2：なぜそれを実践しているか理由を述べている。

条件3：他人の意見を反応したり確認したりする表現を使用している。

評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a (3点)	・語彙や表現を適切に使用している。 ・聞き手に分かりやすい音声等で話している。	三つの条件を満たした上で，関連した情報や自分の考えを詳しく話して伝えている。	三つの条件を満たした上で，関連した情報や自分の考えを詳しく話して伝えようとしている。
b (2点)	・多少の誤りはあるが，理解に支障のない程度の語彙や表現を使って話している。 ・理解に支障のない程度の音声等で話している。	三つの条件を満たして話して伝えている。	三つの条件を満たして話して伝えようとしている。
c (1点)	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

※「おおむね満足できる」状況を b とする

8 実践報告

(1) 計画

3年生文系クラスのコミュニケーション英語β（3単位）において実施する。ロイロノートでさまざまな学習を行っているため，振り返りや経過の記録を残すのに生徒がスマートフォンを利用することは一般的になっている。生徒用Wi-Fi，生徒用プリンタも整備され，ICTの環境としては徐々に改善されている。ただ，タブレットが80台しか導入されておらず，タイピングなどの作業を求めると不都合が生じることもある。

(2) 実践

9月下旬に実施。当初4人1グループで計画していたが，評価の正確さを高めるため3人1グループで実践した。8グループを1時間で終える予定が，ワクチン接種の副反応で欠席者が続いたことなどにより，実際には3時間を要した。それぞれのグループのパフォーマンスをタブレットで撮影した

が、評価の補助的な役割を担い、結果的に有効であった。

(3) 検証

今回のパフォーマンステストを行うに当たり、生徒がディスカッションに慣れていないということもあり、以下のように段階を踏んだ。

- ア 単元の目標を示す際、ディスカッションによるパフォーマンステストの実施を予告する。
- イ 毎授業の帯活動で、使用できる表現を増やしながらディスカッションの練習を重ねる。
- ウ 最初のディスカッションを終えたのち、その感想をロイロノートに記録し、生徒の技量と心情の変化を読み取れるようにしておく。
- エ パフォーマンステストにおけるテーマは事前に発表しておくが、グループは当日に発表し、ある程度の即興性や対応力も要求する。
- オ テスト後、自己評価を行い、教員による評価の返却時には面談でアドバイスをを行う。
- カ 単元終了後、ディスカッションにおける自分の成長と今後の目標などをロイロノートに記録し、評価の参考にする。

毎時間の帯活動は、”Should we go abroad to improve your English skill?” など生徒に関連する話題を設定し、使用できる表現を駆使しながら「やり取り」の時間は確実に増えていった。使用したテーマや参考にできるURLをロイロノートで毎回生徒に送信し、興味関心を深められるよう工夫した。

全体的には、ほとんどの生徒がディスカッションを通して自分の意見を言えるようになり、今後も英語を話せる機会が必要と感じる生徒も多かった。

(4) 考察・分析

ア 自己評価の結果

ディスカッション終了後、生徒は自己評価を行った。3観点について、ループリックのa, b, cに鉛筆で○を付けた上で提出した。その後、教員はa, b, cに赤ペンで評価を重ね、コメントを付して返却した。その際、今後の目標などを面談で確認し、生徒のモチベーションが少しでも上がるようにポジティブフィードバックを心がけた。

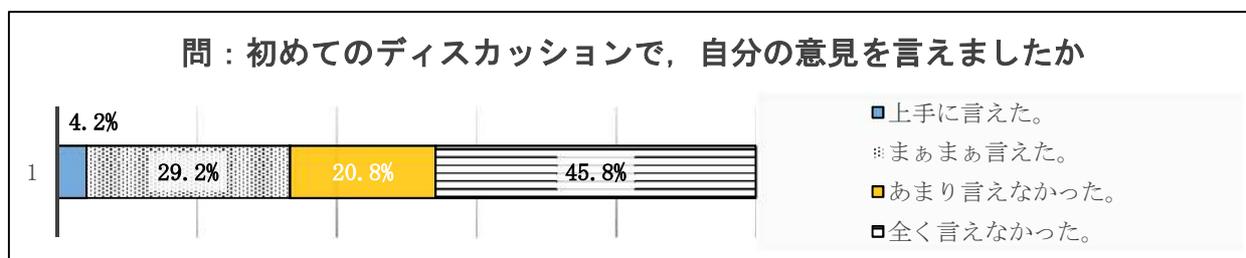
イ 教員による評価

パフォーマンステストの結果は以下のとおりであった。

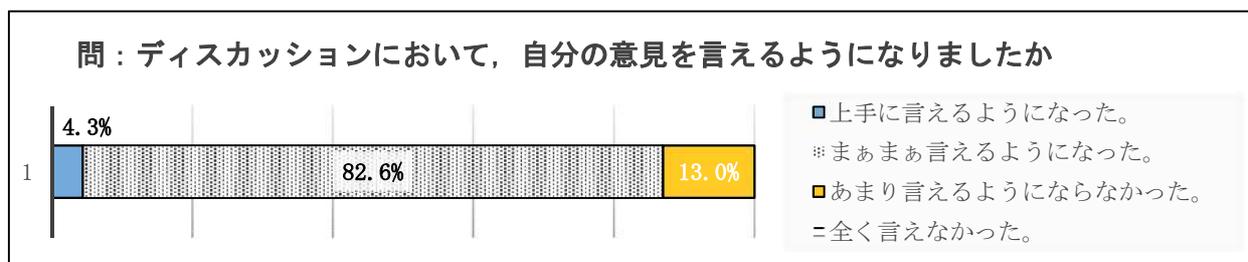
- ・「知識・技能」 a: 3人, b: 19人, c: 2人
- ・「思考・判断・表現」 a: 4人, b: 14人, c: 6人

ウ 生徒の情緒面の変化

ロイロノートにおいて、生徒の情緒面の変化を確認した。結果は以下のとおりである。



【図1 指導初期の生徒の意識】



【図2 指導後の生徒の意識】

上記のとおり、帯活動やパフォーマンステストを通して、自分の意見を言えるようになった生徒が大幅に増え、英語で「やり取り」をすることへの不安が取り除かれたことが分かる。英語で「やり取り」することの楽しさを感じた生徒が多いことも、以下の生徒の感想を見れば明らかである。

(5) 生徒の感想（一部生徒の抜粋）

ア 帯活動で、初めてディスカッションを行った後の感想

- ・英語で話すのが上手いかなかった。書くよりも話す方が難しく、同じ単語や簡単な単語しか使えなかった。
- ・会話が膨らまなかった。ちゃんとした理由になっているのか分からない。
- ・自分が言いたいことを英語で伝えるのが難しい。

イ パフォーマンステスト後の感想

- ・相手の意見を聞いて、反応したりすることはできるようになったのだけど、自分の意見を言うとなると、まだ単語が思いつかなかったりして伝えきれないところがあったので、もっと単語のスキルをあげていきたいなと思いました。
- ・discussion はコミュニケーション英語βの授業で初めてやったけれど、英語で自分の意見を伝えるのは難しかったです。でも、他の人の意見を共有するのは楽しかったです。また機会があれば、もっと相手に反応してより会話をスムーズに出来るようになりますです。
- ・単語や文法もちろん大事ですがコミュニケーション能力も大事だなと思いました。聞き取りやすい声や速さ、相手の目を見て反応することも大切だと学びました。相手が反応してくれたらあまり緊張もせず会話ができ楽しかったです。

(6) 改善点等

ア 「相手の考えを確認する」「自分の考えを言い換える（繰り返す）」など詳細に指示をしていたため、細かい流れを気にしすぎる生徒が多かった。

イ 教員用タブレットのみでは生徒の発言が聞き取りづらく、ICレコーダーがあるとよりよい。

9 参考文献

- ・文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 外国語編 英語編』
- ・文部科学省 国立教育政策研究所（2019）『学習評価の在り方 ハンドブック 高等学校編』
- ・国立教育政策研究所（2020）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校外国語』

ある TOPIC について互いに意見を出し合いながら議論を進めるもの。意思決定か意見交換を目的とする。

A：テーマについて尋ねる。

B：自分の考え+理由・サポートセンテンスなど

A：相手の意見に反応する。自分の考え+理由・サポートセンテンスなど

B：相手の意見に反応する。あいさつ。(Aも)

A：テーマについて尋ねる。

B：自分の考え+理由・サポートセンテンスなど

A：相手の考えを確認する。

B：自分の考えを言い換える(繰り返す)。

A：相手の意見に反応する。自分の考え+理由・サポートセンテンスなど

B：相手の考えを確認する。

A：自分の考えを言い換える(繰り返す)。

B：相手の意見に反応する。あいさつ。(Aも)

意見を述べる

I think ～.

In my opinion, ～.

I'd like to say ～.

(他人の意見の後) Let me make another proposal. ～.

(他人の意見の後) I'd like to add ～.

理由を述べる

I think ～ because

The reason is that ～.

Let me give my opinion. ～.

賛成意見を述べる

I agree with you because ～.

I think that's a good point.

反対意見を述べる

I don't agree with you because ～.

My opinion is quite different from yours.

相手に尋ねる

What do you think, ○○?

How about you, ○○?

相手の意見に反応する。

That's a good idea.

Sounds great / good / nice.

That's true.

相手の考えを確認する

Are you saying that ～? / You are saying that ～.

What you mean is that ～.

What you are saying that ～.

その他

As for me, ～. 「私に関して言えば, ～」

In my case, ～. 「私の場合, ～」

実践報告4

Discussionのパフォーマンステスト

—英語が苦手でもできる「やり取り」への挑戦—

愛知県立岩津高等学校 教諭 荻窪 雄太

1 はじめに

本校生徒は英語が極めて苦手である生徒が多い。スピーチなどの「話すこと [発表]」に対しては意欲的に取り組む姿が見られるものの、即興性を求められるような活動に対する自信をもっている生徒はいない。そこで、英語が苦手であってもある程度即興性のある「話すこと [やり取り]」の活動に挑戦し、成功体験を得ることで「英語でやり取りをすること」への自信をつけさせたいと考えた。

2 単元の目標と言語活動

(1) 教材

ア 教科書：NEW FLAG English Communication III（増進堂）

イ 単元：Chapter 2 Uluru, Not Ayers Rock

(2) 単元の目標

ア Uluru が先住民にとってどのようなものなのかについての理解を深め、観光と観光地の保護について多角的な視点で考え、自身の考えを深めることができる。

イ 他者の意見を英語で理解し、内容に合わせて自分自身の考えを英語で述べることができる。

ウ 自分とは異なる考え方を踏まえた上で、自分の考えを英語で書くことができる。

3 関係する領域別目標（学年のCAN-DO）

聞くこと	身近な話題や既習の内容であれば、教師や級友が話す英語を理解することができる。
読むこと	教科書の英文を日本語に訳さずに概要をとらえることができる。
話すこと [やり取り]	教科書の内容について自分の意見を述べるができる。
書くこと	教科書の内容などについて、自分の意見や感想を70語以上の英文で書くことができる。

4 単元の評価規準（五つの領域ごとの評価規準の設定）

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	<p><知識> 級友が使用する英語の語彙や表現（観光・環境関連の表現）を理解している。</p> <p><技能> 先住民と観光について書か</p>	先住民と観光について書かれた文章に関する級友の意見を英語で聞き、さまざまな考え方の概要や要点を捉えている。	先住民と観光について書かれた文章に関する級友の意見を英語で聞き、さまざまな考え方の概要や要点を捉えようとしている。

	れた文章に関する級友の意見を英語で聞き取り，相手の主張をおおむね理解している。		
読むこと	<p><知識> 先住民と観光について書かれた文章に関する語彙や表現を理解している。</p> <p><技能> 先住民と観光について書かれた文章を読んで，日本語に訳さずに概要を理解している。</p>	先住民と観光について書かれた文章を時間軸に沿って理解し，問題点や解決策を整理している。	先住民と観光について書かれた文章を時間軸に沿って理解しようとし，問題点や解決策を整理しようとしている。
話すこと [やり取り]	<p><知識> 相づちや賛成・反対など会話を円滑にする表現を覚えている。</p> <p><技能> 相づちや反対など会話を円滑に進める表現を自然に使っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 相づちや反対など会話を円滑に進める表現や本単元で学んだ語彙などを状況に合わせて使っている。 他者の発言を理解した上で，自分の意見を話して伝えている。 	自ら積極的に自分の意見を相手に伝わるように英語で述べたり，相手と積極的にコミュニケーションを取ろうとしたりしている。
書くこと	<p><知識> 自分の考えを理由とともに根拠や具体例を述べる書き方を理解している。</p> <p><技能> 自分の考えを理由とともに根拠や具体例を述べる書き方をしている。</p>	先住民と観光について書かれた文章に関する級友のさまざまな意見を踏まえて，自分の考えを70語以上の英語で書いている。	先住民と観光について書かれた文章に関する級友のさまざまな意見を踏まえて，自分の考えを英語で書こうとしている。

5 言語活動を中心とした指導と評価の計画

時間	ねらい，学習活動	評価の観点			指導上の留意点 評価規準（評価方法）
		知	思	主	
	<p>【ねらい】 英語で読んだ内容に関する級友の意見を聞くという4技能を統合した言語活動を行い，英語の技能を高めるとともに，さまざまな意見に触れることで視野を広げる。</p> <p>【学習活動】 Discussion</p> <p>①『もし自分がオーストラリアの首相だとしたら，Uluruに登ることを禁止するか』について考え，その理由を書く。</p> <p>②肯定側・否定側に分かれてディスカッションを行い，生徒それぞれの考え方を学級内で共有する。</p> <p>③討論を終えて，最終的な自分の考えをまとめ，本時の振り返りを行う。</p>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 級友の発言に対して，賛成なのか反対なのかを示した上で発言するように促す。 生徒の発言を教員がパラフレーズしたり，キーワードを板書したりすることで，生徒の発言を理解できるように支援する。 <p>ループリックによる評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 他の生徒の意見を聞き，さまざまな考え方を理解することができる。 他者の発言を理解した上

					<p>で、自分の意見を述べることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞き手に分かるように自ら積極的に自分の意見を英語で述べようとしている。
	<p>【ねらい】 Discussionで聞いた内容を、板書のメモを基に自分で書くという4技能を統合した言語活動を行い、英語の技能を高めるとともに、次回のパフォーマンステストへとつなげる。</p> <p>【学習活動】 Summary Discussionの際にまとめた板書を写真に撮っておき、板書を見ながらどんな意見が出たかを英語でまとめる。</p>	○			<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのトピックについて、賛成と反対の立場ごとにまとめさせる。 ・まず生徒各自で行い、様子を見て級友と相談しながら行わせる。
	<p>【ねらい】 語彙や表現、及び級友の発言内容など、本単元を通して学んできた全ての力を試すパフォーマンステストを行うことで、本単元での学びの評価及び振り返りを行う。</p> <p>【学習活動】 Performance test 詳細は6のパフォーマンステストの項目に記載。</p>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・詳細は6のパフォーマンステスト、7のルーブリックに記載。
	<p>【ねらい】 最後に自分なりの思考を整理することで、学びを深めるとともに、書く力を高める。</p> <p>【学習活動】 Essay Writing 言語活動を通してさまざまな考え方に触れた後で、自分の考えを再構築し、自分とは異なる考え方を踏まえ、現在の自分の考えを改めて書く。</p>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・自分とは異なる考え方について触れた上で、自分の考えを書くという書き方について例示する。 ・70語以上書くように促す。 <p>ルーブリックによる評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分とは異なる考えに触れているか。 ・最初の自分の考えよりも深まっている、もしくは変化しているか。 ・70語以上書くことができているか。

6 パフォーマンステスト

(1) 実施方法

本単元の Discussion 活動で扱った「もし自分がオーストラリアの首相だとしたら、Uluruに登ることを禁止するか」という質問について、ペアで話し合うパフォーマンステストを行う。以下の方法で行う。

- ・誰とペアになるかは分からない。
- ・賛成と反対の立場はどちらになるか分からない。
- ・相手の意見に関連する反対意見を述べる。
- ・3分間会話を続けようとする。
- ・別の場所で教員と生徒2名がテストを行い、教室でその他の生徒は自習を行う。

(2) 指導上の留意点

- ・事前に教員が会話のモデルを示す。
- ・事前に異なるペアで複数回練習させる。
- ・テスト実施前にルーブリックを配布し、目標と評価の観点を共有する。
- ・テスト実施後は教員による評価を記入したルーブリックを生徒に返却し、フィードバックする。

7 ルーブリック

(1) 評価方法

生徒二人による会話を、教員がルーブリックを用いて採点する。

(2) 評価の領域（内容のまとめ）：「話すこと [やり取り]」

	目標	a	b	c
知識・技能	相づちや反対など会話を円滑に進める表現を自然に使うことができる。	表現集の多様な表現を自然に用いている。	ある程度同じ表現を用いている。	表現を用いていない。
	この単元で学んだ語彙や表現を適切に使うことができる。	多様な語彙や表現を適切に用いている。	ある程度語彙や表現を適切に使っている。	語彙や表現を適切に使っていない。
思考・判断・表現	自分の意見を理由や根拠とともに述べることができる。	自分の意見を理由や根拠とともに述べている。	自分の意見を述べている。	自分の意見を述べていない。
	相手の意見に合わせた反論をすることができる。	相手が述べたことに関連した反論をしている。	反論をしている。	反論をすることができない。
取り組む態度 主体的に学習に	相手と積極的にコミュニケーションを取ろうとしている。	3分間会話を継続させるために自分から働きかけをしている。	3分間会話を継続させようとしている。	3分間会話を継続させようとしていない。

※「おおむね満足できる」状況をbとする

8 実践報告

(1) 実践の内容と検証方法

本単元の Discussion 活動で扱った「もし自分がオーストラリアの首相だとしたら、Uluru に登ることを禁止するか」という質問についてペアで話し合うパフォーマンステストを行った。このテストでは誰とペアになるか、自分が肯定側・否定側のどちらの立場になるかテスト直前まで分からないという条件の下で行った。また、相手の意見に関する内容で反対意見を述べるように制限することで、相手の話を理解して、即興で応答することを求めた。ルーブリックを用いて3観点による評価を行ったので、その評価結果を分析することで、本実践の成果を検証する。また、パフォーマンステスト直後に生徒が書いた振り返りについても考察する。

(2) 実践の結果と考察

最初に、以下のア～ウの点についてルーブリックの評価結果を振り返りながら考察したい。

ア 知識・技能に関する本単元の目標を達成することができたか。目標達成に向けての支援のよかつた点と不十分な点は何か。

知識・技能の観点では次の2点を評価した。

- | |
|--------------------------------------|
| ① 相づちや反対など会話を円滑にすすめる表現を自然に使うことができるか。 |
| ② この単元で学んだ語彙や表現を適切に使うことができるか。 |

目標達成に向けての支援

- | |
|--|
| ①-1 ふだんの授業の中で、コミュニケーション活動を行う際には相づちなどの表現を使うように求めた。 |
| ①-2 コミュニケーション英語Ⅲの授業だけではなく、英語表現Ⅱの授業においても同様の表現を使うように求めた。 |
| ②-1 本単元で使われる語句については、単語カードにして生徒に配布し、帯活動として毎時間繰り返し学習する機会を設けた。 |
| ②-2 学級全体での Discussion を行う際に、重要語句については板書した。生徒は板書をたよりに討論された内容を英語で自分なりにまとめるという活動を行った。 |
| ③-3 パフォーマンステスト前に、複数回、異なるペアで本番同様の条件の下練習を行った。 |

パフォーマンステスト実施時の知識・技能の観点①、②の評価の結果は以下の通りである。

【表1 パフォーマンステストの結果：知識・技能】

	a	b	c
①	81.8%	18.2%	0.0%
②	18.2%	72.7%	9.1%

①の「相づちや反対など会話を円滑に進める表現を自然に使うことができるか」については、a評価が81.8%と大多数を占め、c評価は一人もいなかった。①については目標を十分達成できたと考えられる。①の目標達成に向けての支援としては、継続的に繰り返し表現を使用する機会を教科を横断して設けたことが結果につながったのだと考えられる。

②の「この単元で学んだ語彙や表現を適切に使うことができるか」についてはb評価が72.7%であり、おおむね目標を達成できているものの、a評価が18.2%と低く、改善の余地が見られる。①の目標達成に向けての支援としては、語彙や表現を理解させるには十分であったが、使えるようにさせるには不十分であったと考えられる。特に目標達成に向けての支援②-3の異なるペアで本番同様の条件のもと練習を行ったという部分については、合計で3回練習を行ったのみであり、肯定側と否定側の両サイドの意見を自分なりに伝える練習としては不十分であったかもしれない。また、②-2では Discussion で出てきたさまざまな意見を自分なりに書いてまとめるという活動を行ったが、書いて終わりではなく、有用な語彙や表現の発話練習を全体で行うなど、使える状態にするためのステップを設ける必要があると感じた。

イ 思考・判断・表現に関する本単元の目標を達成することができたか。目標達成に向けての支援のよかつた点と不十分な点は何か。

思考・判断・表現の領域では次の2点を評価した。

- ① 自分の意見を理由や根拠とともに述べることができるか。
- ② 相手の意見に合わせた反論をすることができるか。

目標達成に向けての支援

- ①-1 自分の意見を理由や根拠とともに書く活動を行った。
- ①-2 学級全体での Discussion の際にも、自分の意見を理由や根拠とともに話すように促した。
- ①-3 ふだんの授業の中で、自分の考えを伝え合う活動を行う際には、理由や根拠とともに話すように促した。
- ②-1 学級全体での Discussion の際には、トピックごとに肯定側と否定側のそれぞれの意見を板書にまとめた。
- ②-2 学級全体での Discussion の際にも、相手の意見に合わせた反論をするように促した。

パフォーマンステスト実施時の思考・判断・表現の領域①、②の評価の結果は以下の通りである。

【表2 パフォーマンステストの結果：思考・判断・表現】

	a	b	c
①	45.5%	54.5%	0%
②	45.5%	36.4%	18.2%

①の「自分の意見を理由や根拠とともに述べることができるか」については、a評価が45.5%、b評価が54.5%であった。半数近くがa評価であることとc評価が0%であったことを考えると十分に目標を達成することができたと考えられる。目標達成に向けての支援として、①-3の「ふだんの授業の中で、自分の考えを伝え合う活動を行う際には、理由や根拠とともに話すように促した」点が効果的であったと思われる。継続的に行うことによって、英語が苦手な生徒であっても一定程度の習熟が見られ、c評価が0%であったと考えられる。

②の「相手の意見に合わせた反論をすることができるか」については、a評価は①と同様に45.5%と高かったが、c評価についても18.2%と一定数見られた。今回のパフォーマンステストにおいて最も差がついた部分であった。目標達成に向けての支援として、②-1の「学級全体での Discussion の際には、トピックごとに肯定側と否定側のそれぞれの意見を板書にまとめた」については、全て英語によって行われていたため、英語が苦手な生徒にとっては十分な支援にはなっていなかったかもしれない。どのような内容が話し合われたかを日本語でペアで確認するなどのステップを設けてもよかったかもしれない。

ウ 主体的に学習に取り組む態度に関する本単元の目標を達成することができたか。目標達成に向けての支援のよかった点と不十分な点は何か。

主体的に学習に取り組む態度の領域では次の点を評価した。

- 相手と積極的にコミュニケーションを取ろうとしているか。

目標達成に向けての支援

コミュニケーション英語Ⅲの授業だけではなく、英語表現Ⅱの授業においても制限時間いっぱいまで会話を続けるように促した。

パフォーマンステスト実施時の主体的に学習に取り組む態度の領域の評価結果は以下の通りである。

【表3 パフォーマンステストの結果：主体的に学習に取り組む態度】

	a	b	c
①	50.00%	40.90%	9.10%

a 評価が 50.0%， b 評価が 40.9%とおおむね目標を達成できたと考えられる。しかし， c 評価が 9.1%と，一定数見られることから，改善すべき点についても考えたい。目標達成に向けての支援としては，教科を横断して相手と積極的にコミュニケーションを取るよう求めたことが効果的であったと考えられる。一方で，自分の考えを英語で発話することが苦手な生徒にとっては，3分間の会話を継続させること自体の難易度が高いと思われる。そういった生徒のためにも，発話に詰まってしまった場合の表現などを常日頃から練習させるなどの支援を今後は検討したい。

最後に，パフォーマンステスト直後に書いた生徒の振り返りを一部抜粋し，生徒が今回のパフォーマンステストを通してどのように感じたのか，課題は何かなどについて考察したい。以下は生徒が書いた振り返りの抜粋である。（ ）内の語句は補足説明として私が記載したものだが，それ以外は原文のままにしてある。

できたこと

- ・自分とは逆の立場になったがきちんと反論することができた。
- ・最初お題（トピック）に合ったことを話せるか不安でしたが，意外と話を続けることができたのでよかったなと思いました。
- ・会話はずっと続いたし，相手の話しているトピックも理解して反論を言うことができた。
- ・相づちを同じ表現を使わないで，いろんな相づちを使うことができたので良かったです。
- ・自分の意見を理由と根拠をしっかりと相手に伝えることができたので良かったです。
- ・前回よりもペラペラ表現集をあまり考えずにすらすら言えるようになった気がした。会話もスムーズにすることができてよかったと思いました。

改善したいこと

- ・ペアの人の英語を聞き取れなかった部分があるのでリスニングを頑張りたいです。
- ・自分の意見を言った後に根拠となることを言えなかったなので，それを言えるようになれば説得力が増すので，そこを考えられるようになりたいと思いました。
- ・多様な語彙や表現を適切に用いることができなかった。なので，次のパフォーマンステストでは言えるようにしたいと思います。
- ・途中で止まって言いたい語句が出てこなかったなので，それができるように改善していきたいと思いました。
- ・相手と積極的にコミュニケーションを取ろうとしたけど，途中間ができてしまって，私から何か問いかけをすればよかったと後悔しています。
- ・意見だけではなくて，質問を相手にしてみたりして，自分からもっと積極的に会話をできるようにしたいと思います。

このように，できたことと改善したいことをそれぞれ抜粋してみると，「自分の意見を述べる」ことや「相づち・賛成・反対などの会話表現を用いること」はある程度できたと感じたているようだ。課題は，「相手の英語を聞き取って理解すること」や「会話が止まってしまった時の続け方」などが挙げ

られる。これらの課題についてはやり取りを成功させるための鍵となる部分かもしれない。今後は、こうした課題をあらかじめ理解し、必要な支援を授業計画に組み入れていく必要がある。

(3) 今後の展望

本実践を通して、当初のねらいである「生徒に英語でやり取りする成功体験をさせる」ことがある程度はできたように感じられる。しかし、まだまだ多くの生徒が「相手が話した内容を理解して、それに関して即座に応答をする」という点については自信がもてていない。そこで、今後は即興性のある小さなやり取りをふだんの授業で継続的に行うようにしていきたい。具体的には以下のア・イの2点に注目し、授業を実践していきたい。

ア 相手が話した内容を確認する＋相手に伝わるまで言い換えながら話す

ふだんのコミュニケーション活動において、**So, you are saying that ~?**などの表現を使い「相手が述べた内容を確認する」ことを徹底し、英語を聞いて理解する力や即興で話す力を養う。また話し手は相手が確認してきた内容が間違っていた場合には繰り返し言い方を変えて相手に伝わるように話すように指導する。こうすることで、聞き手を意識した即興性のある話す力を身に付けることができるのではないかと考えている。

イ 質問する力を身に付ける

今まで、自分の意見を理由や根拠とともに伝えることや相づち等の会話を円滑にする表現を自然に使えるようにすることに取り組んできたため、会話がスムーズに進むときは全く問題ないのだが、間が空いた場合などに会話が止まってしまうことが見られた。そこで、相手に質問をしながら会話を進められるようにすれば、どのような場合でもやり取りを継続することができるのではないかと考えている。会話の出だしだけでなく、会話の途中で必ず一つは質問をするというルールでふだんのコミュニケーション活動を展開していきたい。

実践報告5

タブレット端末を活用した「話すこと [発表]」の評価について

愛知県立惟信高等学校 教諭 久納 知幸

1 はじめに

来年度から評価の観点が三つに再編される。その中の「思考・判断・表現」を適切に評価するためには、言語活動やパフォーマンステストの更なる充実が必須である。一方で、「話すこと」のパフォーマンステストは、他の技能と比較して、実施に時間がかかることが難点だという課題が本校の教科会で指摘された。そこで、タブレット端末の活用がこの課題に対する解決策として有効であるかについて、実践を通じて検証を試みた。

2 単元の目標と言語活動

(1) 教材

ア 教科書：GROVE ENGLISH EXPRESSION II（文英堂）

イ 単元：SECTION 4 プレゼンテーションをしよう

(2) 単元の目標

与えられた条件に合わせて、即興で話す。また、伝えたい内容を整理して論理的に話す。

3 関係する領域別目標（学年のCAN-DO）

聞くこと	身近な話題や社会的な話題に関する会話やスピーチを聞いて、概要を理解することができる。
話すこと [発表]	身近な話題や社会的な話題について、自分の意見を論理的に述べることができる。
書くこと	自分の意見や感想を論理的に整理し、段落構成を意識して書くことができる。

4 単元の評価規準（五つの領域ごとの評価規準の設定）

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと [発表]	<p><知識> 情報や考えを述べるために必要となる語彙や表現、音声等を理解している。</p> <p><技能> 日常的な話題（旅行及び誕生日プレゼント）についての情報や考えを理由とともに話して伝える技能を身に付けている。</p>	<p>聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、日常的な話題（旅行及び誕生日プレゼント）についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝えている。</p>	<p>聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、日常的な話題（旅行及び誕生日プレゼント）についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝えてようとしている。</p>

書くこと	<p><知識> 自分の提案を伝えるために必要となる論理の構成や展開及び表現等を理解している。</p> <p><技能> 日常的な話題（旅行及び誕生日プレゼント）について、自分の提案を、論理の構成や展開を工夫して適切に書く技能を身に付けている。</p>	<p>日常的な話題（旅行及び誕生日プレゼント）についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、論理の構成や展開を工夫して適切に書いて伝えている。</p>	<p>日常的な話題（旅行及び誕生日プレゼント）についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、論理の構成や展開を工夫して適切に書いて伝えようとしている。</p>
------	--	--	--

5 言語活動を中心とした指導と評価の計画

時間	ねらい, 学習活動	評価の観点			指導上の留意点 評価規準（評価方法）
		知	思	主	
1	<p>【ねらい】 単元の目標を理解する。 マイクロツーリズムについて理解する。</p> <p>【学習活動】 ①マイクロツーリズムについて書かれた記事を読む。 ②記事を読んだ後に、記事の要点を正しく理解していることを確認する。</p>				事前に読む目的を示して、記事の要点を理解させる。
2 3	<p>【ねらい】 旅行の素案（場所と活動内容）を作成する。</p> <p>【学習活動】 ①観光客役を務めるALTが書いた旅行要望書を読む。 ②ALTに質問をして、回答を企画に生かす。 ③愛知県の観光情報を調べながら素案を作る。</p>				タブレットや愛知県観光協会が発行している資料の利用を促す。 企画する上で、マイクロツーリズムの理念とALTの要望に応えることを意識させる。
4 5	<p>【ねらい】 プレゼンテーションの準備をする。</p> <p>【学習活動】 ①モデルプレゼンテーションを鑑賞して、効果的に発表するための工夫を見つける。 ②採点の規準を確認する。 ③発表原稿を作成する。 ・訪問地とそこでできること ・企画のねらい ④パワーポイントでスライドを作成する。</p>	○	○	○	作成した原稿を回収し、英語使用及び表現内容の適切さを中心にルーブリックを用いて評価する。 フィードバックを与え、原稿の修正を促す。 準備の進捗状況によって、④を省いてもよい。

6 7	<p>【ねらい】 プレゼンテーションを練習する。</p> <p>【学習活動】</p> <p>①ペアでプレゼンテーションをし合う。 ②聞き手は聞いた内容について感想や意見を伝えたりする。 ③目標の達成状況を振り返り、課題を明確にする。</p>				<p>ペアで相互に評価し合いながら、よりよい発表を目指させる。</p> <p>ルーブリックを事前に提示して、観察したり評価したりする観点を確認させる。</p> <p>ペア活動の中にALTも入り、適宜フィードバックする。</p>
後日	パフォーマンステスト	○	○	○	英語使用及び表現内容の適切さを中心にルーブリックを用いて評価する。

6 パフォーマンステスト

次の指示文を配付する。生徒は 20 分の準備時間内に話す内容についてアウトラインやメモを作成することができる。

ALTに①誕生日プレゼントとして贈りたいものを示して、②それをどうして選んだのか、③それをいつ、どのように使用、若しくは、利用してほしいかの3点について、1分程度で話して伝えましょう。準備時間は20分です。メモを用意して、必要に応じてメモを参照しながら話しても構いません。また、下記の資料を活用しても構いません。

ALT's information

She likes ...

- ① having local food.
- ② taking a picture for "Instagram".
- ③ buying cool or cute souvenirs.
- ④ taking a train.
- ⑤ seeing green (trees, fields) .
- ⑥ learning Japanese history.

(1) 実施方法

- ① 生徒一人一人にタブレットを配付する。
- ② 発表する生徒はタブレットに向かって話して録画する。

(2) 指導上の留意点

生徒に採点の基準を事前に提示する。

7 ルーブリック

(1) 評価方法

録画したものを視聴して、採点の基準に沿って評価を行う。

(2) 評価の領域（内容のまとめ）：「話すこと〔発表〕」

○「思考・判断・表現」についての三つの条件

条件1：贈りたい誕生日プレゼントを示している。
条件2：なぜ贈りたいのか理由を述べている。
条件3：プレゼントをいつ（若しくは）どのように使用若しくは利用してほしいのかを述べている。

「思考・判断・表現」については、三つの条件を全て満たしていれば「b」（おおむね満足できる）としている。

評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・語彙や表現が適切に使用されている。 ・聞き手に分かりやすい音声等で伝えている。	聞き手に納得してもらえるように、三つの条件に基づいて、自分の考えを適切に伝えている。	聞き手に納得してもらえるように、三つの条件に基づいて、自分の考えを適切に伝えようとしている。
a (5点)	・語彙や表現が適切に使用されている。 ・聞き手にとって分かりやすい音声等で伝えている。	三つの条件を満たしながら、具体的に述べたり、効果的に伝えたりしている。	聞き手に配慮しながら、話す速さ、声量、表情、アイコンタクト、身振りなどを意識して伝えている。
b (3点)	・多少の誤りはあるが、理解に支障のない程度の語彙や表現を使って話して伝えている。 ・理解に支障のない程度の音声等で伝えている。	三つの条件を満たしながら伝えている。	ぎこちなさもあるが、聞き手に対して粘り強く伝えようとしている。
c (1点)	「b」を満たしていない	「b」を満たしていない	「b」を満たしていない

※「おおむね満足できる」状況を b とする

8 実践報告

(1) 単元構想

本単元ではスピーチやプレゼンテーションなどの発表活動を主として行うことが意図されている。しかし、教科書では発表活動の目的・場面・状況に関する記述は特にされていないため、それらを自ら設定する必要があった。さらに、相手の興味や要望にも配慮しながら主張したり提案したりすることも発表内容の質を向上させると考えた。以上に基づいて、教科書の内容と生徒の興味や関心を踏まえた結果、①「旅行プランの提案」②「誕生日プレゼントの紹介」の二つを生徒に行わせることを計画した。なお、①を課題の提示から発表までの一連の活動について練習したり指導したりするための言語活動として、②をパフォーマンステストの課題として設定した。

(2) 実践の詳細と考察

本単元の導入として、近年注目されている「マイクロツーリズム」についての理解を深めることから始めた。株式会社星野リゾートのホームページによると、「マイクロツーリズム」とは、「遠方や海外への旅行に対し、3密を避けながら地元の方が近場で過ごす」ことを掲げた旅行スタイルとされている。この旅行業界のトレンドを生徒に紹介するために、平易な英語で書かれている「JAPAN WIRELESS」の記事の一部を読ませた。その後、今後の活動の概要と目的を伝え、自分が担当する地域（尾張・西三河・東三河）をくじ引きで決めた。また、ALTには自分の好みなどを含む要望書を

事前に書いてもらい、それを生徒に配付した。生徒はALTの書いた要望書を熱心に読み、さらに聞きたいことがあれば、ALTに直接質問していた。旅程を立てるための資料としては、愛知県観光協会が発行している大判の地図を配付したほか、タブレットの使用を許可した。生徒の活動の様子を見ると、生徒たちはアナログ資料とタブレットで検索できるデジタル資料をそれぞれ相補的に活用しているようであった。具体的に言えば、一つの資料を基に他の生徒と話し合うのには大判の地図が向いている一方で、自分の調べたいことがすぐに調べられるタブレットは検索性において秀でているようであった。授業では話し合いながら考えることを許可したので、生徒は他者の意見も参考にしながら、旅程を立てていた。

自分の提案の要点をまとめた企画書を作成した後は、一度、モデルプレゼンテーションを鑑賞して、プレゼンテーションの構成、表現、音声上の留意点、発表態度を確認した。生徒からは「数字を活用することで訪問地がもつ魅力を具体的に伝えていること」や「言葉で伝えづらいことでも動画を使って分かりやすく伝えていること」などが自分の発表に取り入れたい点として挙げられた。その後、ルーブリックの各採点の規準の「a」評価について、具体的に何ができていれば「a」評価とすることができるのか、生徒に考えさせて意見を募った。その結果、私が最初に用意した「自分の提案を詳しく述べたり、効果的に伝えたりしながら、三つの条件を満たした提案をしようとしている」という「主体的に学習に取り組む態度」の記述語を「聞き手に配慮しながら、話す速さ、声量、表情、アイコンタクト、身振りなどを意識して伝えている」へと具体化させることができた。また、生徒は何ができればよいのかを理解した上で、発表の質の向上に励むことができた。なお、プレゼンテーションの練習をさせる前に発表原稿を一度提出させて、適宜フィードバックを記した上で、各生徒に返却した。

プレゼンテーションの練習はペアを替えながら複数回行わせた。一人が事前に用意したパワーポイントの資料を見せながら発表を行い、もう一人はペアの発表を聞いた後で感想や意見を伝えた。生徒たちは意欲的に取り組んでいたが、手元に原稿があったために、それからなかなか目を離せずに発表してしまう傾向が目立った。また、パワーポイントの操作に注意が向いてしまい、肝腎な英語の方への意識が十分に向いていない様子も見られた。このような状況に加えて、欠席者に対する配慮という観点から、練習時間を二時間設けることになった。パワーポイントを活用した発表自体は聞き手に配慮された理想的な言語活動であるが、英語による発表とパワーポイントの操作というマルチタスクに対する生徒への負荷も考慮して、まずは言語使用に重点を置いて指導するなどの段階的なシラバスを構想することが大事であると実感した。

(3) 成果と課題

パフォーマンステストはタブレットで録画した発表動画を **Microsoft Teams** にアップロードするという形式で行った。タブレットを用いた発表は私にとって初めての試みであったため、想定していなかったトラブルもあったが、生徒たちの取組は良好であった。よかった点としては、①同時に多人数が発表することができること、②時間内であれば生徒は何度も録り直すことができるため、よりよい発表を録画して提出しようとする主体的な態度を引き出すことができること、③録画した発表を教員は何度でも聞き直すことができるので、評価の信頼性を高められること、④複数の教員で同じ動画を視聴して採点の規準をすり合わせることで、評価の信頼性を高められること、⑤優れた発表を保存しておくことで、生徒にそれをモデルパフォーマンスとして提示することができることなどが挙げられる。もともとパフォーマンステストの時短を目指して行った本研究であったが、タブレットの活用は予想以上の副産物をもたらしてくれた。一方で、留意点として、①タブレット自体に不具合があると、

テスト自体を別日に行わないといけなくなること、②発表者の直前にタブレットを置かないと発表者の音声を拾わないことなどがあると分かった。

また、前述のルーブリックを用いて評価した結果、以下に示す結果となった（単位：人）。

評 価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a (5点)	7	13	10
b (3点)	24	11	24
c (1点)	3	10	0

ア 知識・技能についての考察

平均は3.2点であった。音声による課題の提出であったため、適切な語彙及び文法の選択については評価が難しかった。一方で、録音した発表を複数回聞き直すことができたことで、一度聞いただけではよく分からなかった細かいところまで確認することができた。それよりも、発音が不明瞭で分かりづらかったり、英語の音声上の特徴を表現できていなかったりすることが目立ち、中には「b」の条件を満たさなかった発表が少なからずあった。しかし、音声上の課題がある発表でも内容の理解に大きな支障をきたすほどではないと判断できる発表も多かった。

イ 思考・判断・表現についての考察

平均は3.2点であった。事前に提示した三つの条件への適合性と内容の結束性や一貫性などの論理性で評価を行った結果、おおむね等しく三段階に分かれる結果となった。「c」評価の生徒の特徴として、ALTに贈る誕生日プレゼントをどのように使用若しくは利用してほしいかについての言及がないことなどの条件との適合性に難点があったことが挙げられる。一方で、「a」評価をした生徒たちは、単に条件を満たすだけでなく、資料を基に深く考えており、発表内容が論理的に優れていた。今後も生徒たちの思考を促す課題設定を心がけるとともに、結束性や一貫性などをパラグラフ・ライティングと関連させながら、指導していきたい。

ウ 主体的に学習に取り組む態度についての考察

平均は3.6点であった。生徒たちは皆熱心に取り組んでおり、言いよどんでも何とか表現しようとそれぞれに努力していた。このことから、「c」評価をした生徒はいなかった。本観点は思考・判断・表現と一体的に評価してもよいとされているが、思考・判断・表現が「c」評価になってしまう生徒でも、主体的な姿勢や態度については「おおむね満足できる」程度には見られた。安易に「c」評価を付けてしまわないように、言語活動中の生徒の様子に注意を向けたい。

9 参考文献

- ・文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 外国語編 英語編』
- ・文部科学省 国立教育政策研究所（2019）『学習評価の在り方 ハンドブック 高等学校編』
- ・国立教育政策研究所（2021）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校外国語』
- ・星野リゾート「星野リゾートのマイクロツアーリズム ご近所旅行のススメ」
<https://www.hoshinoresorts.com/sp/microtourism/>（最終閲覧日 2021年9月1日）
- ・Hiro.K…（2021）“3 Best Things to Do in Kiryu, Gunma”
<https://jw-webmagazine.com/best-things-to-do-in-kiryu/>（最終閲覧日 2021年9月1日）
- ・国際プレゼンテーション協会「プレゼンテーションとは」
<https://npo-presentation.org/about/>（最終閲覧日 2021年9月1日）

【別添資料】生徒用ルーブリック

A L Tに対して、①観光 ②体験 ③食事の要素を含むマイクロツアーの旅程を1分程度で話して提案しましょう。メモを用意して、必要に応じてメモを参照しながら話しても構いませんが、原稿を書くことはできません。

評価	知識・技能	思考・判断・表現	活動に取り組む態度
a	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙や表現が適切に使用されている。 ・聞き手に分かりやすい音声等で伝えている。 	<u>自分の提案を詳しく述べたり、効果的に伝えたりしながら、三つの条件を満たした提案をしている。</u>	<u>自分の提案を詳しく述べたり、効果的に伝えたりしながら、三つの条件を満たした提案をしようとしている。</u>
b	<ul style="list-style-type: none"> ・多少の誤りはあるが、理解に支障のない程度の語彙や表現を使って話して伝えている。 ・理解に支障のない程度の音声等で伝えている。 	三つの条件を満たした提案をしている。	三つの条件を満たした提案をしようとしている。
c	「b」を満たしていない	「b」を満たしていない	「b」を満たしていない

※「おおむね満足できる」状況を b とする

Q. 具体的には何ができていれば「a」評価になると思いますか。

評価	知識・技能	思考・判断・表現	活動に取り組む態度
a			

Class	No.	Name
-------	-----	------

実践報告6

パフォーマンス評価の実践

—話すこと〔発表〕における指導と評価—

愛知県立杏和高等学校 教諭 山崎 綾子

1 はじめに

学習指導要領改訂に伴い、学習評価の観点は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三つの観点となり、外国語においてはこの3観点をもって五つの内容のまとまり（5領域）を評価することとなった。実際の評価の方法として、令和3年度英語教育改善プランでは、各学校においてスピーキングテスト及びライティングテストを年間3回以上実施することとなっており、今後ますますパフォーマンステストが必要となることが予想される。パフォーマンステストをより身近に、取り組みやすいものにするためにはどうしたらよいか。そして、パフォーマンステストとそこに向かうまでの指導を通じて、生徒がどのような力を付け、どのような姿であればその力がついたと判断するのか。ルーブリックを用いたパフォーマンステスト評価に関する研究を通じて、具体的に組み込んだ結果と、それに対する成果と課題を提案すると共に、今後の自身の指導改善につなげたい。

2 単元の目標と言語活動

(1) 教材

ア 教科書：Power On I Communication English I（東京書籍）

イ 単元：Lesson 3 “Nagatomo Yuto -A Long Hard Road to Success”

(2) 単元の目標

ア 長友選手の生い立ちについての英文を読み、概要や要点を捉える。

イ トーク番組という設定で、司会者と長友選手になりきり、インタビューを通じて長友選手の生い立ちを視聴者に伝えることで、自分の経験や願望、想いを伝える力を付ける。

3 関係する領域別目標（杏和高校第1学年のCAN-DO）

聞くこと	・短い対話や短い英文を聞いて、その概要を理解することができる。 ・教室内の英語のやり取りを正しく理解できる。
読むこと	・説明や物語を読んで、情報や考えの概要を捉えることができる。
話すこと 〔やり取り〕	・聞いたり読んだりしたことについて、簡単な意見交換をすることができる。 ・与えられた話題について、学んだ語句を活用して2分程度話し合うことができる。
話すこと 〔発表〕	・聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、3文程度で発表することができる。
書くこと	・自分の考えを、即興で、簡単な英語を用いながら、50語程度で書くことができる。

4 単元の評価規準（五つの領域ごとの評価規準の設定）

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
読むこと	<p><知識> 英文の内容を理解するために必要な語彙・文法を理解している。</p> <p><技能> 長友選手の生い立ちについて書かれた説明文を読み取る技能を身に付けている。</p>	長友選手に関する英文について正しく読み取り，概要や要点を理解している。	長友選手に関する英文について正しく読み取り，概要を理解しようとしている。
話すこと [発表]	<p><知識> 経験や考えを伝えるために必要となる語句や文を理解している。</p> <p><技能> 長友選手の経験や考えを想像し，話して伝える技能を身に付けている。</p>	長友選手が世界で活躍するまでの道のりについて，読んだ内容を活用しながら，長友選手の経験や想いを想像し，発表している。	長友選手が世界で活躍するまでの道のりについて，読んだ内容を活用しながら，長友選手の経験や想いを想像し，発表しようとしている。
書くこと	<p><知識> 現在完了や受動態等の特徴やきまりを理解している。</p> <p><技能> 現在完了や受動態を用いながら経験や想いを想像し，書く技能を身に付けている。</p>	長友選手が世界で活躍するまでの道のりについて，読んだ内容を活用しながら，長友選手の経験や想いを想像し，書いている。	長友選手が世界で活躍するまでの道のりについて，読んだ内容を活用しながら，長友選手の経験や想いを想像し，書くようとしている。

5 言語活動を中心とした指導と評価の計画

時間	ねらい，学習活動	評価の観点			指導上の留意点 評価規準（評価方法）
		知	思	主	
1～6時間目	<p>①英文の内容理解・知識の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスニングで概要把握 ・パラグラフチャートで概要把握 ・単語練習 ・本文の内容を日本語要約 ・音読練習 ・ディクテーションで仕上げ ・リプロダクションで内容理解度チェック 	○	○	○	<p>Part1～Part3 各2時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パートごとにノート提出 ・いずれかのパートでストーリーリプロダクションをロイロノートで提出

7時間目	<p>②ロールプレイ（インタビュー）の内容づくり</p> <p>【ねらい】</p> <p>事前に評価の基準を提示し、その基準に基づき、ペアでインタビューの原稿を考える。またその活動から英文についての内容理解を深め、繰り返しアウトプットを行うことで語彙や表現等の知識を定着させる。</p> <p>【学習活動】</p> <p>ペアで原稿をつくる。</p> <p>読んだ内容や表現を活用することを基本とし、応用として、読んだ内容や表現を自分なりにアレンジして発表することで主体的な活動へとつなげる。</p>		○	<p>・原稿はロイロノートで提出原稿を回収しないことで、生徒が自宅でも十分に練習することができる。また、原稿はパフォーマンステスト評価の参考にする。</p> <p>※生徒はこの時点で、どちらの役を行うかは知らない。</p>
8時間目	<p>③ロールプレイ（インタビュー）発表</p> <p>パフォーマンス評価</p> <p>【ねらい】</p> <p>聞き手を意識して発表し、相手が言ったことに対し適確な反応をすることができる。また、質問と応答の練習を繰り返すことによって、表現を定着させる。</p> <p>【学習活動】</p> <p>原稿を元に練習をし、発表を行う。</p> <p>Audienceに長友選手の情報を理解してもらえるように、声量やアイコンタクトに注意をし、必要に応じてジェスチャー等を使いながら発表する。また、相手の言ったことに対し、“Really?”などの反応をしたり、rejoindersを用いたりする。</p>		○	<p>○</p> <p>・ペアでロールプレイを動画撮影し提出（ロイロノート）</p> <p>※時間内であれば何度でも挑戦できる。タブレットを使用することで、十分な活動時間を確保することができる。</p>
9時間目	<p>④パフォーマンステストの振り返り</p> <p>相互評価・フィードバック</p> <p>【ねらい】</p> <p>他グループの発表を見て評価をすることで、自分達のグループにはない表現やアイデアを学ぶ。また、他者の英語による発表を評価することでリスニング力の向上につなげる。</p> <p>【学習活動】</p> <p>各ペアの提出した動画を見て、ルーブリックに従い相互評価をし、アドバイスをし合う。</p>			<p>・生徒による評価：他者の発表を評価⇒本人に伝え、次回以降に生かす。</p> <p>※生徒による評価は成績には加えない。</p>

6 パフォーマンステスト

(1) 実施方法

トーク番組に出演する長友選手と番組司会者という設定で、インタビューのロールプレイを行い、視聴者に長友選手についての情報を伝える。教員と残りの生徒は動画を見てルーブリックに従い、評価をする。

【手順】

- 7時間目：パフォーマンステスト準備
 ペアで原稿作成⇒提出
 原稿が完成したペアから練習
- 8時間目：パフォーマンステスト本番
 動画撮影⇒提出
- 9時間目：パフォーマンステスト評価
 提出動画を全体で流し、相互評価

(2) 指導上の留意点

- ・始めにパフォーマンステストの流れとルーブリックを生徒に配付・説明する。
- ・生徒の評価は成績には加えず、お互いのフィードバックにのみ使う。

7 パフォーマンステスト評価

(1) 評価方法

録画した動画を放映し、教員と生徒で視聴する。基準に沿って評価を行う。

※間違いを恐れず、積極的に英語をたくさん「話す」ということを目標にしたいので、accuracy に関しては最低限「伝わる英語」という点でのみ評価する。

(2) ルーブリック

学年 目標	話すこと【発表】：聞いたり読んだりしたこと、学んだこと経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、3文程度で発表することができる。		
単元 目標	●長友選手の生い立ちについての英文を読み、概要や要点を捉える。 ●トーク番組という設定で、司会者と長友選手になりきり、長友選手の生い立ちを視聴者につたえることで経験や願望、想いを英語で伝える力をつける。		
評価	知識・技能	思考・判断・表現	態度
規 準 評 価	英語を適切に使用できている。 (語彙や表現を評価)	長友選手について、異なる情報を3つ以上含んでいる。 (内容を評価)	相手にわかりやすく伝えることを意識している。(発表を評価) ①原稿を見ない ②感情をこめている ③聞き手に配慮している(声量等)
a 5 点	教科書の表現に加え、 自分で工夫した英語の表現を使って 発表している。	教科書の内容に加え、そこから 自然と想像できる内容を加えて 3つ以上の情報を含んでいる。	上の①～③が 3つともできている。
b 3 点	教科書の抜き出しに頼りながら 発表している。	教科書にある情報に基づいて、 3つ以上の情報を含んでいる。	上の①～③が 2つできている。
c 1 点	英語の表現や発音に誤りが多くあり、内容が伝わりにくい。	長友選手についての情報が2つ以下。	上の①～③が 1つできている。

8 実践報告

(1) 実施の内容

ア 事前準備

(ア) 生徒にルーブリック及び、Interview Preparation Sheet (別紙1)を配付。パフォーマンステスト実施手順と評価基準を説明し、この活動を通して「何ができるようになりたいのか」、またそこへ向けて「何を」「どれくらい」頑張ればよいのかを把握させる。

※インタビューの始め方、Rejoindersについては例及び用法を提示する。

(イ) トークショーという場面設定を想像しやすくするために、インタビュー形式のトーク番組の動画を見る。(例「徹子の部屋」「The Ellen DeGeneres Show」)

(ウ) Preparation Sheet に基づいて、ペアで原稿の作成をする。役割によって文量が異なることが予想されるため、この段階では役割は伝えない。

(エ) ペアで練習をする。

イ パフォーマンステスト本番

(ア) タブレットをペアに1台配付→起動・準備

※準備ができたペアは練習をしてよい。

(イ) 役割を発表

(ウ) トークショー撮影 (25分)

この時間内であれば、何度でも撮り直し可能

(エ) 撮影した動画を確認→ロイロノートで提出 (5分)

(オ) 自己評価、アンケート記入 (別紙2) (5分)

ウ パフォーマンス評価

教員による評価：動画を見て、ルーブリックに従い評価する。コメントを付けて返却する。

生徒によるフィードバック：動画を見て、他者の発表の「よかったところ」を用紙に記入し発表者に渡す。次回以降の活動につなげる(成績には加えない)。

【教員用評価シート】

			る声量、発音である
a 5点	教科書で使われていた英語に加え、自分で工夫した英語の表現を使って、3つ以上のやり取りをしている。	教科書の内容に加え、そこから自然と想像できる内容(感情や相槌など)を加えて3つ以上の情報でやり取りをしている。	上の①~③が3つともできている。
b 3点	教科書の抜き出しに頼りながら、3つ以上のやり取りをしている。	教科書にある情報に基づいて3つ以上の情報でやり取りをしている。	上の①~③が2つできている。
c 1点	やりとりが2つ以下、または分かりにくい。	やりとりの中に、質問・答え・反応が含まれていない	上の①~③が1つできている。
小計	3	3	3

合計 9点

Comments: 英語の表現, 内容, 女に工夫しました!

「おこなった時どう思, たか」「負けた時どう思, たか」について2人は固からなにも答えが電脳に想像できずし現現。3つ目の0429(1分)に「子どもの頃からの夢」という情報が加わ, 2人2 Good あり。次回も期待してます!

【生徒用フィードバックシート】

良かったところ

【内容】
長友がサッカーを始めた理由などを分かりやすく話していたのでとても思いました。

【発表】
声量が良く聞きとりやすかったです。

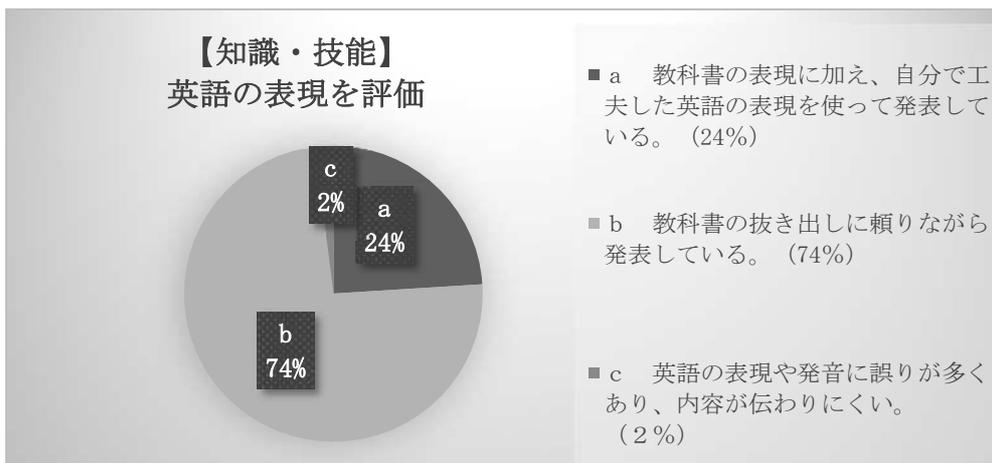
良かったところ

【内容】
長英語の文で質問するんじゃなくて短い英語の文で質問していたので聞きとりやすかった。文と文の間に間が空いていて聞きやすかった。

【発表】
明るく喋っていて、インタビューの人と長友役の人が仲良さそうだった。

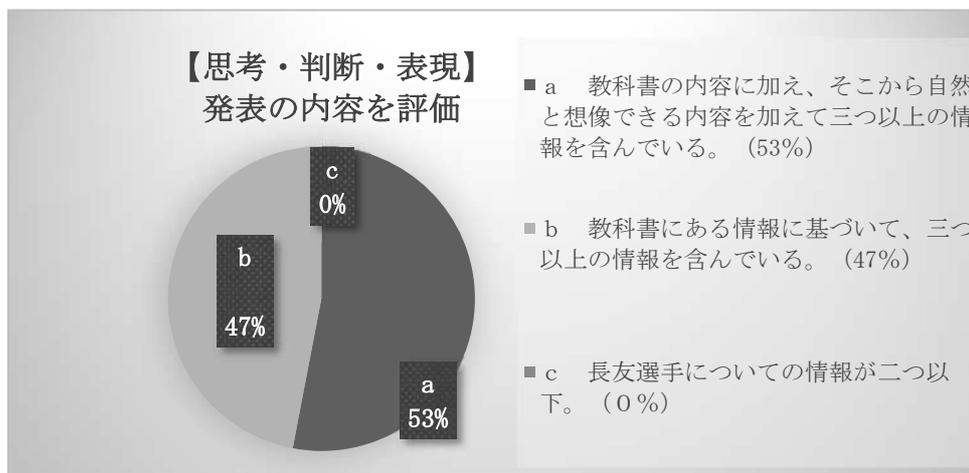
(2) 実践の結果と考察

ア 知識・技能…英語を適切に使用できている。



- ・ a 評価の生徒は教科書の語彙や表現を基に、自分で英文をつくりながら発表をしていた。この観点で a 評価の生徒の多くが【思考・判断・表現】でも a 評価であり、考えた質問が教科書の内容を超えたものであれば、必然的にその答えも自分で工夫した英語の表現をつくらざるを得ないといった状況があった。
- ・ c 評価の生徒は、発話に詰まる場面が多く、script に書いた英語の発音が分からないといった場面もあった。準備段階で気付くことができればよかった。

イ 思考・判断・表現…長友選手について、異なる情報を三つ以上含んでいる。

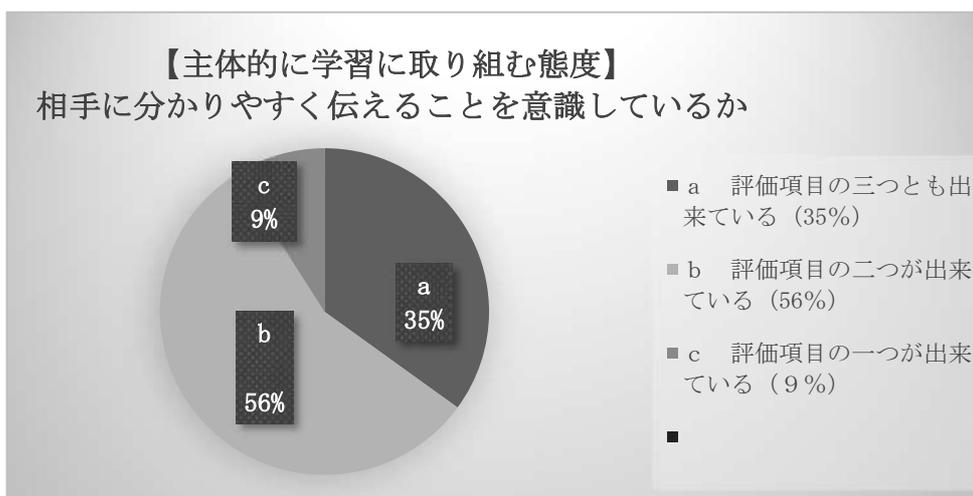


- ・ルーブリックを事前に提示していたことで、多くの生徒が a 評価を目指し、工夫した質問を考えていた。a 評価の発表には「Do you have a message to High school students?」「Who do you want to say "Thank you" to?」といった質問があり、答え方にも工夫がされていた。また「How do you feel when ~?」といった質問が多かった。
- ・「When did you start soccer?」「Where were you born?」等の質問に対し、教科書からの抜き出しで答えているものに関しては b 評価とした。
- ・発音が正しくできなかつたり、発表に詰まったりしてしまった生徒に関しては、この項目のみ script を参考にして評価をした。

ウ 主体的学習に取り組む態度…相手に分かりやすく伝えようとしているか。

条件：

- ① 原稿を見ない（相手・視聴者に視線を配る）
- ② 感情を込めている（棒読みでない）
- ③ 声量等に気を付けながら伝えようとしている



- ・想像以上に多くの生徒が原稿を見ずに発表ができていた。その分、話す相手を見る、視聴者を意識する等もできていた生徒が多かった。
- ・b 評価のうち、ほとんどの生徒は項目②「感情を込めている」で躓いており、棒読み（アクセント、イントネーション、意味のまとまり間のポーズ等がない）が目立った。音読でも音声のシャドウィングやオーバーラッピングを通じて、脱棒読みを目指しているが、まだまだ

工夫が必要であると感じた。

- ・項目③「はっきりと聞き取れる声量である」は全員がクリア。マスク着用、大きな声が出せない中での発表だったが、タブレットに録画という方法はこの点でもよかったと思う。

(3) 成果と課題

ア 成果について

(ア) パフォーマンステストを行ったことで、生徒は自主的に言語活動を繰り返し、教科書の内容理解は確実に深まった。また、パフォーマンステスト実施後に行った自己評価では発表について、「英語で情報を伝えることができた」と感じた生徒が多く、「話すこと」に関して自信をもつことができたと感じた。また、アンケートにおいては、「ルーブリックを事前に提示されることで目標をもって活動に取り組むことができた」と答えた生徒が多くおり、今後も生徒のモチベーションを上げることができると感じたいと感じた。

(イ) さまざまな言語活動を行い、最終タスクとしてパフォーマンステストがあり、その評価が生徒にフィードバックされ、次の活動につながる。これがルーティン化すれば、生徒が主体的に学ぶ大きな動機になると思う。またパフォーマンステストに向けて生徒が自主的にアウトプット活動を繰り返すことで、英語の基礎や表現が定着することも期待できると感じた。

イ 課題について

(ア) 実施上の課題

【即興性について】

今回、生徒は準備した原稿を覚え、そこに「相手に分かりやすく伝える」ということを加えて発表を行った。しかし、実際のコミュニケーションを想定すると、ある程度の即興性をもたせる必要があると感じた（例えば、今回行ったロールプレイを準備活動とし、「ALT に対し、①自分の生立ち ②自分の強み ③自分のモットーの3点について自己紹介を行う」という設定で、10分間準備をし、1分程度の発表を行う等）。

今後は、準備された材料から行う言語活動を経て、最終的には即興で英語を使って発表をすることを目標に活動を計画していきたい。

【ルーブリックの改定】

シンプルに、誰でも短時間でできる評価基準を目標にルーブリックを作ったが、実際に評価をしてみると、評価のために確認しなければならない項目が多く、何度も動画を見返す必要があり、時間を要した。実際のパフォーマンステスト評価は以前のルーブリックで実施済ではあるが、反省点を考慮し、以下のようにルーブリックを改良した。

「思考・判断・表現」についての3つの条件

- 条件① 長友選手の生立ちについて述べている。
- 条件② 質問に対し、適切な答え、反応ができています。
- 条件③ 3つ以上の情報を伝えている。

	知識・技能	思考・判断・表現	態度
a	語彙や表現が適切に使用されている。 聞き手にわかりやすい音声等で伝えている。	三つの条件を満たした上で、関連した情報や自分の考えを詳しく述べて伝えている。	三つの条件をみたした上で、関連した情報や自分の考えを詳しく述べて伝えようとしている。
b	多少の誤りはあるが、理解できる程度の語彙や表現を使っている。 理解に支障のない程度の音声等で話している。	三つの条件を満たして話して伝えている。	三つの条件を満たして話して伝えようとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

「主体的に取り組む態度」の評価は「思考・判断・表現」と一体的に行うことで、評価も簡単になった。「思考・判断・表現」についての条件を、単元の目標と評価基準に合わせて変えていけば、さまざまなパフォーマンステストのルーブリックに応用できるのではないかと感じた。

(イ) 今後に向けての課題

【CAN-DOリストの見直し】

実際にパフォーマンステストを計画する中で、学年として最終的にどのような姿を目指したいのか、そのためにどのような活動をどの段階でしていくのかを改めて考える必要があった。3観点5領域評価において、どの活動でどの領域をどのように評価するのか、また最終的にどのような姿を目指すのかが一目で分かるようなCAN-DOリストを目指し、現在改訂中である。

9 参考文献

- ・文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 外国語編 英語編』
- ・文部科学省 国立教育政策研究所（2019）『学習評価の在り方 ハンドブック 高等学校編』
- ・国立教育政策研究所（2021）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校外国語』
- ・金谷憲・堤孝（2017）『レッスンごとに教科書の扱いを変える TANABU Model とは』アルク

Lesson 3 Interview Preparation Sheet

[I: Interview er N: Nagatomo]

I: Today, I'd like to welcome Mr. Nagatomo. Nice to meet you, Mr. Nagatomo!
 N: Nice to meet you, too.
 I: Now I'd like to ask you three questions.

1つ目のやり取り

I: (日) _____
 (英) _____
 N: (日) _____
 (英) _____
 I: _____

2つ目のやり取り

I: (日) _____
 (英) _____
 N: (日) _____
 (英) _____
 I: _____

3つ目のやり取り

I: (日) _____
 (英) _____
 N: (日) _____
 (英) _____
 I: _____
 I: Thank you very much for coming today.

Memo:

☆ **インタビュアーの反応 (例)** ☆
 That makes sense. (なるほど) That's true. (確かに)
 Really?/No way! (本当ですか?信じられない!)
 It's good to know./I didn't know that. (それは知りませんでした)
 I see. (なるほどあ) That's true. (たしかに)
 I agree. (たしかに) Right. (たしかに)
 ★相手の言ったことを繰り返すのも効果的!

【別紙 1】

Class No. Name

Lesson 3 Role play “Interview to Nagatomo”
振り返り sheet

組 番 名前： _____

① Self evaluation (自己評価) :

- (1) 長友選手の生い立ちについて、3つ以上の情報を英語で伝えられたか。
3つできた ・ 2つできた ・ 1つできた ・ できなかった
- (2) 長友選手について、適切に内容を伝えられたか。
自分で表現を工夫して伝えた ・ 教科書の英文を使って伝えた ・ うまく伝えられなかった
- (3) 相手にわかりやすく伝えるため、努力したことは何ですか。

② アンケート :

- (1) ロールプレイの方法はわかりやすいものでしたか。
①Yes ②No
(Noの場合どのあたりがわかりにくかったか： _____)
- (2) ロールプレイの評価基準(ルーブリック)はわかりやすいものでしたか。
①Yes ②No
(Noの場合どのあたりがわかりにくかったか： _____)
- (3) ルーブリックを事前に提示されることで目標を持つことができたか。
①Yes ②No
- (4) ロールプレイの準備本番を含め、あたえられた時間はどうでしたか。
①短かった ②長かった ③ちょうどよかった
- (5) 発表の方法について、どの形がよいと思いますか。
①前へでて発表 ②グループ内で発表 ③タブレットに録画
(理由： _____)
- (6) 今回のパフォーマンステストは英語のどんな力がつくと思いますか。【複数回答可】
①聞く力 ②読む力 ③書く力 ④話す力
⑤その他 (_____)
- (7) 今後、パフォーマンステストは必要だとおもいますか。
①Yes ②No
- (8) 感想 :

実践報告7

実践の機会としてのパフォーマンステストと評価

愛知県立岡崎高等学校 教諭 市川 雅之

1 はじめに

さまざまな言語活動を通じて学習した新出語句や表現、文法等を、演習問題に答えるためではなく、生徒が自分の考えを伝えるために使用する機会をつくりたいと考えた。そこで、今回のパフォーマンステストにおける発表テーマを、その単元の内容について自分で実際に作業、体験し、観察して考察したことを発表するものとした。生徒自身の経験や夢を語るのではなく、客観的な説明をする必要があるため、自分がふだんよく使う語彙ではならず、教科書で学んだ語句等を自発的に使用することになるのではないかと考えたためである。また、別途学習したプレゼンテーションの型を、知識にとどめず実践につなげる機会として、今回パフォーマンステストを実施した。

2 単元の目標と言語活動

(1) 教材

教科書：PROMINENCE（東京書籍）

単元：Lesson 8 The State-of-the-Art Origami Engineering

(2) 補助教材

教科書：Winning Presentations（成美堂）

(3) 単元の目標

東京大学名誉教授の三浦公亮博士が考案した「ミウラ折り」についての文章を読み、ミウラ折りの特徴や産業への応用事例と自然界に見られる事例について理解する。

(4) 言語活動

- ・リスニング、音読
- ・プレゼンテーション（ミウラ折りと通常の折り方（折った角が直角となる折り方）のそれぞれの特徴と違いを観察し、自分の考えを英語で発表する）

3 関係する領域別目標（岡崎高校 1年生のCAN-DOリスト）

聞くこと	・140wpm程度の速さで読まれるまとまった量の英語を聞き、概要や要点を捉えることができる。 ・会話やスピーチを聞き、概要を理解できる。
読むこと	・600語程度の説明文、対話文、物語文などを読み、情報や考えを理解したり、概要や要点を捉えたりすることができる。
話すこと [発表]	・身近な話題や身の回りの出来事について平易な表現を用いて説明し、それに対する自分の意見を簡単に述べるができる。
書くこと	・日常生活の話題や興味・関心のある出来事について、60語程度の英語で自分の意見を書くことができる。

4 単元の評価規準（五つの領域ごとの評価規準の設定）

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
読むこと	<p><知識> 物事が列挙されるときイントネーションについて理解している。</p> <p><技能> そのイントネーションを意識し音読している。</p>	ミウラ折りに関する英文について、正しく読み取り、概要や要点を捉えている。	ミウラ折りに関する英文について、正しく読み取り、概要や要点を理解しようとしている
話すこと [発表]	<p><知識> 情報や自分の発見・考えを述べるために必要な語彙、表現を理解している。</p> <p><技能> 情報や自分の発見・考えを話して伝える技能を身に付けている。</p>	本文で読んだ内容に加え、自分の考えを新出の文法事項やキーワード、資料を使いながら聞き手に伝えている。	本文で読んだ内容に加え、自分の考えを新出の文法事項やキーワード、資料を使いながら聞き手に伝えようとしている。
書くこと	<p><知識> 分詞構文、第2文型（補語がthat節）、仮定法過去完了の使い方を理解している。</p> <p><技能> それらを用いて文章を書くことができる。</p>	本文で読んだ内容に加え、自分の考えを新出の文法事項やキーワードを用いて文章にまとめている。	本文で読んだ内容に加え、自分の考えを新出の文法事項やキーワードを用いて文章にまとめようとしている。

5 言語活動を中心とした指導と評価の計画

時間	ねらい、学習活動	評価の観点			指導上の留意点 評価規準（評価方法）
		知	思	主	
1	<p>【ねらい】 新出語句を学習する。</p> <p>【学習活動】 ①全Part (Part1～4) 新出語句・表現の音読 ②辞書指導 ③ペアワーク (単語クイズ)</p>				本単元の新出語句だけでなく、派生語等、形による品詞の判断も指導する。
2	<p>【ねらい】 新出文法を学習する。</p> <p>【学習活動】 ①新出文法の説明 ②例文音読</p>				
3	<p>【ねらい】 イントネーション指導</p> <p>【学習活動】 ①全Partリスニング ②本文音読（コーラス、シャドーイング、クローズテスト等） ③T/Fクイズ</p>				
4 5 6	<p>【ねらい】 ミウラ折りの特徴や産業への応用事例、自然界での事例について、内容をおさらいする。</p>				Partごとに音声CDを聴いた後、重要ポイント、間違いやすいポイント等のみ取り

7	【学習活動】 ①各Partリスニング，音読 ②各Partのポイント説明 ③内容に関する英問英答				り上げ，説明する。
	期末考査	○	○		
8 9	プレゼンテーションの型（Listing）を学ぶ。 【ねらい】 聞き手にとって理解しやすいプレゼンテーションの技術を身に着ける。 【学習活動】 実演モデル鑑賞，分析，模擬演習				使用教材：Winning Presentations（誠美堂） Unit 5 Listing 実演モデルを鑑賞し，プレゼンテーションの型（Listing）の構造，表現，音声，ジェスチャー，アイコンタクトを習得する。
10～ 12	パフォーマンステスト	○	○	○	ループリックを用いて評価する。

6 パフォーマンステスト

(1) ねらい

- ア 自分の経験のような生徒にとって身近なテーマではなく，観察による考察を発表することにより，生徒が教科書で学習した語彙を自発的に使用するようにする。
- イ 効果的な発表のための技術であるプレゼンテーションの型（Listing の構成，適切な音声，アイコンタクト，ジェスチャー）を実践する。

(2) 実施方法

- ア 10 時間目：ミウラ折りの実践と観察
- (ア) ミウラ折り罫線付きの紙と通常の折り方用（角が 90 度になる折り方）の白紙を 1 枚ずつ生徒全員に配付する。生徒はミウラ折り，また，通常の折り方で紙を折る。
- (イ) 違いを考えるための補助資料として，ミウラ折りで作成された地図と通常の折り方の地図を配付。なお，実際には生徒全員（最大 41 名）分を用意できなかったので 5～6 人グループを作り，各グループにミウラ折の地図，通常の折り方の地図を 1 部ずつ配付し，グループ内で共有するようにした。
- (ウ) ミウラ折りと通常の折り方の違いを個人で考え，英語でワークシートに書かせる。他生徒との相談は不可とする。
- イ 11 時間目：発表
- (ア) 生徒に評価用ワークシートを配付。ただし，生徒による評価は成績に入れない。
- (イ) 一人 2 分間で発表。
- ウ 12 時間目：発表と振り返り
- (ア) 一人 2 分間で発表。
- (イ) ループリックによる自己評価及び評価用ワークシートの振り返り欄を記入。

(3) 指導上の留意点

- ア 最初に生徒にループリックを提示，採点基準について説明する。
- イ 新出語句・表現を使用することを評価基準に盛り込まない。

7 ルーブリック

(1) 評価方法

ア パフォーマンステストを実施し、ルーブリック(※1, 2)を用いて評価する。

(※1) ルーブリック「主体的に学習に取り組む態度」における「プレゼンテーションの型」

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ① Listing の構成 ② 適切な音声（聞き手に分かりやすい声量，抑揚，スピード） ③ アイコンタクト（原稿を見ずに相手を見る）， ④ ジェスチャー |
|---|

(※2) ルーブリックにおける「思考・判断・表現」における三つの条件

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 自分が観察し考えたことを述べている。 ② ミウラ折りと通常の折り方の違いを<u>対比して</u>述べている。 ③ ミウラ折りと通常の折り方の違いについて<u>具体例を挙げて</u>述べている。 |
|--|

イ パフォーマンステスト後，ワークシートを回収し，その内容を評価する。

(2) 評価の領域（内容のまとめ）：「話すこと [発表]」

評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規準	<知識> テーマに関する文法・表現を 理解している。 <技能> テーマに関して，適切な文 法・表現を用いて，自分の 考えを聞き手に伝える技 能を身に付けている。	聞き手に伝わるによ うに，三つの条件に基 づいて自分の考えを適切 に伝えている。	聞き手に分かりやすく伝わるよ うに，三つの条件に基づいて自 分の考えを適切に伝えようと している。
a (5点)	・文法や語彙，表現が正し く使用されている。	三つの条件を満たした 上で，聞き手が理解し やすい工夫をして，伝 えている。	・三つの条件を満たした上で，伝 えようとしている。 ・プレゼンテーションの型4項 目全てに沿って話している。
b (3点)	・文法に多少の誤りはある が，理解に支障のない程 度の語彙や表現を使っ て話し，伝えている。	三つの条件を満たして 話し伝えている。	・三つの条件を満たして話し伝 えようとしている。 ・プレゼンテーションの型の内， 3項目に沿って話している。
c (1点)	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていな い。	「b」を満たしていない。

※「おおむね満足できる」状況を b とする

8 実践報告

(1) 成果について

ア ルーブリックにおける「主体的な学習に取り組む態度」の項目に，プレゼンテーションの型に沿うことを含めたため，ほとんどの生徒が事前に学習した Listing 型に沿った分かりやすい発表をすることができていた。実践を通じて生徒はこの型を身に付けることができた。

イ ルーブリックに明示しなくても生徒たちは自身の発表において，その単元の語句や表現を用いていた。教科書に掲載されている単語や表現をただ知識として覚えるだけでなく，自発的に使用するというねらいに対して，今回のパフォーマンステストにおけるテーマ設定は有効であった。

ウ 生徒の振り返りにおいて、ふだんの small talk 活動等で扱っているテーマとは全く異なり、観察して考察したことを述べるのは難しかったが、楽しかった、という声が多く見られた。

(2) 実施上の課題と改善策

ア 思考・判断・表現の評価について

(ア) 課題

「思考・判断・表現」の評価 a には「聞き手が理解しやすい工夫をして」という条件を付した。これには、生徒が何か資料を自分で用意したり黒板を使ったりと生徒の創意工夫に任せるという意図があったが、生徒からは「具体的に何をしたらよいかはつきりと指示してほしい」という要望が少なからず挙がった。なお、質問してこなかった生徒で、自分で資料を作成してきた者も多くいた。

(イ) 改善策

表記を「聞き手が理解しやすいよう自分で自由に創意工夫して」と書き換える。具体的な例を出すことにより、自分のアイデアよりもその例にならなことをしなければならぬと生徒が思うことが懸念されるため、具体的な例を出すことは避けたい。

イ 発表内容について

(ア) 課題

発表内容が似通ったものになる。グループ内で相談せず、自分で考察したことを発表することを求めたが、皆同じような発表内容であった。教員が生徒に是非気付いてほしいと思った事柄があったので、補助資料として地図を提示したが、このことが発表内容の偏りを招いた一因であると考えた。

(イ) 改善策

教員が生徒に気付いてほしいと思った事柄については、パフォーマンステスト後の振り返りで生徒に提示する。また、発表内容を、折り方による違いだけにせず、応用の可能性や教科書に載っていない例等を調べて発表するなど、工夫する。

ウ 生徒の発表時間について

(ア) 課題

生徒の発表時間（英語を使用する時間）が短い。1 コマ 50 分の授業で生徒 41 名が発表することはできず、また、授業進度や考査範囲との兼ね合いで 3 コマを費やすことは難しかったため、発表に 2 コマを充てた。しかしながら一人 2 分の発表時間は短すぎ、予め 2 分であると伝えてはいたものの、特にしっかりと準備してきた多くの生徒にとって満足のかない発表になってしまった。また、生徒は自身の 2 分間の発表以外は、他生徒の発表を聴き続けるだけとなってしまった。

(イ) 改善策

本校ではまだ環境を整備中であるが、生徒が授業中にタブレットでロイロノートを使用できるようになれば、発表をロイロノートで録画し提出させる形式にできる。このようにすれば発表時間（英語使用時間）をもっと長く設定することができると思料する。ただし、録画・提出方式にすると、発表において聴衆に対するアイコンタクトを意識することがなくなってしまうこと、また質疑応答ができないというデメリットがある。

エ 質疑応答について

(ア) 課題

生徒同士、教員と生徒間での質疑応答がない。発表時間の制約上、質疑応答の時間を取れなかった。

(イ) 改善策

質疑応答は対面形式にしないと行うことができないため、上記の改善案2の録画・提出方式を取れなくなる。クラスを分割して20人での授業、パフォーマンステストとすることができれば、発表2分・質疑2分という形もできる。ただし、本校でそれを行うのは制約が多いため、質疑応答についてはパフォーマンステストではなく通常の授業の中で養っていくのがよいと思料する。

オ 即興性について

(ア) 課題

即興性に欠ける。今回のパフォーマンステストも「あらかじめ書いてきたものを覚えて発表する」という、即興性に欠けるものであった。実際のコミュニケーションにおいては、話のテーマは定まっても、受け答えは即興的に行うものであるため、自分の考えを即興的に述べる力を育成する必要がある。ただし、今回のパフォーマンステストの手法として観察を行うことに加え、ねらいの一つとして事前準備を要するプレゼンテーションの型の習得を挙げたため、即興性は評価しないことに決めていた。

(イ) 改善策

授業冒頭の生徒間の **small talk** 活動で即興性を養っていく。なお、この時、生徒が文法的な **accuracy** にこだわりすぎることがないように、**fluency** に意識するよう声かけをしたい。

9 参考文献

- ・文部科学省 国立教育政策研究所 (2019) 『学習評価の在り方 ハンドブック 高等学校編』
- ・国立教育政策研究所 (2021) 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校外国語』
- ・愛知県総合教育センター (2016) 「指導と評価の充実に向けて ～学習評価の工夫改善を意識した学習指導のポイント～」

https://apcc.aichi-c.ed.jp/kenkyu/chousa/kiyo/106syuu/106-2_hyouka/28hyouka_2_shiryuu.pdf

実践報告8

話すこと [発表] のパフォーマンステストと パフォーマンス評価の実践

愛知県立吉良高等学校 教諭 杉浦 修平

1 はじめに

今回のパフォーマンス評価の授業実践は本校の多くの生徒が英語学習に対する苦手意識があり、意欲的、主体的に学習する態度が乏しいため、生徒が主体的に英語学習に取り組む態度を育成することを目的として実施した。また、実践内容は英語学習に対して苦手意識をもつ生徒がパフォーマンステストの初期に実施するものとして実施した。

2 単元の目標と言語活動

(1) 教材

- ア 教科書：Vision Quest English Expression I（啓林館）
- イ 単元：Lesson 5 Can you tell me what *ammitsu* is like?

(2) 単元の目標

- ・頻出表現を学び、丁寧に相手に許可を求めたり依頼したりすることができる。それに対し、肯定・否定どちらでも答えられる。
- ・レストランに行き、食事の注文ができる。
- ・助動詞それぞれの意味や用法を学び、適切に使い分けて話者の気持ちや判断を表すことができる。

3 関係する領域別目標（学年のCAN-DO）

読むこと	・簡単な英語で書かれた200語程度の説明や物語を、単語や熟語の意味を調べながら読み、理解することができる。 ・既に習った英文を、発音やリズム、イントネーションに注意しながら、音読できる。
話すこと [発表]	・日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。
書くこと	・辞書を使えば、日常生活の出来事や、自分の経験について、短い文で書くことができる。

4 単元の評価規準（五つの領域ごとの評価規準の設定）

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
読むこと	<p><知識> 文章を読み取るために必要となる語彙や表現を理解している。</p> <p><技能> 日本の伝統的な和菓子について話している会話文を読み取る技能を身に付けている。</p>	<p>レストランでの会話が成り立つように、日本の伝統的な和菓子についての会話文を読んで、概要や要点を捉えている。</p>	<p>レストランでの会話が成り立つように、日本の伝統的な和菓子についての会話文を読んで、概要や要点を理解しようとしている。</p>
話すこと [発表]	<p><知識> 情報や考えを述べるために必要となる語彙や表現、音声等を理解している。</p> <p><技能> 日常的な話題や社会的な話題についての情報や考えを理由とともに話して伝える技能を身に付けている。</p>	<p>聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、日常的な話題についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝えている。</p>	<p>聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、日常的な話題についての情報や考えを、聞いたり、読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝えようとしている。</p>
書くこと	<p><知識> 自分の意見を伝えるために必要となる文法事項や表現等を理解している。</p> <p><技能> 学校の規則について、自分の意見を文法事項や表現等を工夫して書く技能を身に付けている。</p>	<p>読み手によく理解してもらえるように、学校のルールについて自分の意見を文法事項や表現等を工夫して理由とともに書いて伝えている。</p>	<p>読み手によく理解してもらえるように、学校のルールについて自分の意見を文法事項や表現等を工夫して理由とともに書いて伝えようとしている。</p>

5 言語活動を中心とした指導と評価の計画

時間	ねらい、学習活動	評価の観点			指導上の留意点 評価規準（評価方法）
		知	思	主	
1 2	<p>【ねらい】 助動詞（can, may, must）の使い方を学ぶ。</p> <p>【学習活動】 ①教科書例文を参考にし、問題演習に取り組む。 ②教科書例文小テストを受ける。</p>	○			ワークシート 小テスト
3 4	<p>【ねらい】 助動詞（should, will, used to）の使い方を学ぶ。</p> <p>【学習活動】 ①教科書例文を参考にし、問題演習に取り組む。 ②教科書例文小テストを受ける。</p>	○			ワークシート 小テスト

5	【ねらい】 助動詞 + have + 過去分詞, wouldを含む慣用表現を学ぶ。 【学習活動】 ①教科書例文を参考にし, 問題演習に取り組む。 ②教科書例文小テストを受ける。	○			ワークシート 小テスト
6	【ねらい】 助動詞を含む会話文を読み, 概要や要点を理解する。 【学習活動】 ①リスニングで概要把握 ②単語練習 ③内容把握 ④音読練習	○			
7	【ねらい】 助動詞を用いて, 学校のルールを三つ, 5語以上の英語で書く。 【学習活動】 ①学校のルールを三つ, 5語以上の英語で書く。 ②書いた内容をペアで発表する。	○	○		ワークシート 活動の観察
8	パフォーマンステスト	○	○	○	ワークシート 活動の観察 ルーブリックを用いて評価

6 パフォーマンステスト

次の指示を黒板に示し, 15分の準備時間を設ける。

- ① 自分が理想とする学校のルールを助動詞を用いて一つ書く。
- ② 10語以上使用する。
- ③ なぜそのルールにしたのか理由を述べる。

(1) 実施方法

- ① 15分の準備時間を設ける。
- ② クラスで発表し, その後, 聞き手との質疑応答という流れで進める。
※生徒に採点の規準を事前に提示する。

(2) 指導上の留意点

事前にそれぞれの助動詞の意味や働きを確認する。

7 ルーブリック

(1) 評価方法

- ① パフォーマンステストを実施し, ルーブリックを用いて評価する。
- ② ワークシート提出させる。

(2) 評価の領域(内容のまとめり): 「話すこと [発表]」

「思考・判断・表現」についての三つの条件

- 条件①助動詞を使って理想とする学校のルールを一つ示している。
条件②10語以上使用している。
条件③なぜそのルールにしたのか理由を述べている。

評 価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<知識> 助動詞を含む表現を理解している。 <技能> 聞き手に分りやすい音声等で話して伝えている。	聞き手に伝わるように、三つの条件に基づいて、自分の考えを適切に伝えている。	聞き手に納得してもらえるように、三つの条件に基づいて、自分の考えを適切に伝えようとしている。
a (5点)	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙や表現が適切に使用されている。 ・聞き手に分かりやすい音声等で話して伝えている。 	三つの条件を満たした上で、既習の語句や表現を用いて自分の考えを詳しく話して伝えている。	三つの条件を満たした上で、既習の語句や表現を用いて自分の考えを詳しく話して伝えようとしている。
b (3点)	<ul style="list-style-type: none"> ・多少の誤りはあるが、理解に支障のない程度の語彙や表現を使って話し、伝えている。 ・理解に支障のない程度の音声等で話している。 	三つの条件を満たして話して伝えている。	三つの条件を満たして話し、伝えようとしている。
c (1点)	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

※「おおむね満足できる」状況を b とする

8 実践報告

(1) 実践の内容と検証方法

「理想とする学校のルールを助動詞を用いて、10語以上で書き、また、その理由を述べる」というパフォーマンステストを本校生徒 23 人に対して実施した。本校の英語表現 I の授業は 2 クラスを 3 展開して実施している。生徒にはパフォーマンステスト当日にテスト内容を伝え、15 分の準備時間で英文を考えて発表させた。また、パフォーマンステスト前時ではテスト当日に理想とする学校のルールの案が出やすいように、現在の学校のルールを助動詞を用いて 10 語以上で書くことを実施した。

(2) 実践の結果と考察

パフォーマンステストを実施したところ、「話すこと [発表]」「書くこと」の知識・技能の評価で顕著に差が表れた。生徒の中には 2 語しか書けなかった生徒や、理由の部分が書けない生徒、いろいろな考えが浮かび、辞書で単語を調べて、作文できる生徒がいたことなど、大変興味深い結果となった。これは、15 分という時間制限を設けたこと、及び、自分自身で内容を考え、与えられた条件に従って書かなければならないことで、当日までの理解度が顕著に表れたと言える。

前時の授業で、現在の校則について、クラスでさまざまな意見を交換したことで、自分が思い浮かばなかった新たな考えにも触れることができ、さらに、発展問題として、理想とする学校のルールを書かせたことで、例えば **can't** であれば **can** に置き換えて、**mustn't** であれば **may** に置き換えて書いた生徒が多くいた。さらに、結果としてパフォーマンステストの内容がよかった生徒は、単元内容の理解度が高く、定期考査の結果もよかった。今回のパフォーマンステストの条件として、「③なぜそのルールにしたのか述べている」を設定したが、理由の部分で既習の表現を使うことができた生徒は少

数派であった。英語に苦手意識がある、考査得点が低い生徒は理由の部分を書けないことが多かった。また、そもそも何を書けばいいのか分からなかった生徒も複数名おり、その生徒は英語に苦手意識があり、考査得点も低い傾向にある。

(3) パフォーマンステストの評価

評価に関しては当初は規準の設定が非常に難しいと感じていたが、「三つの条件」(①助動詞を使って理想とする学校のルールを一つ示している。②10語以上使用している。③なぜそのルールにしたのか理由を述べている。)を設定したことにより、基準が明確になり、「b」,「c」の評価は判断がしやすかった。しかし、「a」の評価にするかどうかの規準は【知識・技能】が「語彙や表現が適切に使用されている」「聞き手に分りやすい音声等で話して伝えている」、【思考・判断・表現】が「三つの条件を満たした上で、既習の語句や表現を用いて自分の考えを詳しく話して伝えている」、【主体的に学習に取り組む態度】が「三つの条件を満たした上で、既習の語句や表現を用いて自分の考えを詳しく話して伝えようとしている」としたため、曖昧さが残る表現となってしまった。実際に、評価が難しくなり、「a」評価とした生徒がいない結果となってしまった。「a」評価になる生徒が数名はでるような設定にするべきであった。【知識・技能】の「a」評価の規準として示した「聞き手に分りやすい音声等で話して伝えている」という項目に関しては、指導を重点的に行っていなかった。指導を十分に行っていないのに、評価規準に入れてしまったことも「a」評価が出なかった一因であると反省している。評価規準に入れるのであれば、指導の時間を十分に取る必要があること、コミュニケーション英語Ⅰの授業でも音声等の指導がどのように行われているのかを把握するなど、科目を横断的に指導していく必要を感じた。

(4) 成果と課題

ア 成果について

生徒の単元内容の理解度を測るためにパフォーマンステストは非常によい方法であった。生徒たちは自分の考えを英語で表現することに慣れておらず、初めは戸惑いがあったように見られたが、結果として楽しんで活動していたため、主体的に学習に取り組む態度の育成を図ることができたと感じる。また、他の意見に触れることで考え方の幅を広げることができたため、パフォーマンステストに向けた学習を継続することによって、より深い学びにつながっていくのではないだろうか。さらに、発表内容に対して、質問したり、議論したりする活動を導入すれば対話的な学習にもすることができるため、パフォーマンステストは生徒の主体的で対話的で深い学びを実践していく上での最良のツールとすることができると感じた。

イ 課題について

(ア) 実施上の課題

今回の実践は23人のクラス(2クラス3展開のうちの一つ)で実施したため、1時間の授業内で終わることができた。しかし、40人のクラスであれば2時間の授業が必要になり、テストを2日に分けて実施することが必要になる。この場合評価に平等性が保てなくなるため、1時間の授業内で終わることが重要と考える。人数が増えた場合に1時間で終わるためには、タブレット端末を使用した実施が必要不可欠である。そのために、パフォーマンステスト実施前にタブレット端末の使用に生徒が慣れておく必要がある。また、生徒の英語の発音が聞き取りづらいことが何度かあった。指導者はワークシートを提出させ、発表内容の確認ができたが、英語の聞き取りにも苦手意識があり、ワークシートが見られない聞く側の生徒は、発表内容が分からないことも多くあったように思われる。全体での発表を実施する場合は、工夫が必要であると感じた。

(イ) 今後に向けての課題

今回の実践は単一クラスのみで実施した。全てのクラスに実施を広げるためには、教科担任同士で評価方法、実施時期、実施する単元のすり合わせをする必要がある。特に、評価規準の統一が非常に重要であるため、生徒の発表をビデオ撮影する必要がある。タブレット端末を使用し、生徒同士でパフォーマンステストを撮影、記録する方法であれば、ビデオ映像を残すことや1時間の授業内に終わることが可能になる。タブレット端末を活用したパフォーマンステストは、より実践的なものにすることができ、教科担任同士で評価規準のずれが生じにくいパフォーマンス評価ができると感じた。

9 参考文献

- ・文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 外国語編 英語編』
- ・文部科学省 国立教育政策研究所（2019）「学習評価の在り方 ハンドブック 高等学校編」
- ・国立教育政策研究所（2020）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校外国語』

実践報告9

3年生にパフォーマンステストを定期考査で実践

— ICTで作業効率化も —

愛知県立天白高等学校 教諭 磯部 智洋

1 はじめに

令和3年度愛知県英語教育改善プランの重点目標の一つに「パフォーマンステストを各科目において年間3回以上実施する」ことが挙げられている。しかし、本校では3年生になるとパフォーマンステストは行っていない。40人の一斉授業であること、一つの科目を複数の教員が担当していること、受験科目にスピーキングやライティングがない生徒が多いなどが理由として挙げられるだろう。そして、本校と同じような現状の学校は数多いと思う。

しかし、その現状でも3年生にパフォーマンステストを行いたいと考えた。パフォーマンステストは生徒を成長させてくれると考えているからである。

教員の労力を減らし、3年生にもパフォーマンステストを実践できれば、天白高校と同じような現状を抱えている高校において、今回の実践がよいロールモデルになると考えた。

2 単元の目標と言語活動

(1) 教材

ア 教科書：Revised POLESTAR English Communication III 数研出版

イ 単元：Lesson 5 Understanding Communication without Words

(2) 単元の目標

非言語コミュニケーションについての文章を読み、さまざまなコミュニケーションとその文化的背景について理解を深める。また、効果的なコミュニケーションの方法について考えたり、自分の意見を言ったりすることを英語で積極的に行いながら、新出単語や表現についての定着をさせる。

3 関係する領域別目標（天白高校Can-Doリストから引用：卒業時までの目標）

聞くこと	時事問題などの社会性の高い内容の英文を聞き、必要な情報を的確に聞き取ることができる。
読むこと	時事問題などの社会性の高い分野の英文を初見で読んで、要点を的確に読み取ることができる。
話すこと [やりとり]	時事問題などの社会性の高いテーマについて、相手に伝わるように説明したり、自分の意見を述べたりすることができる。
話すこと [発表]	時事問題などの社会性の高いテーマについて、相手に伝わるように説明したり、自分の意見を述べたりすることができる。
書くこと	時事問題などの社会性の高いテーマについての自分の考えを、まとまりのある150語程度の英語で書くことができる。

4 単元の評価規準（五つの領域ごとの評価規準の設定）

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
書くこと	<p><知識> 新出の語や表現を正しく書いている。</p> <p><技能> 新出の語や表現について必要があれば使用できる。</p>	<p>非言語コミュニケーションや文化による非言語コミュニケーションの違いについて自分の意見を書いている。</p>	<p>非言語コミュニケーションや文化による非言語コミュニケーションの違いについて自分の意見を書こうとしている。</p>

5 言語活動を中心とした指導と評価の計画

時間	ねらい, 学習活動	評価の観点			指導上の留意点, 評価規準 (評価方法)
		知	思	主	
1 2 3	<p>【ねらい】 本文を読み, 内容を正しく理解し, それについて話し合うなどのコミュニケーション活動を行う。</p> <p>【学習活動】 Introduction や Warm-up で写真を英語で説明して, 学習内容への関心を高める。</p>	○		○	本文の内容を簡潔にまとめて話したり, 書いたりしている。
4 5	<p>【ねらい】 本文を読み, それについて自分の意見を書く。添削内容や, 他の生徒, 模範解答を参考にしながら, 意見とそれに対する整合性が認められる理由とサポート文の重要性を学ぶ。</p> <p>【学習活動】 ①パフォーマンステストとして, Topic に対して 80 語以上の Essay を書く。 ②ルーブリックを基に Essay の自己評価を行う。 ③Google Classroom に Essay を入力して教員の添削を受ける。自分だけではなく他の生徒の文章を読み, 添削された内容に自ら気付いたり, Common Errors を直したりする。 ④採点基準を考慮に入れて, 意見とそれに対する整合性が認められる理由とサポート文を Google Classroom に入力して, 振り返りを行う。</p>		○	○	非言語コミュニケーションや文化による非言語コミュニケーションの違いについて自分の意見を積極的に表現している。
6	<p>【ねらい】 意見とそれに対する整合性が認められる理由とサポート文の作成力と自分が覚えた語や表現についての定着度を定期試験で測る。</p> <p>【学習活動】 定期試験で理由とサポート文を答える問題に答える。</p>	○	○		制限時間内に設定された語数以上の文章を書き, かつ正しい文章が書いている。

6 パフォーマンステスト

(1) 実施方法

Lesson 5 を読み、読んだことに基づいて考えたことや感じたこと、その理由などを Google Classroom に英語で入力する。他の生徒の回答を参照しながら、その内容を何度も入力して改善していく。最後にテストを行い、制限時間内でも正確な文章を書けるようにする。また、振り返りを行って改善点や参考にしたことも評価する。振り返りも Google Classroom に入力する。

(2) 指導上の留意点

改善を通じて最後に表現した内容の正確さやまとまり（語数）を評価するだけでなく、他の生徒の回答を参照した点や、自分で改善できた点も評価する。

7 ルーブリック

(1) 評価方法

- ① Google Classroom への入力内容
- ② 改善した内容（振り返り）
- ③ 最終テストでの作文の内容

(2) 評価の領域（内容のまとまり）：「書くこと」

「思考・判断・表現」について、単元を通して指導したことを踏まえて以下の二つの条件を全て満たしていれば「a」としている。なお、生徒の実態や指導の状況を踏まえ全ての条件を満たしていれば「a」、2個なら「b」、1個以下なら「c」とすることも考えられる。

条件1：定期考査で意見とそれに対する整合性が認められる理由とサポート文が書けている。サポート文が説明不足や説得力不足になっていない内容になっている。

条件2：定期考査でキーワードを一つ以上用いながら20語以上の文章を書いている。他の生徒の考えや表現を参考にしながら、自分の内容を充実させている。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	定期考査で、軽微な誤りもほとんどなく、文法面に配慮が行き届いている英文で書いている。	上記の二つの条件を全て満たしている。	上記の二つの条件を全て満たしながら、他の生徒の考えや表現を参考にしながら、自分の内容を充実させようとしている。
b	定期考査で文法・単語の誤りが多少あるが、読み手が趣旨を取り損ねるような誤りがない英文を書いている。	上記の二つの条件のうち一つを満たしている。	上記の二つの条件を全て満たして書こうとしている。
c	「b」を満たしていない。 (文法・単語の誤りが多く、文法面に配慮を欠いている。)	上記の二つの条件を両方とも満たしていない。	「b」を満たしていない。

※「おおむね満足できる」状況を b とする

8 実践報告

(1) 実践のねらい

- ① 3年生（約360人）を対象とした教員4人によるパフォーマンステスト（英作文）の実施
- ② 英語を積極的に使う態度の育成
- ③ ルーブリックによる統一基準で効率的な評価の模索
- ④ ICTの積極的活用による生徒と教員双方の作業効率化

(2) 実践手順と内容

手順	内容
1	Worksheet に作文を記入
2	自己評価と、理由とサポート文一つを Google Classroom に入力
3	添削例と Common Errors をスマートフォンとプロジェクタで確認
4	確認後、理由とサポート文を Google Classroom に入力
5	定期考査に向けて、明確な採点基準、模範解答を確認
6	定期考査でパフォーマンステストを再度解答
7	Google Forms で振り返りを入力

(3) 実践の結果

2学期中間考査 English Communication IIIに出題した。マークシートで答える問題（80点）と記述問題（20点）のうち英作文の問題をパフォーマンステスト（8点）として出題した。解答用紙にもルーブリックを載せて、生徒、教員双方にとっても採点基準を分かりやすくした。

また、文構成と正確さの2観点のみで採点し、意見、理由とサポート文に整合性があれば3点とした。正確さは何度も書いているので、スペルミス1つ一つまでは許容範囲とするが文法ミスは許さないという採点基準にした。ルーブリックを解答用紙に記載したのは、生徒が考査返却時に何点だったのか分かり、訂正や質問に答えやすいようにしたかったためである。

(4) 実践の成果、考察

- ① 複数教員で行うためにはルーブリックの作成は必須。
- ② 実践の中でルーブリックを修正、改善していくことが重要。

今回、指導の段階で生徒が書いた文章には、意見、理由とサポート文の整合性がないものが多かった。そのため、パフォーマンステストの際には改めて採点基準を示し、ルーブリックも修正した。最初作ったルーブリックを使い続けるのではなく、生徒とのやり取りの中でルーブリックを修正していくことが大切である。

- ③ スマートフォン（タブレット）を活用することで、生徒は積極的に英語を使う。

スマートフォンで入力する方が生徒は意欲的である。スマートフォンの方が修正が容易なので積極的になるのではないかと考える。

- ④ ICTの活用（Google Classroom や Forms の活用）は、生徒の提出状況確認やアンケートの集約に効果的。

提出状況の確認、英文の共有や添削、返信などは Google Classroom を活用し、アンケート集約、振り返りには Google Forms を活用した。提出状況など課題の確認は簡単になることが利点である。もちろん、コピー&ペーストしていないかどうかのチェックは必要だが、提出したかを見るだけなら ICTの方が簡単である。返信も容易にでき、気になる発言や意見にはコメントできるので非常に効率的であ

った。また、視覚化しやすいことも利点として挙げられる。生徒全体の意見を見やすく、具体化できる点で、Google Forms やテキストマイニングは今後も実践しながら可能性を広げていけると考える。

⑤ 生徒は定期考査でパフォーマンステストを出題したことを、自身の成長、表現の定着を図る上で重要と実感。

アンケート結果から分かったことだが、定期考査でもう一度同じ内容を出題したことに生徒の半数以上は意味があると回答した。また大学入試を控える3年生にとってもパフォーマンステストは効果的と60%以上の生徒が回答した。ライティングが大学入試で必要のない生徒も効果的だと回答している。

(5) 今後に向けての課題

主体的に学習に取り組む態度を評価するとき、「書くこと」は成果物のみで判断することになるので、過程を評価できない。教員、生徒双方にとって客観的な評価方法を探っていくことが今後の検討事項になると考える。

9 参考文献

- ・文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 外国語編英語編』
- ・文部科学省 国立教育政策研究所（2019）『学習評価の在り方ハンドブック（高等学校編）』
- ・国立教育政策研究所（2021）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 外国語』
- ・愛知県総合教育センター（2017）『授業の手引 高等学校英語』
- ・愛知県総合教育センター（2018）『指導と評価の充実に向けて ～学習評価の工夫改善を意識した学習指導のポイント～』

https://apcc.aichi-c.ed.jp/kenkyu/katei/gaku-hyouka/2018/hyoukashuhou/28hyouka_leaflet.pdf

実践報告 10

パフォーマンステストの指導と評価の在り方について

—ライティングテストの実践とルーブリックを使った評価の報告—

愛知県立尾西高等学校 教諭 岩本 修

1 はじめに

使用場面を想定し、使える英語を身に付けることが授業の大きな目標である。パフォーマンステストにより生徒の到達度を測る際に、到達度を示す指標としてのルーブリックは必要不可欠である。生徒の実践的な英語力の育成を目指し、授業改善を見据えたパフォーマンステストの在り方を考察する。

2 単元の目標と言語活動

(1) 教材

ア 教科書：Vivid English Expression II（東京書籍）

イ 単元：Lesson 30 The Olympic Games

(2) 単元の目標

- ・ 予定や理由、願望を表すさまざまな表現について理解し、使うことができる。
- ・ 学習した表現を使って、読み手に伝わるように、自分の考えを具体例、体験などを交えて、論理的に書くことができる。

3 関係する領域別目標（学年のCAN-DO）

聞くこと	・好きなもの、学校生活、家庭生活など身近な話題に関する相手の発言を理解できる。 ・相手の質問を理解し、答えることができる。
読むこと	・身近な話題に関する英文を読み、辞書を引きながら理解できる。 ・英文の内容を理解し、自分が必要とする情報を探し出すことができる。
話すこと [やり取り]	・学校生活や、家庭生活に関して、クラスメイトと意見の交換ができる。 ・クラスメイトなどの英語のやり取りを聞き、内容を理解できる。
話すこと [発表]	・好きなもの、学校生活、家庭生活など、簡単な単語で簡潔に話すことができる。 ・繰り返し練習し、テストで発表できる。
書くこと	・好きなもの、学校生活、家庭生活などについて平易な文で簡潔に書くことができる。 ・主語、動詞の語順を意識して具体例を挙げながら自分の考えを書くことができる。

4 単元の評価規準（五つの領域ごとの評価規準の設定）

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	<知識> 予定や理由、願望を表す表現とその使用場面やきまりを理解している。 <技能> 予定や理由、願望を表す表現	予定や理由、願望を表す表現が使われる会話、社会的な話題について、必要な情報を聞き取り、話し手の意図や概要、要点を捉えている。	社会的な話題、話し手の気持ち、考えに対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で話されることを聞こうとしている。

	が使われる会話，社会的な話題について話された内容を聞く技能を身に付けている。		
読むこと	<p><知識> 予定や理由，願望を表す表現とその使用場面やきまりを理解している。</p> <p><技能> 予定や理由，願望を表す表現が使われる話題について，その内容を捉える技能を身に付けている。</p>	<p>予定や理由，願望を表す表現が使われる話題について，必要な情報を読み取り，書き手の意図や概要，要点を捉えている。</p>	<p>社会的な話題，書き手の気持ち，考えに対する理解を深め，主体的，自律的に英語で書かれていることを読もうとしている。</p>
話すこと [やり取り]	<p><知識> 予定や理由，願望を表す表現とその使用場面やきまりを理解している。</p> <p><技能> 予定や理由，願望を表す表現が使われる会話，社会的な話題について，論理性に注意して自分の気持ちを伝え合う技能を身に付けている。</p>	<p>予定や理由，願望を表す表現が使われる会話，社会的な話題について，情報や考え，気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり，論理性に注意して話して伝え合ったりしている。</p>	<p>社会的な話題，話し手の気持ち，考えに対する理解を深め，聞き手に配慮しながら，主体的，自律的に伝え合おうとしている。</p>
話すこと [発表]	<p><知識> 予定や理由，願望を表す表現とその使用場面やきまりを理解している。</p> <p><技能> 予定や理由，願望を表す表現が使われる会話，社会的な話題について，論理性に注意して自分の気持ちを伝える技能を身に付けている。</p>	<p>予定や理由，願望を表す表現が使われる会話，社会的な話題について，必要な情報や考え，気持ちなどを，論理性に注意して話して伝えている。</p>	<p>社会的な話題，話し手の気持ち，考えに対する理解を深め，聞き手に配慮しながら，主体的，自律的に話して伝えようとしている。</p>
書くこと	<p><知識> 予定や理由，願望を表す表現とその使用場面やきまりを理解している。</p> <p><技能> 予定や理由，願望を表す表現を使い，論理性に注意して自分の考えや気持ちを書いて伝える技能を身に付けている。</p>	<p>予定や理由，願望を表す表現を使って，自分の意見や社会的な話題について，必要な情報や考え，気持ちなどを，論理性に注意して書いて伝えている。</p>	<p>予定や理由，願望を表す表現を使って，社会的な話題，自分の意見や考えを，読み手に配慮しながら，分かりやすい英語で論理的に書こうとしている。</p>

5 言語活動を中心とした指導と評価の計画

時間	ねらい, 学習活動	評価の観点			指導上の留意点 評価規準 (評価方法)
		知	思	主	
1 2	<p>【ねらい】単元の目標を理解し, 実践的な使用場面を理解し, 学習課題に対する理解を深める。</p> <p>【学習活動】志望動機について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス全体で志望動機の書き方, 内容や使われる英語表現, その目的などについて学ぶ。 ・志望動機等を書くときに使われる英語表現など教科書の例文などを用いて習得する。 				予定や理由, 願望を表す表現についてその使用場면을踏まえて理解させる。その上で自身の考えを構成し, 必要な知識, 技能を身に付けるための積極的な取組を観察する。
3 4	<p>【ねらい】専攻分野について理解を深める。</p> <p>【学習活動】インターネットを使って調べ学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットやスマートフォンを使い, 大学のカリキュラムや教育内容について調べる。 ・読み手を意識し, 自分の意見を論理的に組み立て, 分かりやすい英語表現を考える。 				自身の志望動機を書く際に必要な情報をさまざまなツールを用いて主体的, 意欲的に調べているか観察する。必要であれば適宜助言を行う。
5 6	<p>【ねらい】英語を調べながら英文を完成させる。</p> <p>【学習活動】自分の意見や主張のアウトラインを書き出し, 原稿を書き上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを使ってアウトラインを書き, それをベースに原稿を書き上げる。教師からのフィードバックも参考にする。 ・クラスメイトと自身の原稿を読み合い, さまざまな人の意見を参考に改善点を意見交換して, 原稿をよりよいものにする。 				論理的に自身の考えを述べるために構成や表現を工夫しながら, スクリプトを完成させようとしているか観察する。さまざまな英語表現に関しては教師の方から助言を行う。
後日	振り返り	○	○	○	振り返り

6 パフォーマンステスト

(1) 実施方法

自分自身の進学先の「志望動機, 志望理由」をテーマにライティングテストを実施する。身に付けさせたい英語表現について授業を行った後, 調べ学習, 書く作業へと移る。2回から3回程度添削, 書き直しの機会をつくり, できるだけ自分の力で書く主体的な取組を促し, 意欲を含めた観点別評価を行う。

(2) 指導上の留意点

実施方法でも示した通り, 自ら調べ, 主体的な取組を促し, 観点別評価として評価していくことを予告する。ただ, 情報を調べる方法や, さまざまな英語表現など, 教師は適宜アドバイスを行う。観点別評価はルーブリックで生徒に分かりやすいように示し, 生徒がテストにスムーズに取り組めるように具体的な条件を設定する。生徒のレベルに合わせて, 英文を書きやすくするために, 使用する英語の条件などを細かく設定し, 模範となる英文の提示なども行う。

7 ルーブリック

(1) 評価方法

各評価の領域において生徒に分かりやすい具体的な採点基準を設定し、クリアすべき基準を生徒と共有する。より客観的な評価ができるよう、使用すべき具体的な英語表現、分量などを提示する。

(2) 評価の領域（内容のまとめ）

【条件】

- ① 論理の構成や展開を工夫して、四つ以上(序論とまとめ含む)の段落から成る文章で書くこと。
- ② 自身の専攻分野に関して志望理由が明確に示されていること。「具体例や自身の経験」と「今後の抱負や夢」を必ず盛り込むこと。
- ③ 自身の専攻する分野に関して知識がない人にも分かるような論理構成で（文と文やパラグラフとパラグラフのつながりに無理がないか等）、平易な英語を使って書く。
- ④ 理由を表す表現（because~など）、目的を表す表現（to do など）、願望を表す表現（hope, would like to など）、未来表現（will など）をそれぞれ必ず一回は使用すること。

評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<知識> 予定や理由、願望や目的の表現を理解している。 <技能> 予定や理由、願望や目的表現を使って、自分の考えを伝えている。	予定や理由、願望や目的表現を使って、自分の考えを論理性に注意して書いて伝えている。	予定や理由、願望や目的表現を使って、自分の考えを論理性に注意して書いて伝えようとしている。
a (5点)	四つの条件を全て満たした上で、語彙や表現の選択も適切で、理解しやすい英文を用いて書いている。	四つの条件を全て満たした上で、自分の考えを分かりやすく書いている。	四つの条件を全て満たした上で、自分の考えを伝えようとしている。
b (3点)	二つの条件を満たし、誤りが一部あるが、理解に支障のない程度の英文を用いて書いている。	二つの条件を満たして書いている。	二つの条件を満たして書こうとしている。
c (1点)	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

※「おおむね満足できる」状況を b とする

8 実践報告

(1) 実践の内容

実践の流れ	留意事項
1 授業実践	パフォーマンステストの予告、ルーブリックの提示
2 調べ学習、構成を考える	説得力のある論理構成も含め、主体的に取り組ませる
3 実際に書き始める	調べながら書き進めさせる
4 教員による添削	3回の添削（あくまで生徒の主体的な取組を前提に）
5 振り返り、事後学習	よくある間違い、生徒のつまずきを踏まえた助言、講評

「志望動機，志望理由」をテーマに，100～120 語程度の英文を書かせた。パラグラフライティングを理解した上で，論理の展開を意識して書くように指示した。ワークシートを用意し，主体的な取組も含め，採点基準をループリックの形で示した。ループリックは使用する英語表現など，できるだけ具体的に提示した。生徒の英語力が高くないので，具体的な条件や使用すべき英語表現を指定する方がスムーズに取り組めると考え，できるだけ詳細で分かりやすいワークシートを作成することを心がけた。

(2) 検証方法

生徒の作成した英文を，採点基準を基に評価する。採点基準の四つの条件は生徒にも分かるように詳細に設定している。評価に客観性をもたせるため，生徒の主体的な取組を促し，生徒の実践の様子を見ると同時に，出来上がった作品を評価対象とし，採点基準の妥当性を検証した。

(3) 実践の結果と考察

もともと真面目に取り組む生徒が多い上に，配点を高く設定し，評価に結び付くことを強調したので，生徒たちは非常に前向きに取り組んでいた。教師からのサポートが前提になるが，ループリックで条件を細かく設定するなどしたことで，スムーズな実施につなげることができた。自分の考えを問う題目設定だったので，自分の考えを明確にもっている生徒はこちらが考えていた以上の成果を出してくれた。英語力だけでなく，自身の意見を英語で伝える意欲が問われる形になり，「主体的に学習に取り組む態度」も客観的に測ることができるテストになった。評価の例を以下に示したい。以下はある生徒の書いた英文の第一稿と最終稿である。調べ学習への助言，添削指導により大きく改善していることが分かる。主体的な取組も良好で，使うべき英文が使われていないなどの理由で知識・技能は b 評価にしたが，その他は積極的な取組も踏まえ a 評価とした。改善の状況や取組の姿勢を柔軟に評価していくことで，客観性のある評価が重要であると考えた。一方で，評価規準と評価のずれが大きくなることは望ましくない。実践を通して継続的に改善をしていくことが重要であることが分かった。

[実践例]

第1稿

My dream is to be speech therapist. To grandma when I was in elementary school, I was taken to a sing language class. That experience made me interested second.

最終稿

My dream is to be a speech therapist. I have two reasons.

First, I used to go to sign language class with my grandmother when I was in elementary school. That experience made me get interested in speech therapist. There I learned how to treat people who are deaf.

Second, I like talking to people. Therefore, I would like to communicate with many patients and make them happy smile using my communication skills.

For these reasons, I want to study a lot about speech therapist to make my dream come true. In the future, I want to become a speech therapist, who is always warm and close to the patient.

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
b	a	a

(4) 成果と課題

まず課題であるが、パフォーマンステストに必要な時間と労力の確保はやはり大きな課題である。ただ、ループリックの作成やワークシートの工夫で効率的な実施は可能ではないかと感じた。また、何よりも生徒の実践が重要であり、生徒の主体的な取組にある程度任せるという割り切りも必要だと思ふ。

成果については、多くの生徒が予想以上によい成果を出し、生徒の潜在能力の高さを認識することができた。英語表現の蓄積がなく、文法も十分に身に付いていない生徒にとっては、細かく採点基準が示され、使うべき英語表現もある程度提示されている方が取り組みやすいことが分かった。意欲の評価に関しても英語力の高い生徒が必ずしもよい評価を得たわけではなく、意欲的に取り組む姿勢も適切に評価できていたと思う。このパフォーマンステストを通じて、単元で学んだ英語表現が身に付いているかどうかを評価することができたことは大きな成果だった。そして何よりも、この実践が学んだことを使う機会になり、生徒の学びが日々の授業を通じて自律的に進んでいくよいきっかけとなることが分かったことが最大の成果だと言える。

9 参考文献

- ・文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説外国語編英語編』
- ・文部科学省 国立教育政策研究所（2019）『学習評価の在り方ハンドブック（高等学校編）』
- ・国立教育政策研究所（2021）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校外国語』
- ・上山晋平（2020）『中学・高校英語ライティング指導』学陽書房
- ・根岸雅史（2017）『テストが導く英語教育改革』三省堂
- ・投野由紀夫編（2013）『英語到達度指標 CEFR-J ガイドブック』大修館書店
- ・投野由紀夫、根岸雅史編著（2020）『CEFR-J リソースブック』大修館書店

2学期ライティング パフォーマンステスト

テーマ

志望動機，志望理由を英語で書いてみよう！

ルール(条件)

※自分の力で(自分で調べて)主体的に取り組むこと。卒業後は主体性がとても重要になります。

→今回のパフォーマンステストは先生があれやこれやと指示はしません(助言はもちろんします)。

できるだけみんなが自力で書いたものを評価したいと思っています。

1 以下，形式に関する二つの条件を満たしているか？

- ① 段落は四つ以上使って書く。
- ② 80語以上の英語で書く(100語以上であれば加点)。

2 志望理由は明確か？以下の内容を必ず盛り込むこと。

- ①自身の経験など具体例(明確に)
- ②今後の抱負，夢(明確に)

3 分かりやすい英語で論理的に書かれているか？使用されている英語は適切か？

- ①内容にあいまいさや論理の飛躍がないか。
- ②英語は文法的に誤りがないか，正しい英語が使われているか。

4 以下の英語表現が正しく使用されているか？

- ①未来表現(ラーナーズ Lesson4, vivid Lesson32) will, be going to, be ~ing, be to do,
- ②目的表現(ラーナーズ Lesson13~Seminar page2) to do~, in order to do~, so as to do~,
- ③願望を表す表現(Vivid Lesson25) want to do~, would like to do~, hope that~, hope to do~, wish that~,
- ④理由を表す表現(Vivid Lesson30) Because~, because of~, this is because~,

5 先生から助言(添削)をしてもらい，原稿をよりよいものにできているか？

採点基準 30点満点

ルール(条件)		得点
構成	①段落は四つ以上使って書く。	①(2・0)
	②80語以上の英語で書く(2点)。100語以上(3点)。	②(3・2・1・0)
内容	①自身の経験など具体例が明確に書かれている。	①(3・1・0)
	②今後の抱負，夢が明確に書かれている。	②(3・1・0)
	①分かりやすい英語で論理的に書かれている。	①(3・2・1・0)
	②使用されている英語は適切である。	②(3・2・1・0)
表現	①未来表現が正しく使用されている。	①(2・1・0)
	②目的表現が正しく使用されている。	②(2・1・0)
	③願望を表す表現が正しく使用されている。	③(2・1・0)
	④理由を表す表現が正しく使用されている。	④(2・1・0)
意欲	先生から助言(添削)を受け，原稿がよりよいものになっている。	(5・3・0)

段落構成

第1段落（導入）

- ・ 学びたいこと，学びたい場所，その理由を一言で
- ・ 第2～4段落で書く内容の予告（これから何を書くか）

第2～4段落（サポート，ボディ）

- ・ 理由1 志望理由+具体例，エピソードを挙げながら（専攻分野）
- ・ 理由2 志望理由+具体例，エピソードを挙げながら（専攻分野，学校）

第5段落（結論）

- ・ まとめ これまでの段落で書いたことを再度まとめて書く

ブレインストーミング

まずは日本語，英語，どちらでもよいので構成を練っていきましょう！

- 何（専攻分野）を学ぶか？： What are you going to study after you graduate from high school?
- なぜその分野に興味を持ったのか？： Why were you interested in that?
- なぜそれを学ぶか？： Why do you want to study it?
- どこで(学校)で学ぶか？： Where are you going to study?
→なぜその学校で学ぶのか？ Why are you going to study it there?
- 具体例(経験)： your experience
- それを学んで将来どうなりたいか？： What do you want to be in the future?
- その目的に向けて今自分が何をしなければならないか。： What do you have to do now?

Topic Sentences	・
Supporting Sentences	・
	・
	・
Concluding Sentences	・

Sample Expression

My dream is to be ～. 「私の夢は～になることです。」 I'm interested in ～. 「私は～に興味がある。」

The reason why I am interested in ～ is ... 「私が～に興味をもつ理由は・・・」

First 「最初に」 Second 「二つ目に」 Finally 「最後に」 In conclusion 「結論として」

Therefore 「従って，そういうわけで」 However 「しかしながら」 For example 「例えば」

So, 「なので」 major in ～ 「～を専攻する」 My major is 「私の専攻は～です」

Though S+V ～, ... 「～だけれど」 This is why ～. 「こういう訳で～」

This is because ～. 「これは～だからです。」

実践報告 11

「書くこと」のパフォーマンステストと評価

愛知県立幸田高等学校 教諭 戸田 康弘

1 はじめに

いわゆるパフォーマンステストというと、「話すこと」に主眼がおかれることが多いが、5領域の一つ「書くこと」についてのパフォーマンステストに結びつける授業実践を行った。その際のルーブリックの評価項目の設定の在り方、また、「主体性」をどのように評価に加えていくかについて考察した。

2 単元の目標と言語活動

(1) 教材

ア 教科書：Vision Quest English Expression II Hope（啓林館）

イ 単元：Lesson6 This is a photo taken in Vancouver.

(2) 単元の目標

さまざまな方法で名詞を修飾することができる。

3 関係する領域別目標（学年のCAN-DO）

聞くこと	さまざまな主題，時事問題に関する対話等を聞いて，その概要を適切に捉えることができる。
読むこと	さまざまな主題，時事問題に関する対話等を聞いて，その概要を適切に捉えることができる。
話すこと [やり取り]	発表された内容を踏まえて自分の意見を簡潔に理由も含めて述べるができる。
話すこと [発表]	学んだことや経験したことに基づき，情報や考えなどをまとめ，基本的な表現で発表することができる。
書くこと	設定された主題について，さまざまな文章を意見を踏まえて書くことができる。

4 単元の評価規準（五つの領域ごとの評価規準の設定）

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと [やり取り]		発表された内容について，質問や，自分の意見を言っている。	発表内容について理解しようと努め，積極的に質問，発話しようとしている。

話すこと [発表]	後置修飾（分詞・関係詞・前置詞句）を効果的に使い、物事の説明をしている。	相手に発表内容が理解されるように、伝え方を工夫している。	相手に発表内容が理解されるように、伝え方を工夫しようとしている。
書くこと	後置修飾（分詞・関係詞・前置詞句）を効果的に使い、設定された主題について説明する文章を書いている。	設定された主題の描写が適切になされている文章を書いている。	よりよい文章を書こうとしている。

5 言語活動を中心とした指導と評価の計画

時間	ねらい, 学習活動	評価の観点			指導上の留意点 評価規準（評価方法）
		知	思	主	
1 ～ 4	【ねらい】 名詞を修飾する方法（主に後置修飾）を学ぶ。 【学習活動】 教科書に準拠したワークシート	○			・ワークシートにより理解度を確認する。
5	【ねらい】 指導した内容を踏まえ、写真を説明する正しい英文を書けるようにする。 【学習活動】 発表とパフォーマンステスト	○	○	○	・パフォーマンステストは授業時間内に制限時間を設けて行うが、その前に生徒が書いた文章を添削し、数回書き直す指導を行う。 ・写真の説明をペアで数回させた後、パフォーマンステストを実施する。

6 パフォーマンステスト

(1) 実施方法

各自で用意した「思い出の写真」について 60 語程度の英文を書く。

(2) 指導上の留意点

パフォーマンステストでは時間を設定しその中で書かせるが、テスト実施までに何度か書き直させ、添削指導する機会を設ける。

7 ルーブリック

(1) 評価方法

パフォーマンステストで生徒が書いた作文を回収し、ルーブリックを基に教員が採点する。パフォーマンステスト実施前の書き直しも評価の対象とする。

(2) 評価の領域（内容のまとめ）：「書くこと」

評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規準	学習した後置修飾（分詞・関係詞・前置詞句）を正しく効果的に使えている。	まとまった分量の英文で、思い出の写真に写っている人物などの描写が適切になされている。	パフォーマンステスト当日までによりよい文章を書こうとしている。
a (5点)	学習した後置修飾を英文の中で2箇所以上正しく効果的に使えている。	60語以上の英文が書け、写真の描写だけでなく、その時の気持ちやその写真が撮られた背景など、より深い内容も書かれている。	添削された内容を基に書き直したものを提出する指導を2回以上受け、よりよい英文を書こうとしている。
b (3点)	学習した後置修飾を英文の中で1箇所正しく効果的に使えている。	54語以上の英文が書け、写真に映っている人物などを英文で適切に説明できている。	添削された内容を基によりよい英文を書けるように、書き直したものを提出し指導を受けた。
c (1点)	学習した後置修飾を使うことができていない。	英文の語数が53語以下で、写真の内容を十分に説明することができていない。	添削されたものを基に書き直したものを提出しようとしなかった。

※「おおむね満足できる」状況をbとする。

8 実践報告

(1) 実践の内容

まず、教科書に準拠したワークシートで学習、問題演習を行い、知識・技能の定着を行った。Lesson 6で扱う文法項目は分詞、関係詞、前置詞句を用いた名詞の後置修飾である。単元の学習が終わった後、生徒各自が持っている思い出の写真を一枚選び、それについての説明の文章を書かせるパフォーマンステストを実施することを伝えた。生徒への指示は以下のとおりである。

- ① 思い出の写真について説明する「書くこと」のパフォーマンステストを行う。
- ② テスト当日は、英文を書く際にその写真を見てもよい。
- ③ テストまでに、1週間程度の添削の機会を設けるので、積極的によい文章が書けるように努力する。この努力する姿勢も評価に加える。
- ④ 書き上げた英文はループリック（7(2)参照）に基づいて、評価する。

パフォーマンステスト当日までに書かせたものを一度添削し、アドバイスを与えた上で、評価に加えることを確認し、書き直しをさせた。全ての生徒が、書き直したものを1回は提出することができた。その上でもう一度添削して返却した。英語力に不安をもっている生徒は2回目の提出をした。このような生徒は12名中3名にとどまった。

パフォーマンステスト当日は、テスト前に、ペアで写真を見せながら、本日書く内容をお互いに口頭で発表させた。テスト前の最終確認の意味合いで行ったが、生徒は積極的に伝えようとし、リラックスした雰囲気を作ることができた。その後、写真と筆記用具以外のものをしまわせ、パフォーマンステストを行った。制限時間は5分に設定した。

(2) 実践の結果

本校理系コース 12 名のパフォーマンステストの結果は以下のとおりであった。

※ a … 5 点, B … 3 点, c … 1 点に換算

	知・技	思・判・表	態度	合計
生徒 A	5	5	3	13
生徒 B	3	5	3	11
生徒 C	5	3	3	11
生徒 D	5	5	3	13
生徒 E	3	3	3	9
生徒 F	5	1	5	11
生徒 G	5	3	3	11
生徒 H	5	1	5	11
生徒 I	3	5	3	11
生徒 J	5	5	3	13
生徒 K	5	5	5	15
生徒 L	3	3	3	9
全体	4.3	3.7	3.5	11.5

(3) 考察

「知識・技能」の観点の評価項目は、ルーブリックに示したとおり、単元の学習項目である後置修飾が正しく使えているかに絞った。スペルミスや、その他の部分における文法のミスは返却の際に指導はするが、評価には加えないようにした。このようにすることで、「何ができるようになっていればよいか」を採点者にも生徒にも明確にすることができた。生徒は後置修飾に焦点を当てて学習することができたようで、この観点の平均点は他の観点よりも高くなった。また、本校の場合は教科担当が受けもつ授業が 1 クラスで、しかも少人数であったが、複数で人数の多いクラスを評価する際は、単元目標や生徒の学力に応じて何を評価するかを明確にすることが評価の客観性を維持するために大切かと思われる。

また、「主体的に取り組む態度」の評価項目に添削回数を入れたため、英語が苦手な生徒も添削指導を受けたことにより、三つの項目の合計ではそれなりの評価を受けることができた。苦手な生徒にとっては自分で考えた英文であってもそれを覚え一定量の英文を書くことは難しい。実際、生徒 F・生徒 H は本番では十分な分量（60 語の 9 割の 54 語以上を「思考力・判断力・表現力」における b 評価に設定）を書くことができなかったが、事前の添削指導の回数が多かったため、必然的にこの項目の評価が高くなった。しかしながら、英語が得意な生徒、すなわち、教員からの添削指導があまり必要でない生徒は、生徒 A、生徒 D、生徒 J のように他の項目が a 評価であっても、「主体的に取り組む態度」で b 評価となり、ほぼ完璧な英文を書けても満点の評価に至らなかった。「主体的に取り組む態度」をどのような点で評価し、その評価にどのように客観性と妥当性をもたせるかは今後研究を進めるべき課題であると感じている。

実践報告 12

パフォーマンス評価の実践

—書くことにおける指導と評価—

愛知県立知立東高等学校 教諭 森島 崇

1 はじめに

パフォーマンステストを3観点で評価するルーブリックについて研究を行った。「書くこと」の領域を担当したのは研究員4名であったが、それぞれ学校の特性に違いが見られた。自分の担当するクラスのみで完結できる学校から、学年全体で取り組んでいかなければならない学校まである。本校は後者に該当するため、評価をする際には自分だけで取り組むことはできない。この研究に取り組む上で真っ先に考えたのは、いかに学年全体、他の教員を巻き込んで実践し、ルーブリックを作成していくかという課題であった。

2 単元の目標と言語活動

(1) 教材

ア 教科書：DUALSCOPE English Expression II（数研出版）

イ 単元：UNIT 22 Using Words to Connect Ideas

(2) 単元の目標

- ・分かりやすい表現を使い、Topic Sentence - Supporting Sentence - Concluding Sentence という基本的構成を理解して文章を作成する。

3 関係する領域別目標（学年のCAN-DO）

聞くこと	日常生活に関する身近な内容を聞いて、情報や考えなどを理解し、要点を捉えることができる。
読むこと	未知の語があっても、意味を推測したり背景となる知識を活用したりしながら、内容を捉えることができる。
話すこと [やり取り]	【令和4年度に向け、検討中】
話すこと [発表]	さまざまなテーマについて、ある程度まとまった文章で聞き手に分かりやすく正確に伝えることができる。
書くこと	さまざまなテーマについて、文と文とのつながりを示す語句や理由を述べる表現に注意しながら、自分の考えを100語程度のまとまった文章で書くことができる。

4 単元の評価規準（五つの領域ごとの評価規準の設定）

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
書くこと	<p><知識> 自分の意見、感想を伝えるために必要な文章構成や展開、表現を理解している。</p> <p><技能> 長崎のテーマについて、自分の意見や感想を文章の構成や展開を工夫して書く技能を身に付けている。</p>	読み手によく理解してもらえるように、長崎のテーマについて学んだことを活用しながら、自分の意見や感想を、文章の構成や展開を工夫して複数の段落を用いて詳しく書いて伝えている。	読み手によく理解してもらえるように、長崎のテーマについて学んだことを活用しながら、自分の意見や感想を、文章の構成や展開を工夫して複数の段落を用いて詳しく書いて伝えようとしている。

5 言語活動を中心とした指導と評価の計画

時間	ねらい、学習活動	評価の観点			指導上の留意点 評価規準（評価方法）
		知	思	主	
提出課題	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿った内容であるかの確認をする。 ・生徒がロイロノートを使用できるか確認をする。 <p>【学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期日までに自分の設定したテーマ、タイトルを決めて、ロイロノートに送信する 				<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ、タイトルが課題に沿ったものであるかを確認する。 ・ロイロノートの提出ができていないかの確認と使用方法が分からない生徒へのフォローをする。
授業10分	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ループリックを提示することで課題目標をはっきりと示す。 <p>【学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ループリックの提示と説明をする。 				<ul style="list-style-type: none"> ・採点の基準を生徒と共有する。
提出課題	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間で調べた内容や学んだ知識などを利用して、今まで学んできた英語で自分の考え、意見、感想を表現できているか確認をする。 <p>【学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期日までに自分の設定したテーマで英作文をして、提出する。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ループリックに従い、チェックをして、書き直しのためのアドバイスをできるようにしておく（アドバイスシートを使用）。
授業1時間	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書、補助プリントを利用して、文章の構成、文をつなげる語句を確認して、再度書き直しの機会を与える。 ・他者に読んでもらうことで、相手に分かりやすい表現を使用できているか確認させる。 ・自己評価させることで、自分に現時点で何ができて、何ができないのかを把握させる。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ループリックを生徒に再提示して、自己評価を行うことで、よりよいものを書こうとする動機付けを行う。 ・授業で補助プリント、Self-evaluation sheetを生徒に配付する。

	【学習活動】 ・グループでお互いの英作文を読み合う。 ・自己評価する。 ・書き直し，書き加えをする（時間があれば）。				・ Self-evaluation sheet を回収する。
課題提出	・書き直し，書き加えをした Final Draft を提出させる。	○	○	○	・ループリックに従って，評価を行う。
授業 15分	【ねらい】 ・再度自己評価を行うことで，どの点ができるようになったか明確にさせるとともに，今後の課題を発見させる。 【学習活動】 ・最終自己評価をして，できるようになったことと今後の課題を記入する。				・ Final Draft を返却し，総評をするとともに，次回への動機付けを行う。 ・ Self-evaluation sheet を生徒に配付，回収する。

6 パフォーマンステスト

(1) 実施方法

長崎のさまざまなテーマについて，文と文とのつながりを示す語句や理由を述べる表現を使用し，自分の考え，意見を英語 80 語以上のまとまった文章を作成する。

【手順】

提出課題：ループリックの提示。

First Draft を作成・提出させる。

授業：ループリックの再提示，書き方の確認，グループ内チェック，自己評価，書き直し。

Final Draft を作成・提出させる。

授業：パフォーマンステスト評価を返却。

振り返りシートを記入させる。

(2) 指導上の留意点

- ・始めにパフォーマンステストの流れとループリックを生徒に配付・説明する。
- ・自己評価，アドバイスシートを用いることで書き直しの機会を与えて，よりよいものを作成しようとする動機付けをする。
- ・生徒の自己評価は成績には入れず，フィードバックにのみ使う。

7 ループリック

(1) 評価方法

- ・ **Final Draft** について，採点の基準に沿って評価を行う。主体的に学習に取り組む態度については，**First Draft**，**Final Draft** の比較，及び自己評価のコメントを参考とする。
- ・積極的に英語をたくさん「書く」ということを目標にしたいので，本来「書く」という領域については **accuracy** を重視したいところだが，文全体の構成として「伝わる英語」という点を重視する。

(2) 評価の領域（内容のまとめ）：「書くこと」

評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規準	<p><知識> 自分の意見，感想を伝えるために必要な文章構成や展開，表現を理解している。</p> <p><技能> 長崎のテーマについて，自分の意見や感想を文章の構成や展開を工夫して書く技能を身に付けている。</p>	<p>読み手によく理解してもらえるように，長崎のテーマについて学んだことを活用しながら，自分の意見や感想を，文章の構成や展開を工夫して複数の段落を用いて詳しく書いて伝えている。</p>	<p>読み手によく理解してもらえるように，長崎のテーマについて学んだことを活用しながら，自分の意見や感想を，文章の構成や展開を工夫して複数の段落を用いて詳しく書いて伝えようとしており，First Draft から Final Draft にかけて改善しようとしている。</p>
a (5点)	語句や表現の選択が非常に適切であり，理解しやすい英文を用いて書いている。	上記の条件を全て満たして書いている。	上記の条件を全て満たしている。
b (3点)	誤りが一部あるが，理解に支障のない程度の英文を用いて書いている。	上記の条件を二つ満たして書いている。	First Draft から Final Draft にかけて改善しようとしている。
c (1点)	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

※「おおむね満足できる」状況をbとする

8 実践報告

(1) 本校のBYODの現状

BYOD活用に向けての準備が進められているが，本校には全校でタブレット 80 台が設置されているのみである。よってBYOD回線を使用する際には，指導する教員の下，多くの生徒は自分自身のスマートフォンを使用する状況である。本校2年生においては，ロイロノートを用いてさまざまな学習や資料提供をしており，振り返りや授業アンケート，個人の記録を残すのにスマートフォンを利用することは以前よりも一般的になってきている。しかし，タブレットではないため，画面の小ささなど，スマートフォンにおける不都合を感じることもある。

(2) 計画

2年生全9クラス約360名（文系5クラス・理系4クラス）において実施する。計画については「5言語活動を中心とした指導と評価」に準ずる。

(3) 実践の目的設定とその過程

「1 はじめに」で記したように，いかに学年全体，他の教員を巻き込んで実践し，ルーブリックを作成していくかということが課題であった。学年全体で取り組むために，長期休業の時間，教科会の時間などを利用して，パフォーマンステストに向けての計画案を提示した。その結果，生徒の現状把握，学年のCAN-DOに基づき，目的を学年で話し合うことができた。また，ICT活用に積極的ではない教員もいたが，話し合いを重ねる中で，ロイロノートについて学び合う時間を長期休暇中にもつこともできた。以下が話し合いの中で設定した目的である。

- ① 生徒が書きやすい，また書きたくなる知識のある課題設定をして，間違いを恐れずに英語を積極的に書く姿勢を養う。
- ② パフォーマンステストを通じて表現する意欲を向上させる。

- ③ ICTを必要に応じて活用するが、ICTありきにならないように利便性を考えて計画する。また、ルーブリックについては評価の重点を絞り、それぞれの教員が評価しやすい形のものを作成する。

以上の三つをパフォーマンステストの計画、課題設定に反映させた。また、ルーブリック作成に以下のように反映させた。

- ① 課題設定を修学旅行に行く予定である「長崎」とした。総合的な探究の時間で学習したことなどの知識があり、また楽しみにしていることなので積極的に書きやすいことが想定される。語数に関してはCAN-DOに「100語程度のまとまった文章で書くことができる」のが第2学年の目標であったため、今回は2学期ということもあり、80語以上という設定にした。
- ② パフォーマンステストを行う過程で、書き直す機会・振り返る機会を与えることとした。**First Draft**を生徒同士でチェックし合うことで文章全体が他者に通じるか確認でき、書き直しの課題を見つける機会になると考えた。また、**First Draft**と**Final Draft**を比べることで、主体的に学習に取り組む態度についても評価できると考えた。
- ③ ロイロノートはテーマ設定の確認のみに使用し、課題の提出は紙で提出をさせることとした。また、ルーブリック作成において、本来「書く」という領域については **accuracy** を重視したいところだが、文全体の構成として「伝わる英語」という点を重視することとした。

(2) 実践の結果

夏休みの出校日に生徒に対してパフォーマンステストの流れを提示した(別紙1)。生徒にパフォーマンステストを意識させ、また趣旨から外れていないかをチェックするため、テーマとタイトルをロイロノートで送信させた。生徒も慣れてきていたのか提出する上で特に問題は起こらなかった。約40人のタイトルを一画面でチェックすることができ、訂正箇所があればすぐに送信できるので、紙よりも利便性は高かった。

First Draftを提出させたところで、各担当でどれくらいの仕上がりであるかをチェックして、書き直しの授業のポイントについて話し合う機会をもった。また、話し合いの中で、生徒に提示したルーブリックについても生徒の実情を踏まえた上で「思考・判断・表現」を改訂した方がよいという結論に至った。改訂に至った経緯については、生徒の**First Draft**や授業での活動を観察する中で「思考・判断・表現」のa評価の採点の基準が難しすぎるであろうと判断したためである。生徒に一部改訂した旨を伝え、書き直しの授業の自己評価からは改訂されたルーブリックを用いることとした。

書き直しの授業を当初、修学旅行後に計画していた。修学旅行で実際に行って感じたことも書き加えられ、さらに書きやすくなるだろうと考えたためである。しかし、コロナ禍のため修学旅行が1月に延期となったため、当初の計画とは変わり、12月の学年末考査後に行うこととした。授業1時間の中で、文章の構成、文をつなげる語句について解説をした。その後、生徒を4人ずつのグループに分け、お互いに読み合せ、意味が不明な箇所、間違っている箇所、難しい単語などに線を引かせ、グループ内で話し合いをさせた。かなり活発に意見交換をしている姿が見られ、授業の最後に書かせた**Self-evaluation sheet**(別紙2)にも書き直しへの意欲が書かれているものも多く見られた。ここに書かれた改善点や感想も「主体的に学習に取り組む態度」の評価の参考とすることを教員間で確認した。

Final Draftを各担当で採点する前に、念入りにルーブリックについての採点の基準の確認を行った。採点で迷うものがあれば、その都度確認を行うようにしたが、今回は文全体の構成として「伝わる英語」という点を重視するという点からあまり細かい文法やスペルミスにはこだわらないように

した。

授業にて生徒返却用最終評価表（別紙 3）を返却し、生徒振り返りシート（別紙 4）を記入させて回収した。

(3) 考察・分析

ア Self-evaluation sheet のコメントについて

多くのコメントが今後の課題を見つけ、Final Draft への書き直しへの意欲が見られた。以下が実際の生徒のコメントである。

- ・段落数を増やして、もっと分かりやすくまとめてもいいと思った。
- ・英文を調べてそのまま引用すれば大丈夫だろうと思ったが、難しい単語もあり、自分でも分からない表現もあるので、しっかり分かりやすい文にしていきたい。
- ・グループで回し読みをした結果、自分の文は感想だけになっていることに気が付いた。もっと紹介の内容や問いかけの文を入れたりして、表現を工夫したい。
- ・文章の量を増やしてはみたが、他の文章を読んで、もっとまとめて分かりやすい簡潔な文を目指していきたいと思った。
- ・代名詞や言い換えをうまく使うことができず、表現がくどい文章になってしまっていた。
- ・自分では通じると思っても、グループで読み回しすることで、客観的に読むと分かりづらいということが知れてよかった。
- ・他の文章を読んで、自分の課題はつながりの表現をうまく使っていくことだと分かった。
- ・構成や展開をあまり工夫できていなかったもので、きちんと考えて英文を作るようにする。
- ・グループのメンバーが指摘してくれた難しい単語を言い換えるようにするか、もしくはその後に説明を付けるようにしたい。
- ・グループのメンバーからの指摘や自分で評価から、単語の簡略化と構成の手直し（主題→例→結論）が必要だと分かった。

生徒のコメントの多くは表現に関するものが多かった。他の生徒の客観的な指摘や自己評価から多くの生徒が課題を見つける結果となった。ルーブリックの生徒への事前提示、書き直しにつながる生徒同士の意見交換、また自己評価の機会については生徒にとって効果が高いものであることが分かった。

イ Final Draft のルーブリックによる評価結果

以下は学年平均である。

知・技(5)	思・判・表(5)	主体的(5)	合計(15)
3.9	3.7	3.7	11.1

生徒個人の最高得点は3観点の合計15点、また、最低得点は3観点で合計3点であった。評価平均が高すぎたり、低すぎたりするのではないかと心配はしていたものの、結果は平均11.1点になった。語数が多ければいいという訳ではないが、80語以上という規定をほとんどの生徒が超えて仕上げてきた。当初学年で話し合った間違いを恐れずに英語を積極的に書く姿勢、表現する意欲を向上させるという目標設定を大方クリアする結果になったのではないかと思う。生徒の状況をパフォーマンステストの過程で見極めて、試行錯誤し、学年で話し合い、ルーブリックを柔軟に見直したことがこの結果につながったことが考えられる。

ウ 振り返りシートについて

振り返りシートの各質問に対する生徒の主な回答と、その分析を以下に示す。

○「今後の課題をクリアするために、あなたはどのようなことをしていくべきだと考えますか」

以下が生徒のコメントをまとめたものである。

- ・日々の授業を大切にすること。
- ・とにかく英単語力を付ける。
- ・英作文が出題されたときに諦めずに書く。
- ・英語表現の復習をしっかりとやる。
- ・新聞を読んで、自分の中の情報量を増やす。
- ・冬休みを利用して文法事項を復習する。
- ・関係代名詞を使って難しい単語の説明を加えられるようにする。
- ・接続詞の使い方をしっかりとできるように復習する。

パフォーマンステストを通して、生徒はやるべき身近な課題を発見することができたことがうかがえる。

○「今回のパフォーマンステストはよくできましたか。」

そう思う 4 3 2 1 そう思わない

4	3	2	1
31%	45%	21%	3%

そう思うが学年全体の76%となった。以下が主な理由である。

- ・書き直しの課題をクリアすることができたから。
- ・段落を意識して、自分の意見を伝わりやすいように書くことができたから。
- ・今まで習った文法、構文をしっかりと使えたから。
- ・自信はなかったが、評価が自分の思う以上のものであったため自信がもてたから。

そう思わない主な理由が以下である。

- ・まだ難しい単語を使ってしまい、簡単な語に変換できなかったから。
- ・文章に自分の意見をうまく入れることができなかったから。

○「今回のパフォーマンステストは難しかったですか。」

そう思う 4 3 2 1 そう思わない

4	3	2	1
22%	49%	26%	3%

「難しかった」と回答した生徒が71%となった。当初「長崎」について書くことは生徒にとって書きやすいテーマだと思って設定したが、多くの生徒は難しさを感じた結果となった。理由としては、自分の意見を書きにくかったということや上記の②の理由となったような根本的に英作文を書くことへの課題を書いたものが多かった。生徒へは英作文を書くに当たって、自分の結論を述べやすい話題を選ぶなど書く前からのテーマ設定が重要であるというアドバイスを行った。

(4) 成果と課題

今回の課題を実践する前に学年として、パフォーマンステストについての目標、目的、生徒の実状を話し合う機会をもつことができたのは大きな成果であった。協力をしてもらえるのか、協働的に行うことができるのかは不安であったが、実際には学年だけではなく、英語科全体でパフォーマンステストについて考えるきっかけとなった。また、本校のCAN-DOリストは2016年に作成されて以来そのままであったため、評価の根本であるCAN-DOリストの見直しにつなげることができた。

パフォーマンステストを行うに当たって大切なことは、生徒の実状をしっかりと把握し、明確な目標設定をすることだと痛感した。また、生徒を観察する中で作成したルーブリックを恐れずに改訂していくことも必要だということも分かった。

また、パフォーマンステストは生徒に定期考査とは違う緊張感や生徒がもっている能力を生徒自らが試行錯誤しながら発揮する効果が十分にある。生徒の能力向上は大いに期待できるが、ICTなどを効果的に活用することや工夫によって、さらに教員の負担を軽減しつつ実施されるものになっていくように研究をしていきたい。

9 参考文献

- ・文部科学省（2018）「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 外国語編 英語編」
- ・文部科学省 国立教育政策研究所（2019）「学習評価の在り方 ハンドブック 高等学校編」
- ・国立教育政策研究所（2021）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校外国語』
- ・愛知県総合教育センター（2017）『授業の手引 高等学校英語』

第 2 学年 2 学期英語パフォーマンステストについて（改訂版）

第 2 学年英語科

1. Writing テスト課題について

・ Writing

長崎のさまざまなテーマについて、文と文とのつながりを示す語句や理由を述べる表現を使用して、自分の考え、意見、感想を英語 80 語以上のまとまった文章を作成する（最低 80 語、それ以上書けばさらに評価の対象とします）。

2. テストに向けての日程（予定）

夏休みの間に長崎についてどのテーマで書くか、title は何にするか考えておく。

（書ける人は夏休み中に書いてもらって構いません）

注：夏課題の「NAGASAKI」や総合的な探究の時間で学んだことを参考にして、自分の考え、意見を述べられるテーマ設定をすること。単に紹介だけで終わらないようにする。

8月17日（火）～9月10日（金）までにテーマを決めて、文章の title をロイロノートにて担当へ送信。

9月17日（金）Writing テスト課題を用紙に書いて担当者へ提出。

9月下旬から10月上旬の授業にて writing 課題を 1 時間取り扱う。

10月15日（金）～11月8日（月）

書き直しを提出。担当者がループリックにて評価。

12月3日（金）Writing 課題を返却、振り返りを実施。

12月下旬 ロイロノートにて各自 Speaking 映像を提出。

3. 下書き用紙、テスト用紙、評価について

・ Draft（下書き用紙）で下書きをする

・ Writing test に清書して、9月17日（金）に提出

提出前の確認事項 クラス、番号、名前の記入

Total 字数の記入

references 参考資料の記入（例：NAGASAKI, 総探の資料、夏の課題図書など）

パフォーマンステスト

(1) 実施方法:

長崎のさまざまなテーマについて、文と文とのつながりを示す語句や理由を述べる表現を使用して、自分の考え、意見を英語 80 語以上のまとまった文章を作成する。

ルーブリック

(1) 評価方法: 「知識・技能」については、誤りが一部あるが、理解に支障のない程度の英文で書ければ「b」, 「思考・判断・表現」については、以下の三つの条件を満たしていれば「b」とする。

条件 1: 自分の意見、感想が明確に書かれており、その根拠となる理由、学んだ情報、参考資料を二つ以上挙げている。

条件 2: 文章構成や展開を工夫して、複数の段落から成る文章で書いて伝えている。

条件 3: 80 語以上で構成された文章で書かれている。

評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<p><知識></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の意見、感想を伝えるために必要な文章構成や展開、表現を理解している <p><技能></p> <ul style="list-style-type: none"> 長崎のテーマについて、自分の意見や感想を文章の構成や展開を工夫して書く技能を身に付けている。 	読み手によく理解してもらえるように、長崎のテーマについて学んだことを活用しながら、自分の意見や感想を、文章の構成や展開を工夫して複数の段落を用いて詳しく書いて伝えている。	読み手によく理解してもらえるように、長崎のテーマについて学んだことを活用しながら、自分の意見や感想を、文章の構成や展開を工夫して複数の段落を用いて詳しく書いて伝えようとしている。
a (5点)	語句や表現の選択が非常に適切であり、理解しやすい英文を用いて書いている。	上記の条件を満たした上で、自分の意見、感想を効果的に示す工夫をして書いている。	上記の条件を満たした上で、自分の意見、感想を効果的に示す工夫をして書こうとしている。
b (3点)	誤りが一部あるが、理解に支障のない程度の英文を用いて書いている。	上記の条件を全て満たして書いている。	上記の条件を全て満たして書こうとしている。
c (1点)	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

※「おおむね満足できる」状況を b とする。

Self-evaluation sheet

パフォーマンステスト

(1) 実施方法：

長崎のさまざまなテーマについて、文と文とのつながりを示す語句や理由を述べる表現を使用して、自分の考え、意見を英語 80 語以上のまとまった文章を作成する。

ルーブリック

(1) 評価方法：「知識・技能」については、誤りが一部あるが、理解に支障のない程度の英文で書けていれば「b」, 「思考・判断・表現」については、以下の三つの条件を満たしていれば「b」とする。

条件 1：自分の意見、感想が明確に書かれており、その根拠となる理由、学んだ情報、参考資料を二つ以上挙げている。

条件 2：文章構成や展開を工夫して、複数の段落から成る文章で書いて伝えている。

条件 3：80 語以上で構成された文章で書かれている。

評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<p><知識></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の意見、感想を伝えるために必要な文章構成や展開、表現を理解している <p><技能></p> <ul style="list-style-type: none"> 長崎のテーマについて、自分の意見や感想を文章の構成や展開を工夫して書く技能を身に付けている。 	読み手によく理解してもらえるように、長崎のテーマについて学んだことを活用しながら、自分の意見や感想を、文章の構成や展開を工夫して複数の段落を用いて詳しく書いて伝えている。	読み手によく理解してもらえようように、長崎のテーマについて学んだことを活用しながら、自分の意見や感想を、文章の構成や展開を工夫して複数の段落を用いて詳しく書いて伝えようとしている。
a (5点)	語句や表現の選択が非常に適切であり、理解しやすい英文を用いて書いている。	上記の条件を全て満たして書いている。	上記の条件を満たした上で、自分の意見、感想を効果的に示す工夫をして書こうとしている。
b (3点)	誤りが一部あるが、理解に支障のない程度の英文を用いて書いている。	上記の条件を二つ満たして書いている。	上記の条件を全て満たして書こうとしている。
c (1点)	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

※「おおむね満足できる」状況を b とする

★上記のルーブリックに従って、自己評価をしてみよう。下の表に○を付けて、合計得点を記入する。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a (5点)	5	5	5
b (3点)	3	3	3
c (1点)	1	1	1

Class

No.

Name

Score

★自己評価をした感想，反省，課題などを記入する。

Final evaluation of writing performance test

評価は○で囲んであります。その合計点が **Score** に示されています。

条件 1 : 自分の意見, 感想が明確に書かれており, その根拠となる理由, 学んだ情報, 参考資料を二つ以上挙げている。

条件 2 : 文章構成や展開を工夫して, 複数の段落から成る文章で書いて伝えている。

条件 3 : 80 語以上で構成された文章で書かれている。

評 価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<知識> ・自分の意見, 感想を伝えるために必要な文章構成や展開, 表現を理解している <技能> ・長崎のテーマについて, 自分の意見や感想を文章の構成や展開を工夫して書く技能を身に付けている。	読み手によく理解してもらえるように, 長崎のテーマについて学んだことを活用しながら, 自分の意見や感想を, 文章の構成や展開を工夫して複数の段落を用いて詳しく書いて伝えている。	読み手によく理解してもらえるように, 長崎のテーマについて学んだことを活用しながら, 自分の意見や感想を, 文章の構成や展開を工夫して複数の段落を用いて詳しく書いて伝えようとしており, First Draft と Final Draft に改善しようとしている。
a (5点)	語句や表現の選択が非常に適切であり, 理解しやすい英文を用いて書いている。	上記の条件を全て満たして書いている。	上記の条件を全て満たしている。
b (3点)	誤りが一部あるが, 理解に支障のない程度の英文を用いて書いている。	上記の条件を二つ満たして書いている。	First Draft と Final Draft に改善しようとする努力している。
c (1点)	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

※「おおむね満足できる」状況を b とする。

Score

Class No. Name

